Fukushimajoato1

# 福島城跡1

八女市役所新庁舎建設に伴う発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書　第 145 集

2025

八女市教育委員会

# 序

八女市では「ふるさとの恵みと誇りを未来につなぐ安心と成長のまち八女」の実現に向け、「第5次八女市総合計画」を策定しており、政策のひとつとして、「ふるさとを愛する人づくり」を掲げています。この中の基本目標のひとつとして、歴史的文化遺産の保存・活用が盛り込まれています。

八女市教育員会では、市内に多数存在する遺跡のうち、工事等で現地に遺すことが困難となった遺跡の発掘調査を実施しています。

今回の報告は、令和3年度の八女市役所新庁舎建設に伴い、八女市本町で実施した発掘調査について、報告するものです。新庁舎建設地は福島城の二ノ丸に位置する場所で、福島城は現在の八女市中心部の起源ともいえるお城です。これまで、福島城は本格的な発掘調査が行われず、本報告で実施した調査が最初となります。実態が不明瞭だった福島城の詳細を知る資料が今回の調査では得られ、大きな成果となりました。

この度の報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びに関係者の方々に感謝いたします。

令和7年3月31日

八女市教育委員会

教育長　橋　本　吉　史

例言

・本書は八女市教育委員会が令和3年度に実施した、八女市役所新庁舎建設に伴う発掘調査の報告書である。本書では、八女市本町所在の福島城跡第1次調査について報告する。
・本報告の発掘調査は、八女市役所の建て替えに伴い、新庁舎建設範囲の発掘調査を行ったものである。
・発掘作業は八女市教育委員会教育部文化振興課文化財係の檀佳克、木原尭、平俊隆が担当した。
・整理作業は令和4年度から令和6年度にかけて江頭俊介、木原、平が担当した。
・本書に掲載した発掘調査の記録写真は調査写真を木原が撮影し、一部を（有）空中写真企画に委託した。また、一部の写真は八女市新庁舎建設課から提供された。出土品の写真は令和6年度に永田寧・木原が撮影を行った。
・本書で使用した遺構実測図は現地調査時に（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部の遺構を現場担当者及び会計年度任用職員で作成した。
・本書掲載の遺物実測図は令和5年度に（株）イビソクに一部を委託し、令和5年度から6年度にかけて八女市文化財整理室で作成した。
・本書掲載の篠山神社蔵『福島古城』は公益財団法人有馬記念館保存会・久留米市市民文化部文化財保護課の協力を得て、江頭・木原が撮影した写真を加工したものである。
・本書の遺構実測図で使用する方位は、座標北である。なお、発掘調査の測量基準点の設置は（株）大成ジオテックに業務委託した。
・本書に使用する土色名は『新版標準土色帖』（農林水産省技術会議事務局監修）を使用した。
・本書で使用する遺構の略記号は、SA：柵列、SB：掘立柱建物、SD：溝状遺構、SE：井戸、SK：土坑、P：ピットである。
・本書で使用する伝福島城出土鯱瓦は（株）オーク製 Agisoft Metashape と（株）CUBIC 製測量ソフト「いこう君」を使用し江頭・木原が作成した。
・本書の執筆・編集は木原が行った。
・発掘調査時の現場図面・写真等の記録類および出土遺物は八女市教育委員会で保管している。
・発掘調査および本書執筆に伴い下記の方々にご指導ご協力いただきました。この場を借りて謝辞を申し上げます。（敬称略）
発掘調査時：大庭孝夫（福岡県文化財保護課）、岡寺　良（福岡県立アジア文化交流センター）、古賀正美（八女市文化財専門委員）
整理作業時：令和5年度第2回八女市文化財専門委員会、宮崎博司（佐賀県立名護屋城博物館）、穴井綾香・水原道範・石橋久美子（久留米市市民文化部文化財保護課）

目次

1.はじめに……1
(1)調査に至る経緯 ……1
(2)調査体制 ……1
2.位置と環境 ……7
3.発掘調査の記録 ……10
(1)調査の概要……10
(2)検出遺構と遺物……10
4.まとめ ……49
(1)各遺構の時期について……49
(2)特筆すべき遺構・遺物 ……49
(3)肥前名護屋城出土の瓦と福島城1次調査出土瓦の比較 ……49
(4)福島城について……52
5.伝福島城出土の鯱瓦について ……53

挿図目次

第1図　福島城跡位置図〔1/1,250,000〕……1
第2図　福島城周辺近世城郭位置図〔1/200,000〕……3
第3図　福島城跡第1次調査及び周辺遺跡発掘調査区域図〔1/25,000〕……4
第4図　篠山神社蔵『福島古城』調査区位置図 ……5
第5図　福島城跡第1次調査調査区位置図〔1/2,500〕 ……6
第6図　福島城跡第1次調査遺構配置図〔1/400〕 ……8
第7図　SD01土層図〔1/80〕 ……10
第8図　SD02土層図〔1/80〕 ……11
第9図　SD03土層図〔1/80〕 ……11
第10図　SD01、SD02、SD03出土遺物実測図〔1/4〕……13
第11図　SD01撹乱出土遺物実測図〔1/4〕……14
第12図　SE01実測図〔1/40〕 ……15
第13図　SE01出土遺物実測図〔1/4〕……16
第14図　SK01・SK02実測図〔1/40〕……17
第15図　SK01出土遺物実測図〔1/4〕……18
第16図　SK02出土遺物実測図〔1/4(9と10は1/1)〕……19
第17図　SK03実測図〔1/40〕 ……20
第18図～第29図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕……21～32
第30図　SK07実測図〔1/40〕 ……33
第31図　SK08実測図〔1/40〕 ……33
第32図　SK16実測図〔1/40〕 ……33
第33図　SK08出土遺物実測図〔1/8〕……34
第34図　SK11出土遺物実測図〔1/4〕……35
第35図　SK12・SK19出土遺物実測図〔1/1〕 ……35
第36図・第37図　SK15出土遺物実測図〔1/4〕 ……36・37

第38図　SK18出土遺物実測図〔1/4〕……38
第39図　SK23出土遺物実測図〔1/4〕……39
第40図　SX01・ピット・包含層出土遺物実測図〔1/4〕……40
第41図　表土出土遺物実測図〔1/4〕 ……41
第42図　明治時代の福島城周辺図〔1/20,000〕 ……50
第43図　福島城濠復元推定図(昭和4年)……50
第44図　福島城濠復元推定図(昭和9年)……51
第45図　福島城下町空間復元図 ……51
第46図　福島町周辺上空写真(1947年アメリカ軍撮影) ……52
第47図　伝福島城出土鯱瓦 ……54

表目次

第1表　福島城関係年表 ……9
第2表　福島城跡第1次調査出土遺物観察表 ……43～48

図版目次

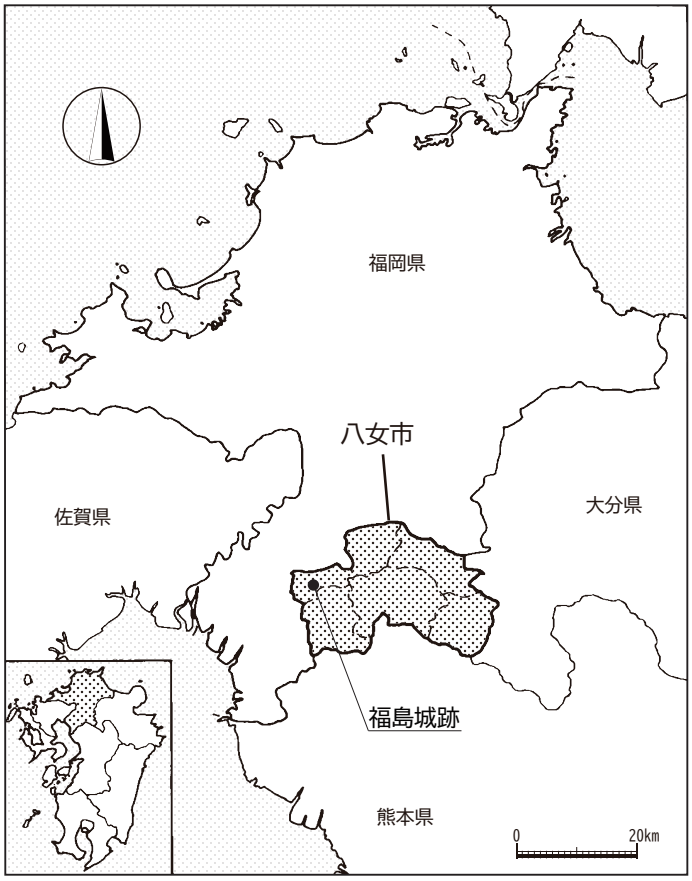
図版1～図版7　福島城跡第1次調査……57～63
図版8～図版30 福島城跡1次調査出土遺物……63～88

# 1 はじめに

## (1)調査に至る経緯

福島城跡第1次調査は、令和3年度の八女市役所新庁舎建設に伴い、現地保存が困難となった埋蔵文化財について、記録保存を行ったものである。

本調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「福島城跡」であり、八女市本町647番地について、令和3年9月16日に八女市長三田村統之名義で八女市新庁舎建設課から文化振興課へ埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第94条）があった。先行して令和元年7月に当時の駐車場部分で確認調査を行っており、その結果、埋蔵文化財が確認されていた。新庁舎建設課との協議の結果、埋蔵文化財の現地保存が困難であることから、八女市教育委員会は、令和3年10月21日に文化財保護法第99条第1項に基づく発掘調査の報告を福岡県教育委員会に提出した。



第1図　福島城跡位置図〔1/1,250,000〕

令和3年12月1日から令和4年2月18日にかけて調査地において現地調査に着手した。調査面積は対象面積18,806㎡のうち、新庁舎の建設が予定されている約3,480㎡である。

出土遺物はパンコンテナー23箱であった。令和4年度から令和6年度にかけて整理作業を実施し、遺物実測図の作成、遺物写真の撮影、報告書の執筆および刊行を行った。

## (2)調査体制

【令和3年度】（現地作業）

事業主体　八女市教育委員会

| | | |
|---|---|---|
| | 教育長 | 橋　本　吉　史 |
| 教育部 | 部長 | 原　　信　也 |
| 文化振興課 | 課長 | 鵜　木　英　希 |
| | 課長補佐兼文化振興係長 | 森　田　尚　美 |
| 文化財係 | 参事補佐兼文化財係長 | |
| | 兼歴史文化交流館係長 | 片　山　あづさ（総括・事務担当） |
| | 係員 | 檀　　佳　克（調査担当） |
| | | 甲　斐　　郁 |
| | | 木　原　　尭（調査担当） |
| | 会計年度任用職員 | 平　　俊　隆（調査担当） |
| | | 吉　田　ゆかり |

【令和4年度】（整理作業）

事業主体　八女市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 教育長 | 橋　本　吉　史 | |
| 教育部 | 部長 | 平　　武　文 | |
| 文化振興課 | 課長 | 鵜　木　英　希 | |
| | 課長補佐兼文化振興係長 | 森　田　尚　美 | |
| 文化財係 | 参事補佐兼文化財係長 | | |
| | 兼歴史文化交流館係長 | 片　山　あづさ（総括・事務担当） | |
| | 主任 | 永　田　　寧 | |
| | 係員 | 檀　　佳　克 | |
| | | 江　頭　俊　介（整理作業担当） | |
| | | 甲　斐　　郁 | |
| | | 木　原　　尭（整理作業担当） | |
| | 会計年度任用職員 | 平　　俊　隆 | 平　島　昌　美 |
| | | 吉　田　ゆかり | 赤　司　桃　子 |

【令和5年度】（整理作業）

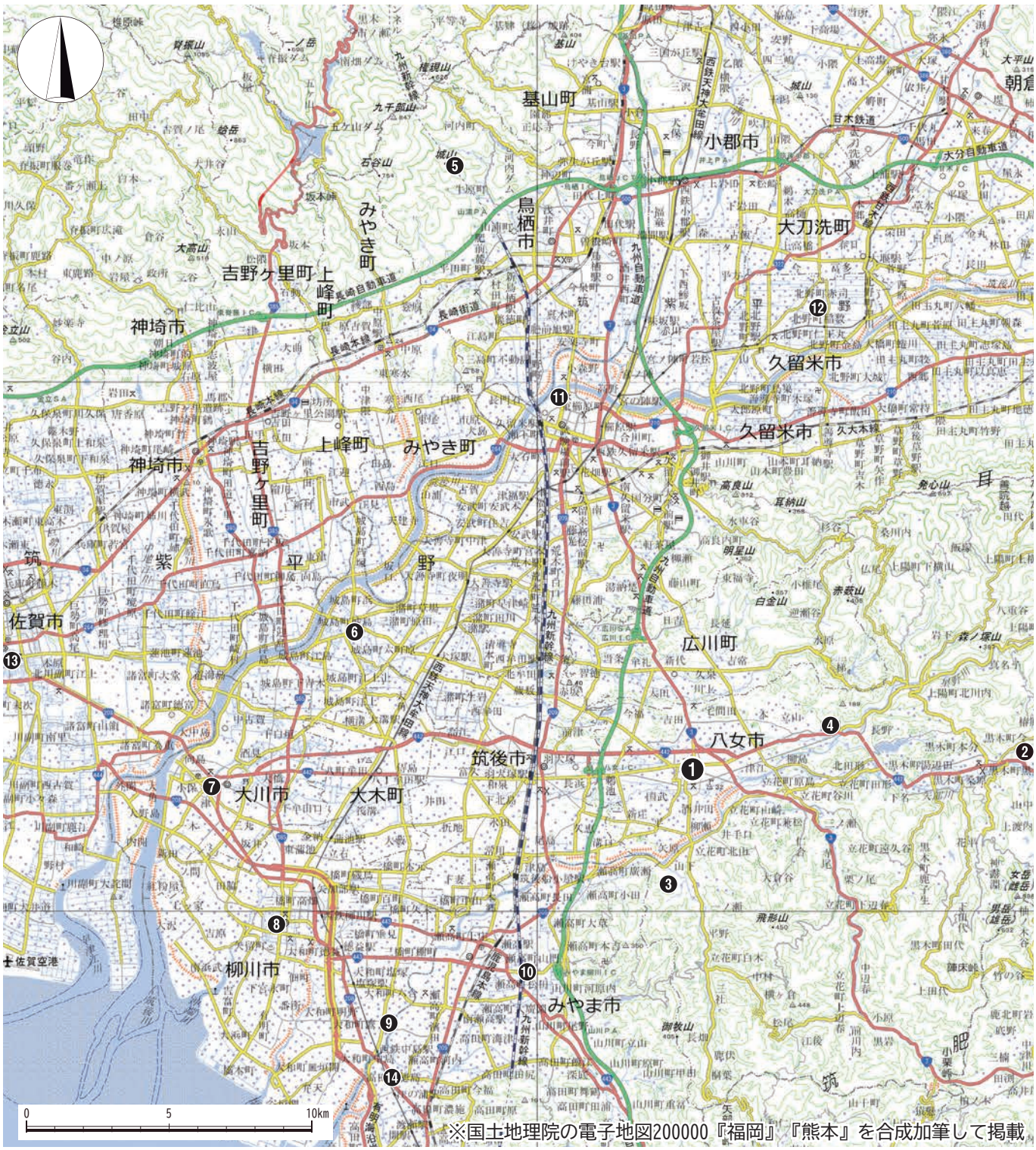
事業主体　八女市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 教育長 | 橋　本　吉　史 | |
| 教育部 | 部長 | 平　　武　文 | |
| 文化振興課 | 課長 | 鵜　木　英　希 | |
| 文化財係 | 課長補佐兼文化財係長 | 片　山　あづさ（総括・事務担当） | |
| | 主任 | 永　田　　寧 | |
| | 係員 | 江　頭　俊　介 | 甲　斐　　郁 |
| | | 鹿子生　秀　大 | 木　原　　尭（整理作業担当） |
| | 会計年度任用職員 | 平　　俊　隆 | 平　島　昌　美 |
| | | 赤　司　桃　子 | |

【令和6年度】（整理作業）

事業主体　八女市教育委員会

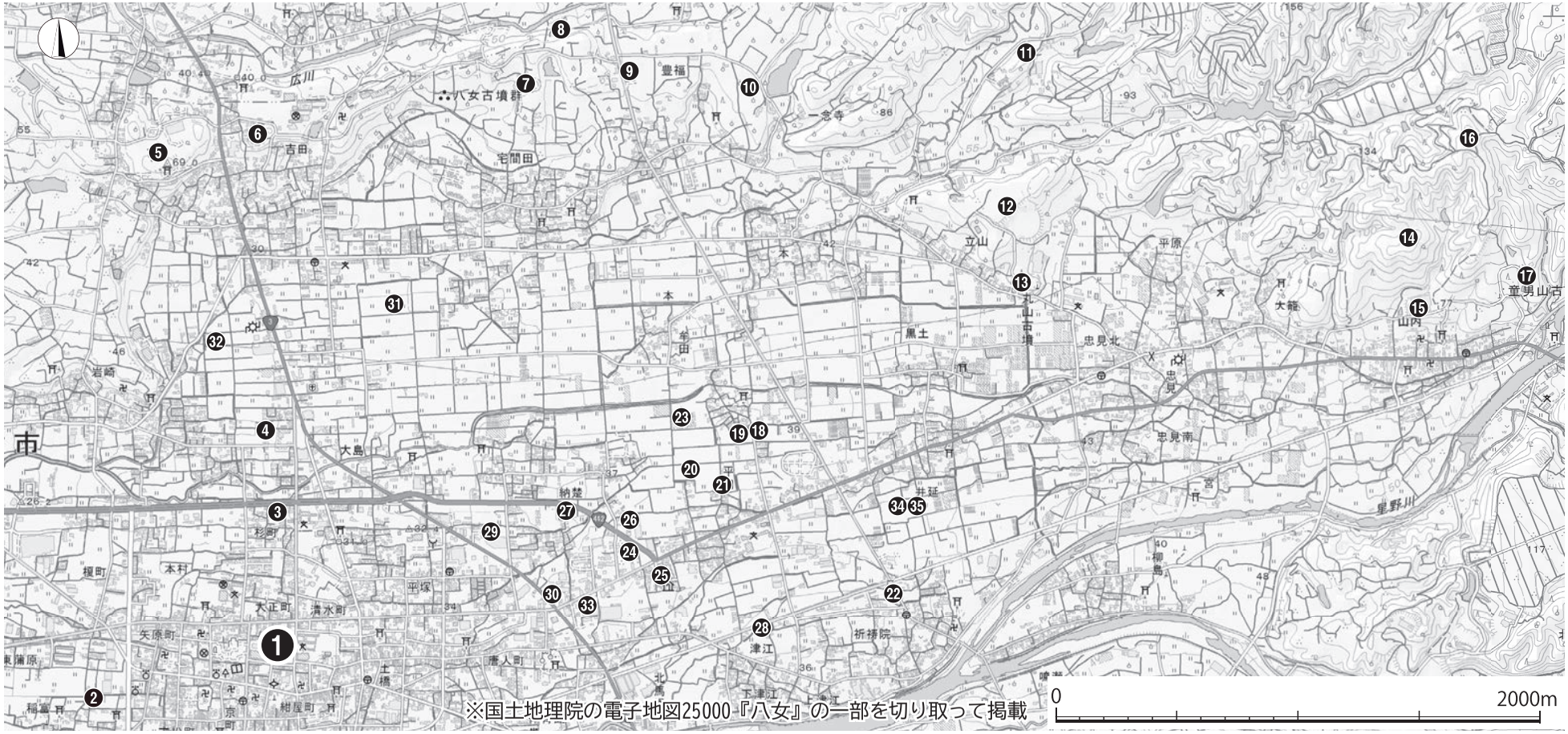
| | | | |
|---|---|---|---|
| | 教育長 | 橋　本　吉　史 | |
| 教育部 | 部長 | 牛　島　新　五 | |
| 文化振興課 | 課長 | 片　山　あづさ | |
| 文化財係 | 文化財係長 | 江　頭　俊　介 | |
| | 主任 | 永　田　　寧 | |
| | 係員 | 甲　斐　　郁 | |
| | | 木　原　　尭（整理作業担当・報告書執筆） | |
| | | 久　間　政　幸 | 鹿子生　秀　大 |
| | 会計年度任用職員 | 平　　俊　隆 | 平　島　昌　美 |




※国土地理院の電子地図200000『福岡』『熊本』を合成加筆して掲載

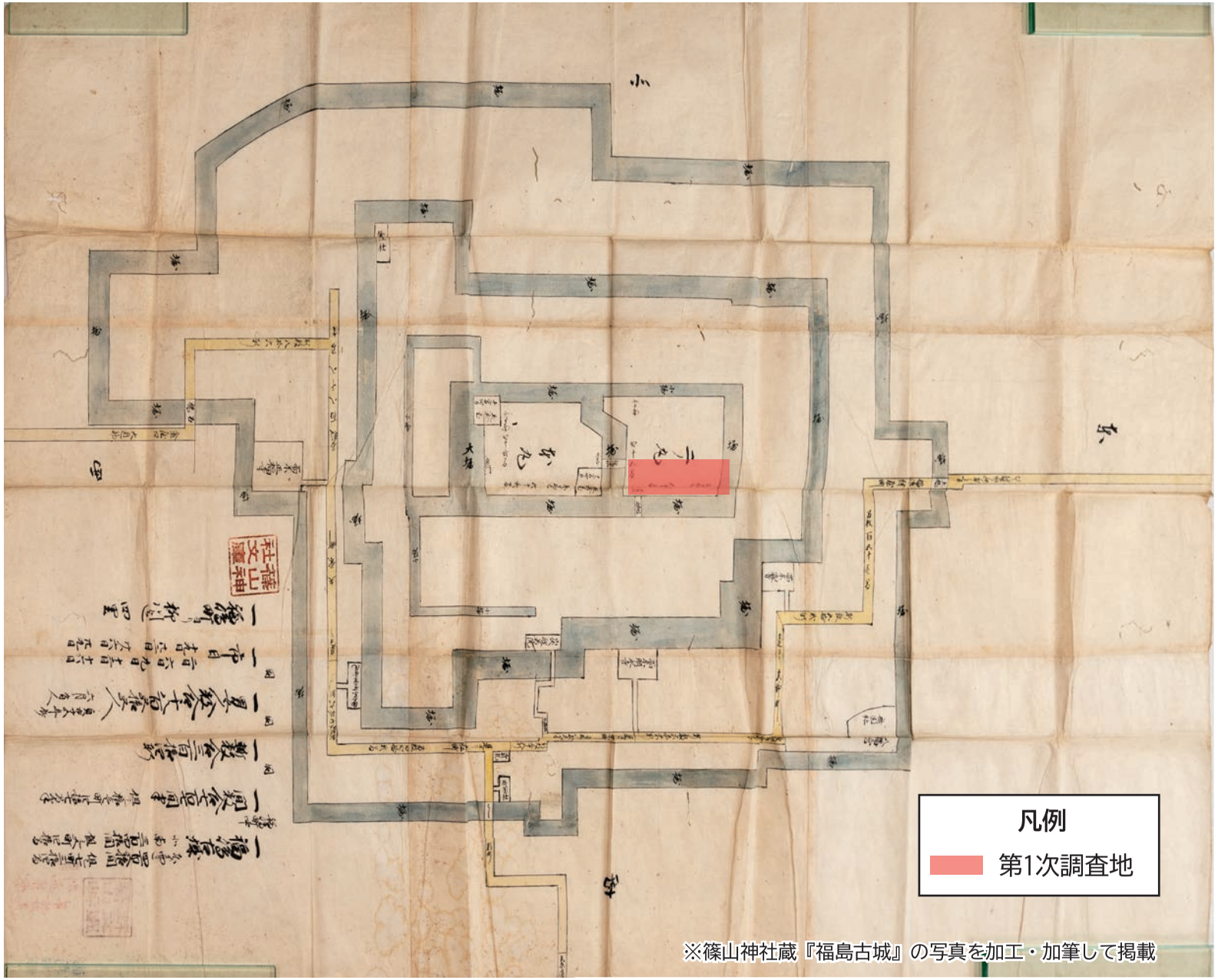
1．福島城　2．猫尾城　3．山下城　4．河崎町　5．勝尾城　6．城島城
7．榎津城　8．柳川城　9．鷹尾城（柳川市）10．松延城　11．久留米城　12．赤司城
13．佐賀城　14．江浦城

第2図　福島城周辺近世城郭位置図〔1/200,000〕

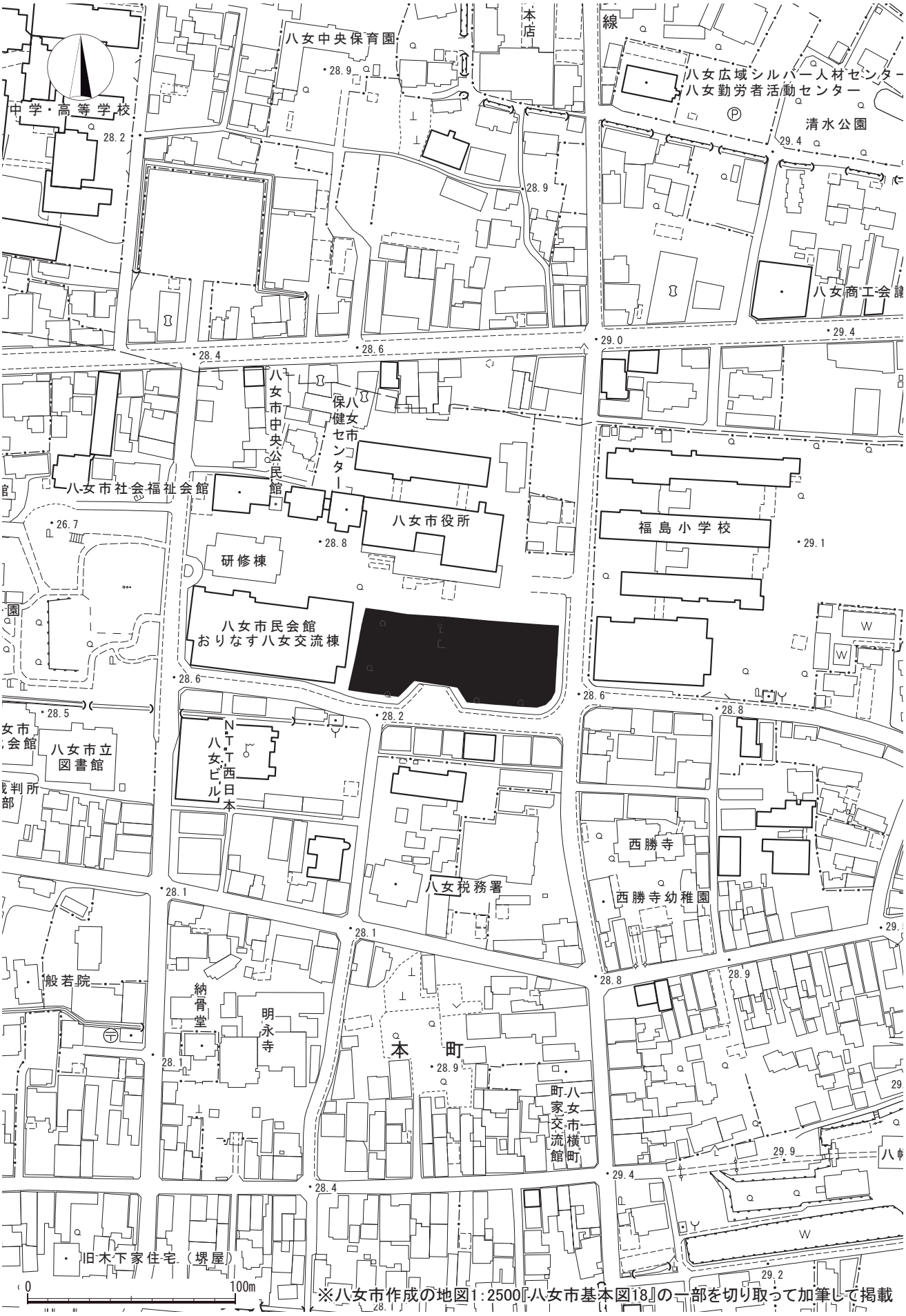



1．**福島城跡**　2．稲富六反田遺跡　3．本村杉町遺跡　4．本村溝狭間遺跡　5．岩戸山古墳　6．乗場古墳　7．丸山塚古墳　8．茶臼塚古墳
9．鶴見山古墳　10．釘崎２号墳　11．中尾谷窯跡群　12．立山山古墳群　13．丸山古墳　14．鷹尾城跡（八女市）　15．東館遺跡　16．犬尾城跡
17．童男山古墳群　18．平田楽田遺跡　19．平田僧津町遺跡　20．平田六反田遺跡　21．平田北ノ前遺跡　22．祈祷院小石原遺跡　23．西原遺跡　24．納楚柳遺跡
25．納楚高島遺跡　26．納楚船底遺跡　27．納楚楠町遺跡　28．津江八升町遺跡　29．万上田遺跡　30．赤氏遺跡　31．道手遺跡　32．美男川遺跡
33．納楚熊野遺跡

第3図　福島城跡第1次調査及び周辺遺跡発掘調査区域図〔1/25,000〕




第4図　篠山神社蔵『福島古城』調査区位置図




第5図　福島城跡1次調査区位置図〔1/2,500〕

## 2 位置と環境

八女市は、福岡県の最南部に位置し、北は久留米市、八女郡広川町、うきは市に接し、西は筑後市、みやま市に接し、南は熊本県、東は大分県に接する。

地形を見ると、八女市は北の耳納山地、東は釈迦岳山地、南は筑肥山地に囲まれ、市域の東西に一級河川の矢部川が流れる。矢部川の上流域は山地であり、市街地が中流域の扇状地上に広がる。

福島城跡は八女市街の中心部に位置し、標高29.9mである。周辺では試掘確認調査等は行われているものの、本格的な発掘調査はこれまで行われていない。

福島城築城の契機は、筑紫広門の上妻郡領有である。天正15（1587）年、豊臣秀吉は「太閤国割」を行い、九州の大名配置を行った。この際、上妻郡の53村18,000石が筑紫広門に与えられた。上妻郡入郡当初、広門は八女市立花町北山に所在する山城で空城になっていた山下城を居城とした。『筑後秘鑑』によると、天正15（1587）年に筑紫広門は福島に舘を築いたとされ、その後山下城から福島城に移った（福岡縣八女郡役所1917）。

矢野一貞の『歴世古文書』によると天正16（1588）年、広門は「河崎町たて」を行い、「八町嶋別当」を招いて「市まつり」を行うことを計画したことが確認されている（八女市教育委員会1998）。文禄元（1592）年から始まった文禄・慶長の役では筑紫広門も900人を引き連れ出陣しており（八女市史編さん委員会1992）、肥前名護屋城周辺の陣跡の一つに筑紫広門の陣跡が存在する。

慶長5（1600）年、関ヶ原の戦い後、西軍方についていた筑紫広門と柳川城の立花宗茂は改易となり、筑後一国の領主として石田三成捕縛の功績があった田中吉政が三河国岡崎城から入り、柳河藩が成立した。田中吉政は柳川城を居城と定め、柳川城の大改修を行った。田中吉政は筑後国内の秀吉配置の旧大名の城や旧在地土豪の古城の内、領内統治に必要な城は柳川城の支城として修造を加え、一族や重臣を配置した。毛利氏居城であった久留米城には次男の田中則政、筑紫広門が築造した福島城は三男の田中康政、秋月氏の支城であった赤司城には弟の田中清正、立花氏の支城であった松延城には小早川氏の元重臣である松野主馬、同じく立花氏の支城であった鷹尾城には家臣の宮川才兵衛、同じく立花氏の支城であった城島城は家臣の宮川讃岐、同じく立花氏の支城であった榎津城は寄合組頭の榎津加賀右衛門、黒木氏の居城であった猫尾城には家臣の辻勘兵衛、高橋氏の居城であった江浦城には家臣の田中主水正を配した（久留米市史編さん委員会1982・福岡県教育委員会2017）。前述のとおり、これらの城には修築の手が加えられたが、特に福島城に関しては大規模な改修が行われた。新たに本丸と二ノ丸を築き、多聞櫓を修築し、堀を深くし、築地を高くし、要害を堅固にした。また、改修の際に童男山古墳の石材や岩戸山古墳の石人石馬が使用された（久留米市史編さん委員会1982）。

寛延期の久留米藩の庄屋が書いた『古社・古城跡・古墳等書付』によると、田中康政入城の際に、城付近にあった福島村と稲富村の氏神八幡宮が村堺の地から移され土橋八幡宮になったこと、筑紫広門が寄進し城地に存在した堀江神社が松原に移されたこと、酒井田の光明寺（無量寿院）が西古松町に移されたことが記載されている（八女市教育委員会1998）。

慶長14（1609）年に田中吉政が病没し、田中忠政が2代目藩主となった。元和元（1615）年の大阪の陣後、一国一城令が発せられ、福島城は破却されたと考えらえる。その後、元和6（1620）年田中忠政が後継ぎがないまま病没したため、田中家は改易となった（久留米市史編さん委員会1982）。

田中家改易後、筑後国は約半年幕領となり、岡田善同、松倉重政、竹中重義の3人が代官となった（八女市史編さん委員会1992）。

元和6（1620）年に立花宗茂と有馬豊氏が筑後に入り、それぞれ、柳川城と久留米城を居城とし、矢部

第6図　福島城跡第1次調査遺構配置図〔1/400〕

川を挟んで南側が柳河藩、北側が久留米藩となった。

有馬豊氏は入国後、一国一城令により廃城となった久留米城を修築し、その際、福島城の用材が転用された（八女市教育委員会1998）。福島城の城下町として整備された福島町は在方町となり、伝統的建造物群保存地区八女・福島としてその様相を今に伝えている。

明治時代に入ると明治11（1878）年に郡区町村編成法、府県会規則、地方税規則が交付され、上妻郡と下妻郡を統括する上妻下妻郡役所が設置され、明治29（1896）年に上妻下妻郡役所を合併し、八女郡役所が旧福島城内の宮野町に設置された。周辺には警察署、裁判所、税務署が設置されていった。二ノ丸跡地には明治35（1902）年以降八女郡立福島農業学校の校舎が建設された（八女市史編さん委員会1992）。

大正時代の大正2（1913）年二ノ丸跡地に八女郡立福島農業学校と校舎の位置転換をする形で八女郡立八女技芸女学校が設置され、大正14（1925）年に福岡県八女高等女学校となる。昭和23（1948）年福岡県立福島高等学校となり、昭和33（1958）年に八女市吉田に移転するまで校舎が存在した。高校跡地に市役所が移転し、昭和45（1970）年に旧庁舎が完成した（八女市史編さん委員会1992）。

【参考文献】

久留米市史編さん委員会1982『久留米市史第2巻』久留米市

福岡縣八女郡役所1917『稿本八女郡史』福岡縣八女郡役所

福岡県教育委員会2017『福岡県の中近世城館跡Ⅳ－筑後地域・総括編－』福岡県文化財調査報告書第260集

八女市教育委員会1998『八女福島』八女市教育委員会

八女市史編さん委員会1992『八女市史上巻』八女市

八女市史編さん委員会1992『八女市史下巻』八女市

第1表　福島城関係年表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 天正15年 | 1587 | 豊臣秀吉による太閤国割 | | |
| | | 筑紫広門が山下城に入城 | | |
| | | 筑紫広門が福島に舘を築城し、山下城から移る | ↕ | 筑紫期福島城 |
| 天正16年 | 1588 | 筑紫広門が「河崎町たて」を行う | | |
| 文禄元年 | 1592 | 文禄・慶長の役に筑紫広門出兵 | | |
| 慶長３年 | 1598 | | | |
| 慶長５年 | 1600 | 関ヶ原の戦い | | |
| | | 筑紫広門改易 | | |
| 慶長６年 | 1601 | 田中吉政が柳河藩主として柳川城に入城 | ↕ | 田中期福島城 |
| | | 田中吉政、福島城の大改修を行い、三男康政を城主とする | | |
| 慶長14年 | 1609 | 田中吉政没、四男の忠政が藩主の座を引き継ぐ | | |
| 元和元年 | 1615 | 大阪の陣 | | |
| | | 一国一城令が発布される | | |
| | | 福島城が廃城となる | | |
| 元和６年 | 1620 | 田中忠政没、後継者不在のため、田中家改易 | | |

# 3 発掘調査の記録

## (1)調査の概要

福島城跡の調査では、まず、調査区北側を排水溝として重機で掘削した。その後、調査区西側から重機よる表土除去を行い、表土除去が東側に差しかかった段階で、発掘作業員を投入し、人力で遺構検出を行い、一部の遺構の掘削を行った。遺構実測図は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、空撮は有限会社空中写真企画に委託した。並行して出土遺物の取り上げ、現場写真撮影を実施した。撮影機材はニコンデジタルカメラD850である。調査終了後、重機による調査区埋め戻しを行い、新庁舎建設課への引き渡しを行った。

本遺跡の基本層序は地表下約0.2mまでが現表土層である。現表土層の下、地表下約0.6mまでが盛土層である。盛土層の下、約1.3mまで近世整地層である。近世整地層の直下で暗褐色粘質土の自然堆積層を検出した。暗褐色粘質土の上面で遺構検出を行った。

調査の結果、検出した遺構は柵列5列、掘立柱建物2棟、溝状遺構5条、井戸1基、土坑20基、近世整地層1基、ピット群であった。遺物はパンコンテナー23箱分出土した。大半の遺構は時間の制約上掘削ができていない。

## (2)検出遺構と遺物

### 柵列

#### 1号柵列(SA01)（第6図　図版4）

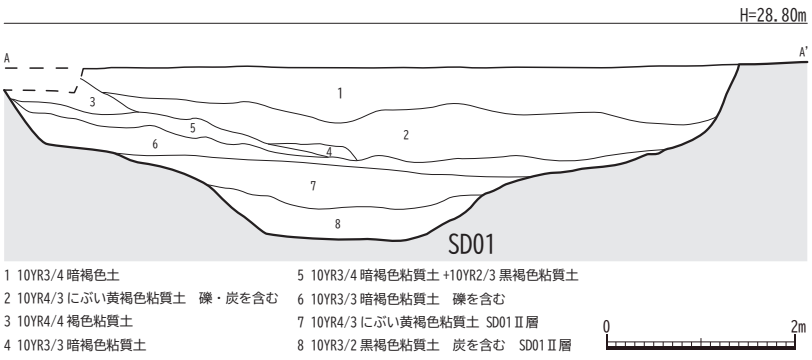
調査区中央北側で検出した遺構である。南-北方向にピットが4基並ぶ。軸はN－4°－Eである。掘削を行っていないので遺物の出土はないが、SD02と平行しており、同時期と思われる。

#### 2号柵列(SA02)（第6図　図版4）

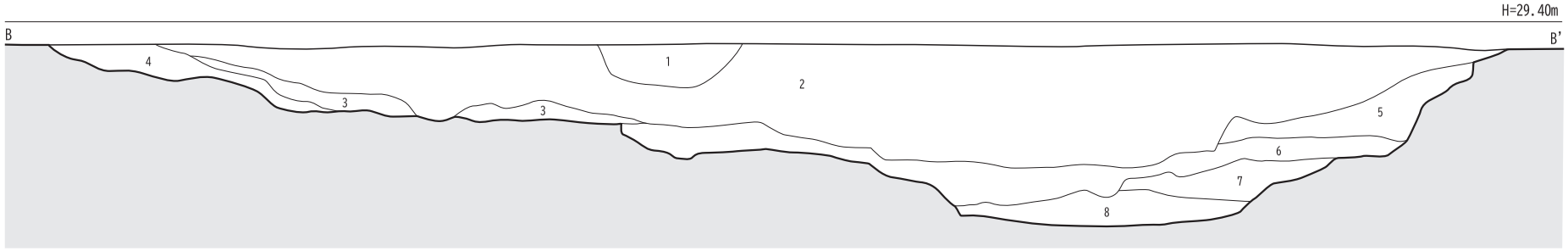
調査区中央南側で検出した遺構である。東-西方向にピットが5基並ぶ。軸はN－83.5°－Wである。未掘削のため、遺物の出土はない。

#### 3号柵列(SA03)（第6図　図版4）

調査区東側中央部で検出した遺構である。南-北方向にピットが4基並ぶ。軸はN－7.5°－Eである。未掘削のため、遺物の出土はないが、SA04、SA05と平行するため、同時期と思われる。

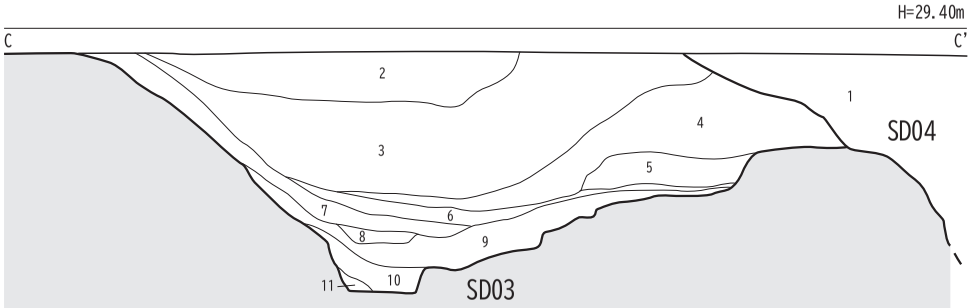



第7図　SD01土層図〔1/80〕




1 10YR5/4 にぶい黄褐色土　礫を含む
2 10YR4/4 褐色土　礫を含む
3 10YR4/4 褐色粘質土
4 10YR4/4 褐色土
5 10YR5/4 にぶい黄褐色土　礫を含む
6 10YR4/2 灰黄褐色土
7 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土
8 2.5Y3/1 黒褐色粘質土

第8図　SD02土層図〔1/80〕




1 7.5Y3/1 黒褐色粘質土　SD04
2 10YR4/6 褐色土
3 10YR4/4 褐色土
4 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土　礫を含む
5 10YR5/6 黄褐色土
6 10YR3/3 暗褐色粘質土
7 10YR4/4 褐色粘質土
8 10YR2/3 黒褐色粘質土
9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
10 10YR3/4 暗褐色粘質土　礫を含む
11 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土

第9図　SD03土層図〔1/80〕

4号柵列(SA04)（第6図　図版4）

調査区東側中央部で検出した遺構である。南-北方向にピットが6基並ぶ。軸はN－6°－Eである。未掘削のため、遺物の出土はないが、SA03、SA05と平行するため、同時期と思われる。

5号柵列(SA05)（第6図　図版4）

調査区東側中央部で検出した遺構である。南-北方向にピットが7基並ぶ。軸はN－7.5°－Eである。未掘削のため、遺物の出土はないが、SA03、SA04と平行するため、同時期と思われる。

掘立柱建物

1号掘立柱建物(SB01)（第6図　図版4）

調査区東側中央部で検出した遺構であり、SD01・SD02に挟まれた区画に位置している。桁行3間、梁間2間で床面積は約34.9㎡である。長軸はN－84.5°－Eである。写真撮影のため、埋土を10cmほど掘削した。埋土内に須恵器片・陶器片が入っていた。

2号掘立柱建物(SB02)（第6図　図版4）

調査区中央部南側で検出した遺構である。SK04とカクランに切られる。軸はN－3.5°－Eである。掘立柱建物としたが、西側北端のピットが他と比べて極めて小さいため、図ではピット径がほぼ同じで確実なもののみ実線でつなげている。写真撮影のため、埋土を10cmほど掘削した。遺物は土師器片、粘土塊が出土した。

溝状遺構

1号溝状遺構(SD01)（第6・7図　図版2・4・5）

調査区東側を南西―北東方向に延びる溝状遺構である。南側および北側ともに調査区外へ延びる。幅7.8m、深さ1.8mで、Ⅰ層とⅡ層に分かれる。第7図1～6層がⅠ層、7・8層がⅡ層である。Ⅰ層の断面は逆台形、Ⅱ層の断面はV字形に近い形状を呈する。コンクリートの基礎により北側と南西側が切られる。Ⅰ層・Ⅱ層ともに軸はN－13°－Eである。出土遺物はⅡ層が土師器の坏・小皿・土錘、須恵器片、陶器の壺・鉢、青磁碗、白磁碗、砥石、木器であり、Ⅰ層が土師器の土鍋、須恵器片、瓦器碗片、青磁碗、石鍋が出土した。

SD01Ⅱ層出土遺物（第10図　図版8～11）

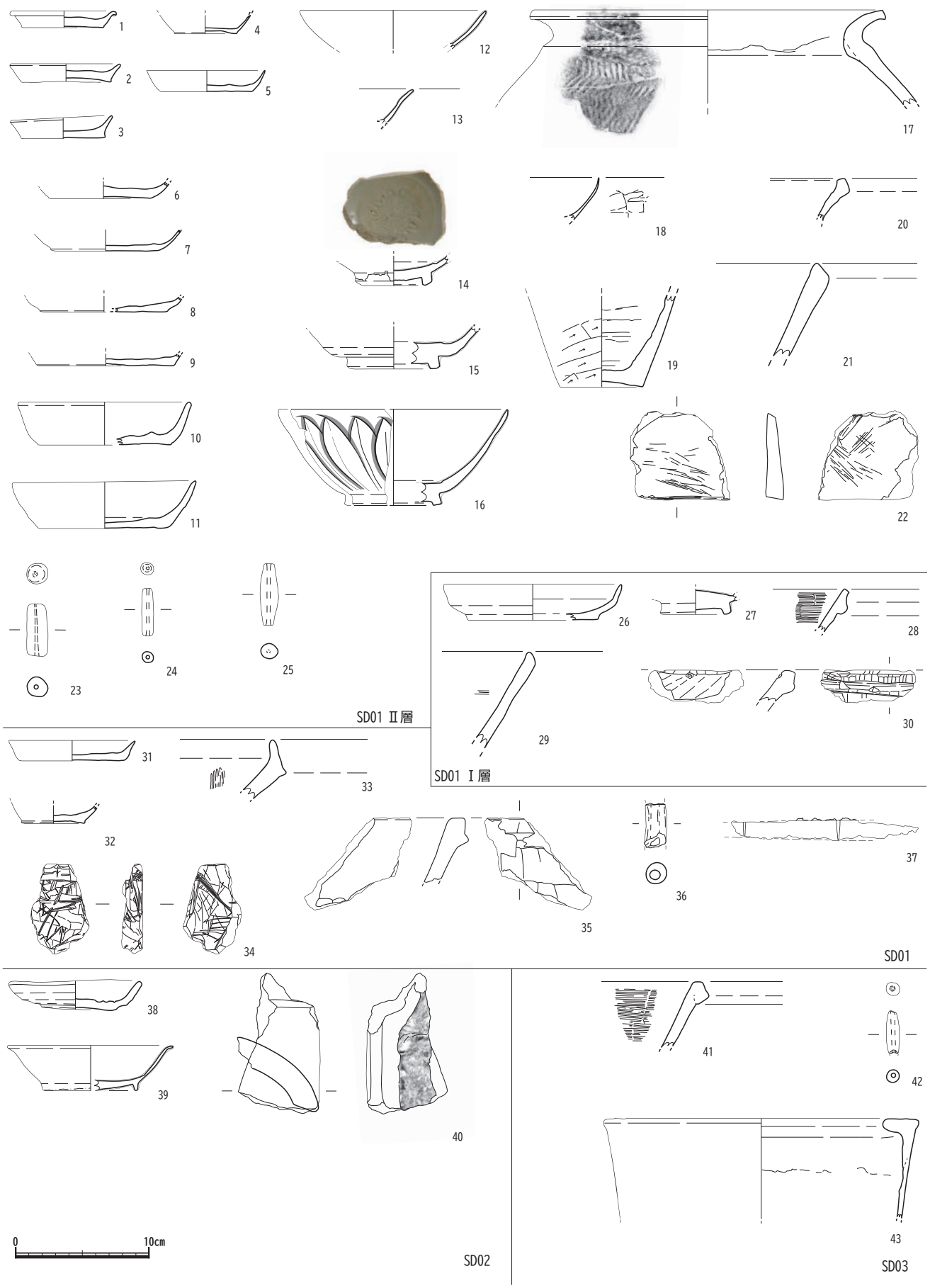
1～11は土師器である。1～3が小皿、4・5が小坏、6～11は坏である。すべて底部糸切である。12は青花碗の口縁部である。混ざりこみと思われる。13・14は白磁碗のⅨ類である。14は見込に花がある。15は青磁碗ⅢⅠA類の底部である。16は龍泉窯系の青磁碗である。17は須恵器の甕の口縁部片である。摩滅が著しい。18は瓦器碗の口縁部片、19は陶器の壺の底部である。20は陶器の鉢の口縁部片で玉縁口縁である。21は東播系須恵器のすり鉢の口縁部である。22は砂岩製の砥石、23～25は土錘である。

SD01Ⅰ層出土遺物（第10図　図版11）

26は土師器の坏で底部糸切。27は龍泉窯系青磁碗のⅠ類の底部片、28は土師器の土鍋、30は滑石製石鍋の口縁部片でススが付着する。29は陶器の鉢である。

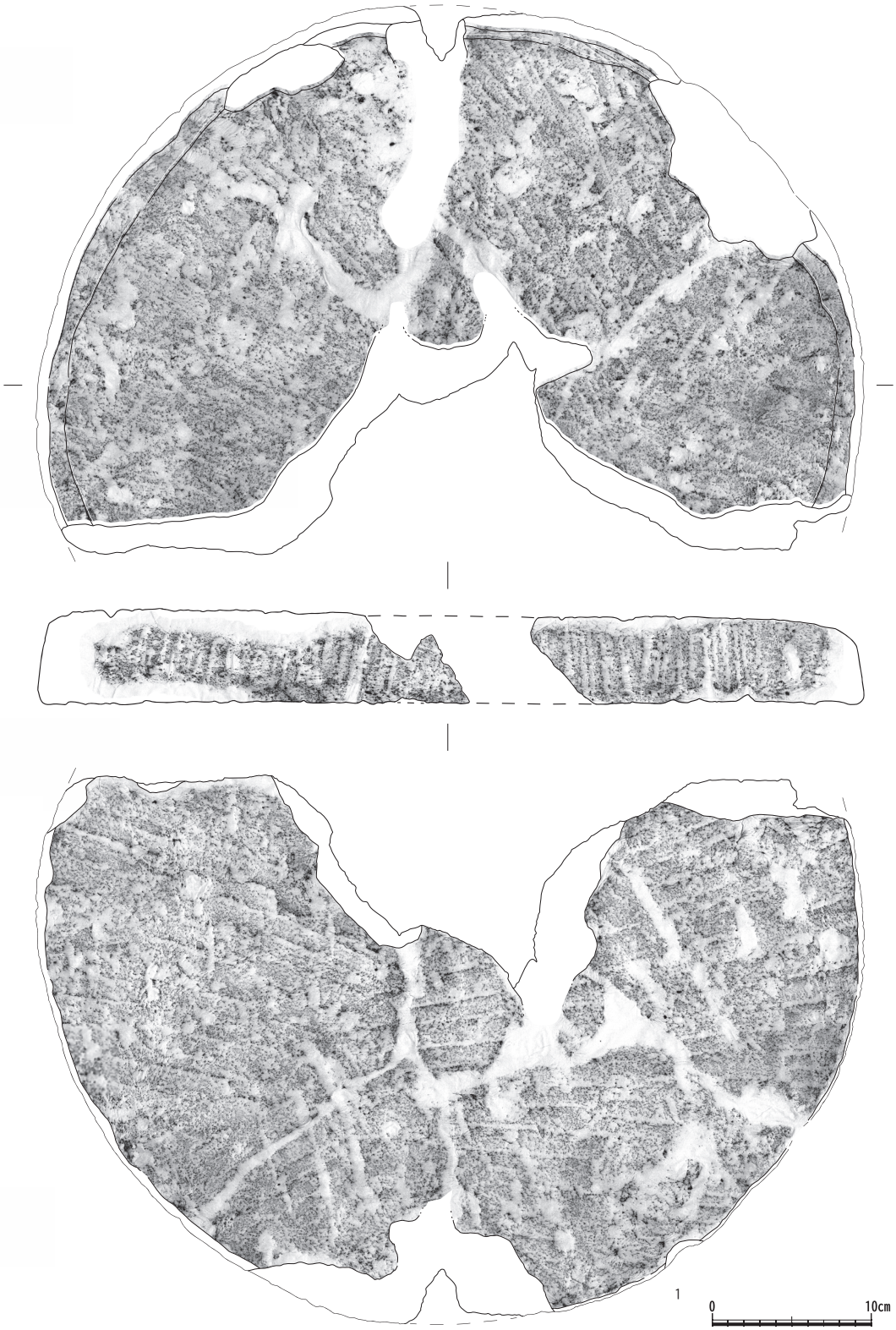
SD01出土遺物（第10図　図版11・12）

Ⅱ層出土かⅠ層出土か分けられなかった遺物である。31は土師器の坏で底部が糸切である。32は土師器の小坏で底部糸切である。33は東播系須恵器の鉢の口縁部である。34は滑石製の石鍋の口縁部で用途




第10図　SD01、SD02、SD03出土遺物実測図〔1/4〕

SD01 撹乱




第11図　SD01撹乱出土遺物実測図〔1/4〕

は不明だが転用されている。35は滑石製の石鍋の口縁部である。36は土錘である。37は鉄製品で刀子である。

SD01撹乱出土遺物（第11図　図版13・31）

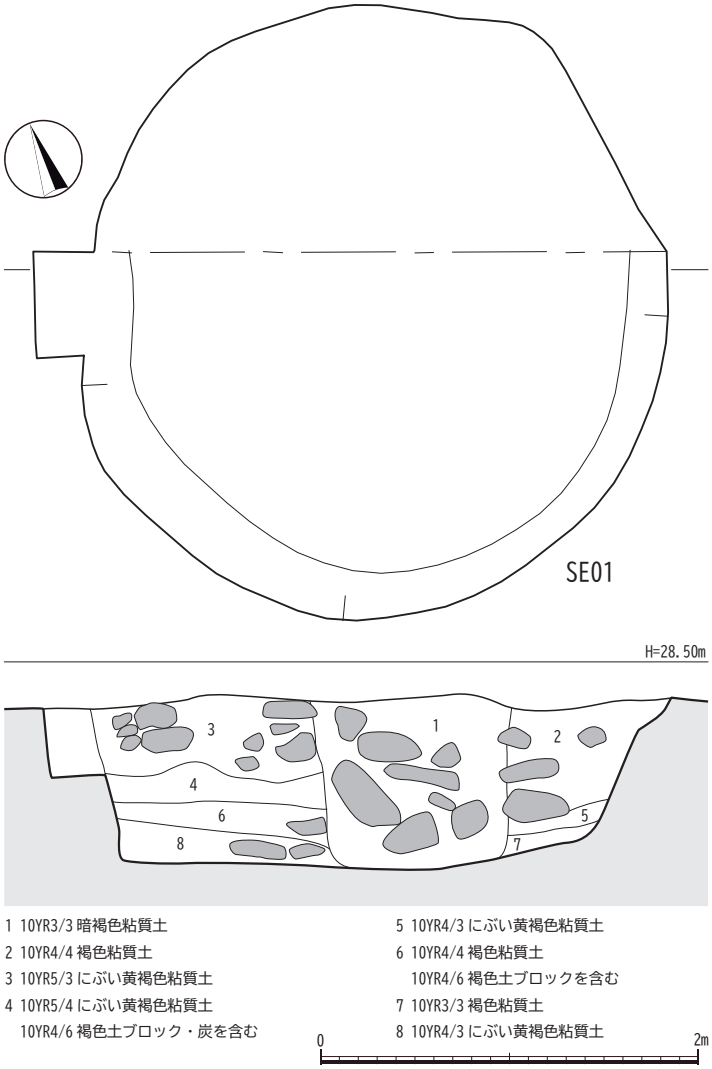
SD01の撹乱部から出土した甕の蓋で、阿蘇溶結凝灰岩製である。近世甕棺墓の蓋の可能性が高い。その他、色絵でモミジが描かれた磁器の湯呑み碗（図版31）が出土している。

2号溝状遺構(SD02)（第6・8図　図版3・5）

調査区中央部を南―北方向に走る溝で南側および北側ともに調査区外へ延びる。幅18.2m、深さ2.2mで断面形状は逆台形2つがが組み合わさった形をしている。SK08を切る。土層観察の結果、少なくとも1度の掘り直しが行われている。時間の制約上、古いほうのSD02（旧SD02）は未掘である。軸はSD02・旧SD02ともにＮ－4.5°－Ｅである。出土遺物は土師器の坏、白磁の皿、丸瓦、木器である。

SD02出土遺物（第10図　図版12）

38は土師器の小皿で底部糸切。39は白磁の皿である。口縁端部が外反する。40は丸瓦片である。




第12図　SE01実測図〔1/40〕

3号溝状遺構(SD03)（第6・9図　図版3・5）

調査区東側を南―北方向に走る溝で南側および北側ともに調査区外へ延びる。深さは約2.6mで田中期の堀跡であるSD04に切られる。断面形状はV字形である。軸はＮ－3°－Ｅである。出土遺物は土師器の小皿・土鍋・土錘・火鉢、須恵器片、陶器片、磁器片である。遺物はSD04の遺物が混入している。なお、SD04は近代に埋め立てられた。

SD03出土遺物（第10図　図版13）

41は土師器の土鍋の口縁部である。42は土錘。43は土師器の火鉢で、SD04由来の可能性が高い。

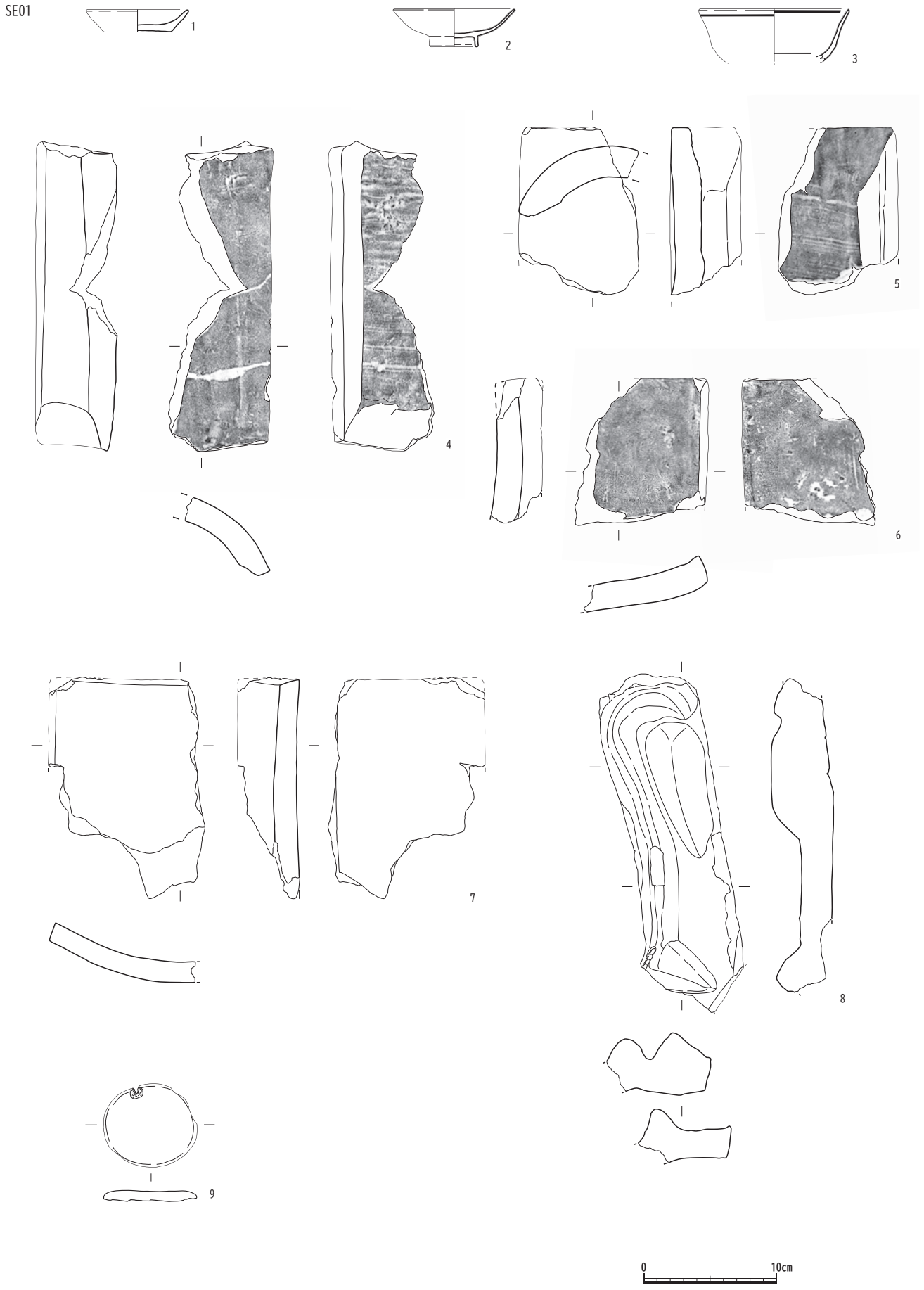
5号溝状遺構（SD05）（第6図）

調査区東側南端を東―西方向に走る溝である。長さ約6.0m、幅約0.6mである。軸はＮ－72°－Ｗである。未掘削のため出土遺物はない。

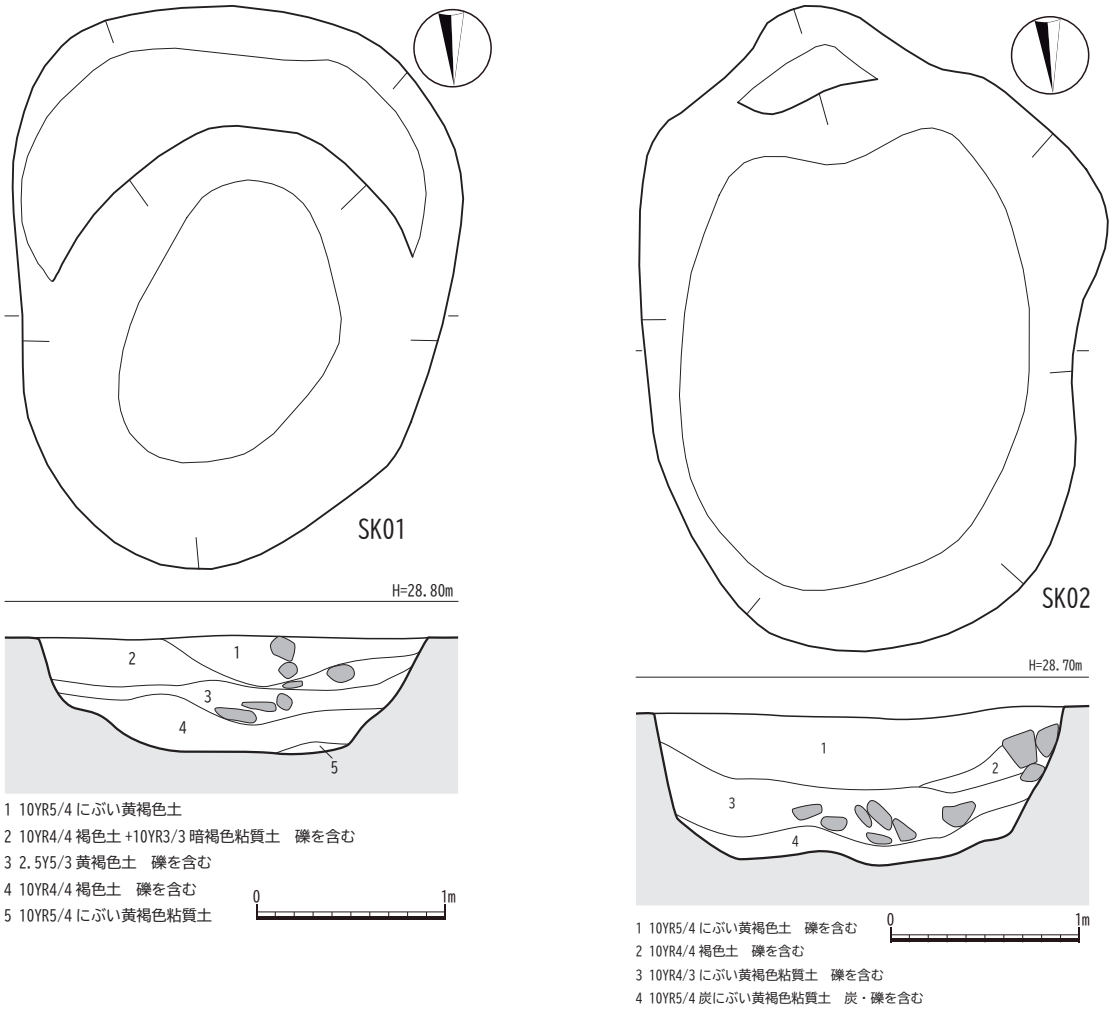
井戸

1号井戸(SE01)（第12図　図版5）

調査区西側で検出した井戸である。未掘削の区画溝状遺構を切る。平面形状は円形で直径約3.3mであ




第13図　SE01出土遺物実測図〔1/4〕




第14図　SK01･SK02実測図〔1/40〕

る。埋土を1/2ほど掘削し、安全上の理由から掘削を深さ約0.9mで止めた。

遺物は土師器の小皿・坏、陶器の甕片・すり鉢片・土鍋片、磁器の青磁片・皿・碗蓋片・碗片・白磁猪口、石錘、コビキBの瓦片、鬼瓦片が出土した。

SE01出土遺物（第13図　図版13・14）

1は土師器の小皿で底部糸切。2は磁器の小碗。3は磁器碗の口縁部である。4・5は丸瓦でコビキBである。6・7は平瓦。8は鬼瓦の口部分である。9は石錘で片岩製。

土坑

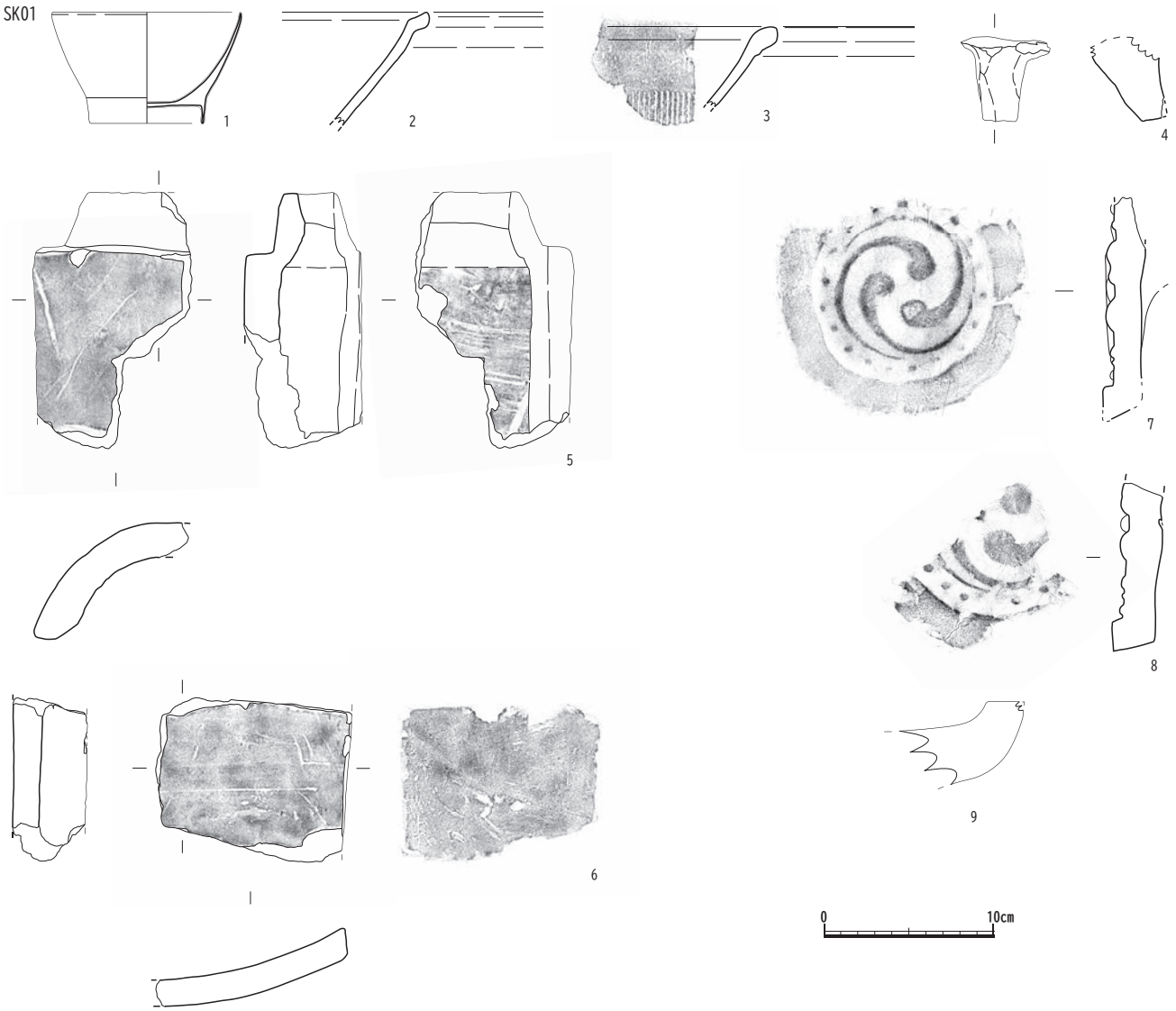
調査時間の制約上、大半の土坑の調査が行えず、多くの遺構は性格が分からない。

1号土坑(SK01)（第14図　図版3・5）

調査区東側で検出した遺構である。平面形状は楕円形で長軸約3.0m、短軸2.4mを測る。断面形状は逆蒲鉾形で深さは約0.6mである。南側にテラスがある。長軸N－4°－Eである。遺物の出土状況から廃棄土坑と思われる。遺物は陶器の碗・皿・鉢・すり鉢・瓶、磁器の広東碗・くらわんか碗・染付碗・染付皿・猪口、瓦の瓦当・丸瓦・平瓦が出土した。

SK01出土遺物（第15図　図版14・15）

1は広東碗で口縁部が立ち上がる。2・3は陶器口縁部で、2が鉢、3がすり鉢である。4は土師質土器の支脚である。5は丸瓦でコビキB、6は平瓦である。7・8は瓦当で左三巴紋。9は石臼片である。




第15図　SK01出土遺物実測図〔1/4〕

2号土坑(SK02)（第14図　図版3・5・6）

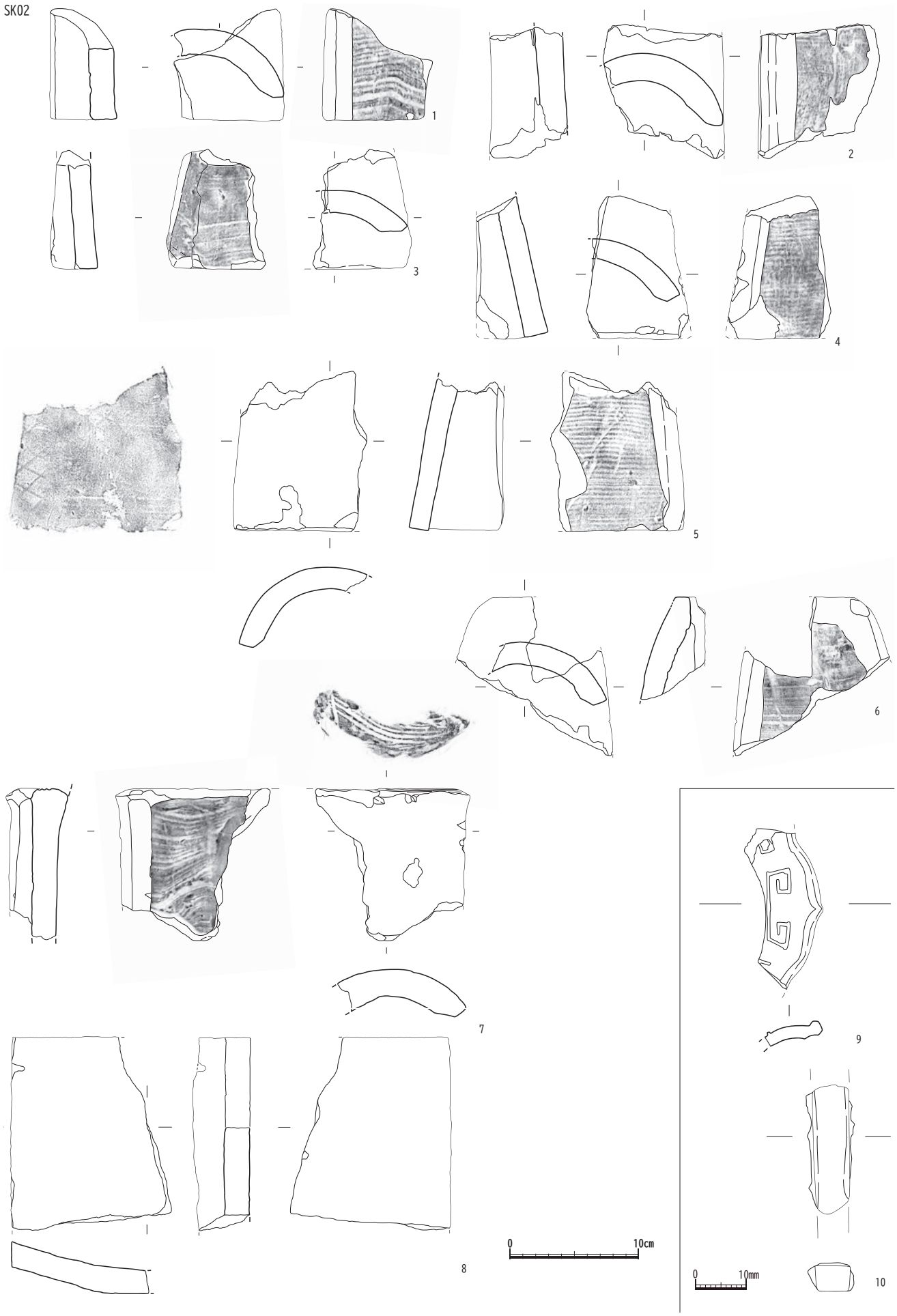
調査区東側で検出した遺構で、SK01の北に位置する。平面形状は歪な楕円形で、長軸3.4m、短軸約2.5mを測る。断面形状は歪な逆蒲鉾形で深さは0.8mである。遺物出土状況からSK01と同様の廃棄土坑と考えられ、SK01と時期が近いと思われる。長軸N－1°－Eである。遺物は陶器片、磁器碗片、コビキBの丸瓦・平瓦、角釘が出土した。

SK02出土遺物（第16図　図版15～17）

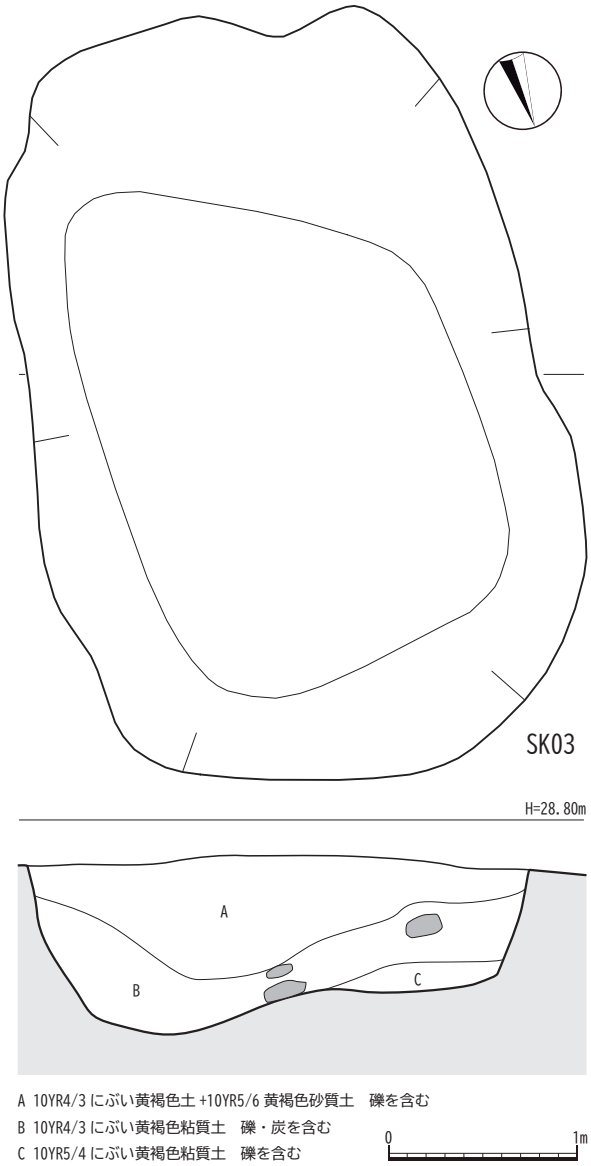
1～6は丸瓦でコビキB、7は軒丸瓦でコビキB、8は平瓦、9は陶器の手塩皿の口縁部で内面に雷文を浮き彫りする。10は角釘である。

3号土坑(SK03)（第17図　図版3・6）

調査区東側で検出した遺構である。平面形状は歪な楕円形で、長軸約4.1m、短軸約3.1mを測る。断面形状は逆台形と逆蒲鉾形が合わさった形で、深さは約0.9mである。長軸N－4°－Eである。遺物は土師器、陶磁器、瓦の軒丸瓦・丸瓦・平瓦・輪違瓦・熨斗瓦が出土した。遺物検出時、遺物や石が投げ入れられたような状態であったことから、廃棄土坑と思われる。また、遺物の中には被熱痕があるものが存在する。




第16図　SK02出土遺物実測図〔1/4(9と10は1/1)〕




第17図　SK03実測図〔1/40〕

SK03出土遺物（第18～29図　図版17～24）

1～3は土師器の皿で底部糸切。2は油煙痕が確認でき、燈明皿である。4は土師器の土鍋で、玉縁口縁である。5は陶器の皿である。6は磁器の碗であり、口縁部は外反する。高台2か所に切り込みがあり、見込と高台に目跡が存在する。7は瓦当で左三巴紋である。8は軒丸瓦でコビキB。瓦当が剝れている。また、釘穴がある。内面には吊紐痕が確認される。9～18は丸瓦である。9～14と16～18ではコビキBが確認される。また、11には釘穴があり、瓦の凸面から凹面方向に穿孔される。15は丸瓦の玉縁である。。19丸瓦で玉縁が無い。筆順から漢数字の「十」と考えられる　刻みがある。20～28は丸瓦でコビキBである。29は谷丸瓦でコビキBである凸面から凹面に釘穴を穿孔する。30は丸瓦片で釘穴が穿孔される。31～38は平瓦である。39～59は輪違瓦で39～56がコビキB、57～59はコビキAである。

4号土坑(SK04)（第6図　図版6）

調査区中央南部で検出された集石遺構である。平面形状は円形で直径約1.3mを測る。SB02を切る。出土遺物は瓦器片と完形の白磁の猪口（図版31）である。白磁の猪口の中には黒色顔料が入っていた。

5号土坑(SK05)（第6図　図版6）

調査区南側中央部で検出された遺構である。平面形状は歪な楕円形で長軸約1.4m、短軸約0.8mである。埋土を1/4ほど掘削した。埋土の土色は黄色土と灰色土の混土であった。遺物はコビキBの丸瓦片が出土した。

6号土坑(SK06)（第6図　図版6）

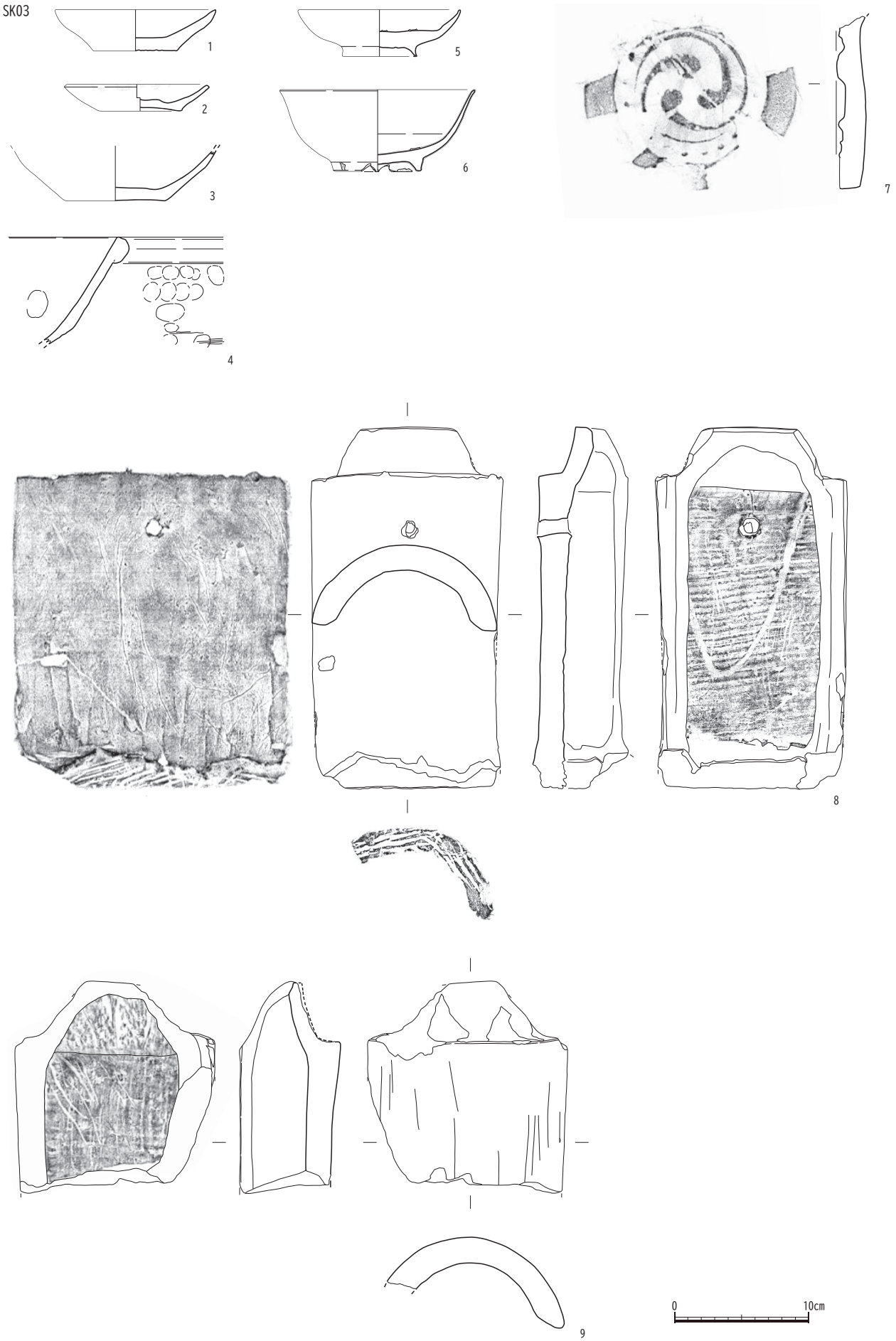
調査区西側南部で検出した遺構である。平面形状はやや歪な円形で直径約1.9mを測る。埋土の一部掘削を行った結果、埋土はSK05と同様の黄色土と灰色土の混土であった。遺物の出土はないが木炭が出土した。

7号土坑(SK07)（第30図　図版6）

調査区中央部で検出した遺構である。平面の形状は円形であり、径約1.2mを測る。断面形状は逆台形で、深さは約0.5mである。埋土は約1/2掘した。遺物は土師器片、染付磁器片が出土した。

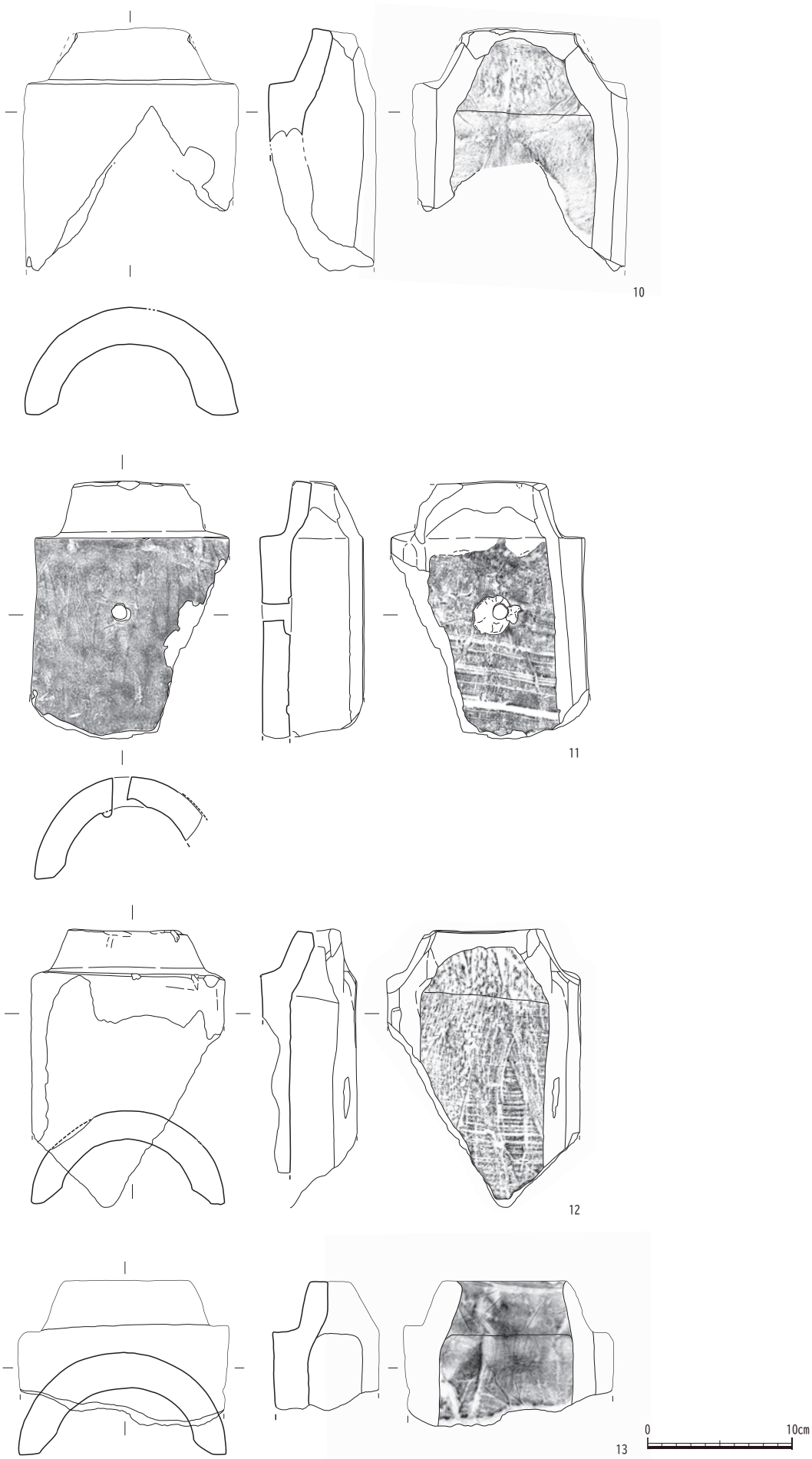
8号土坑(SK08)（第31図　図版6・7）

調査区東側で検出した遺構である。SD02に切られる。長軸は約1.3mで、断面形状は逆蒲鉾形と逆台形を組み合わせた形を呈する。深さは最深部で約0.8mである。長軸N－3.5°－Eである。遺物は庭石に



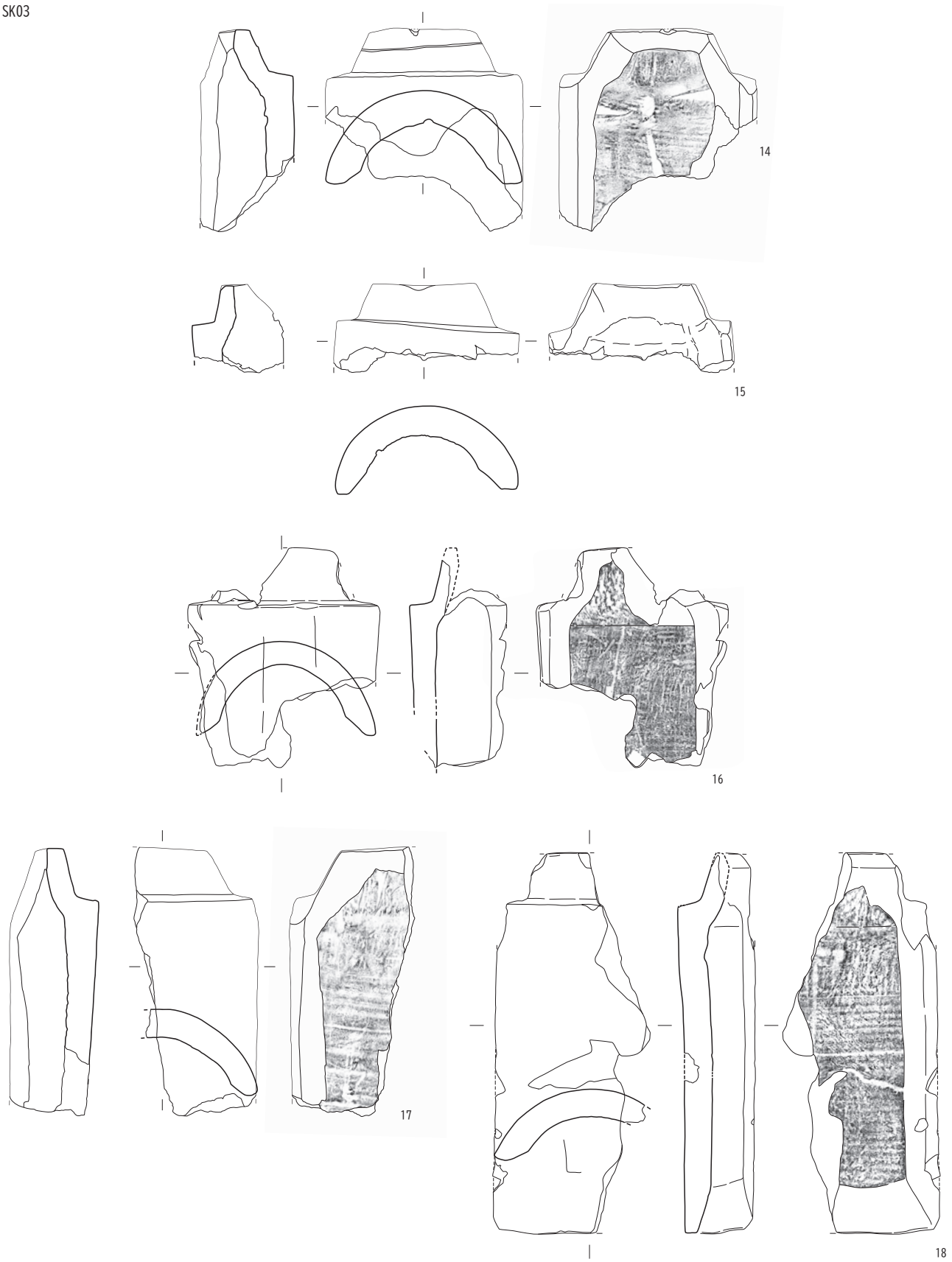

第18図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03



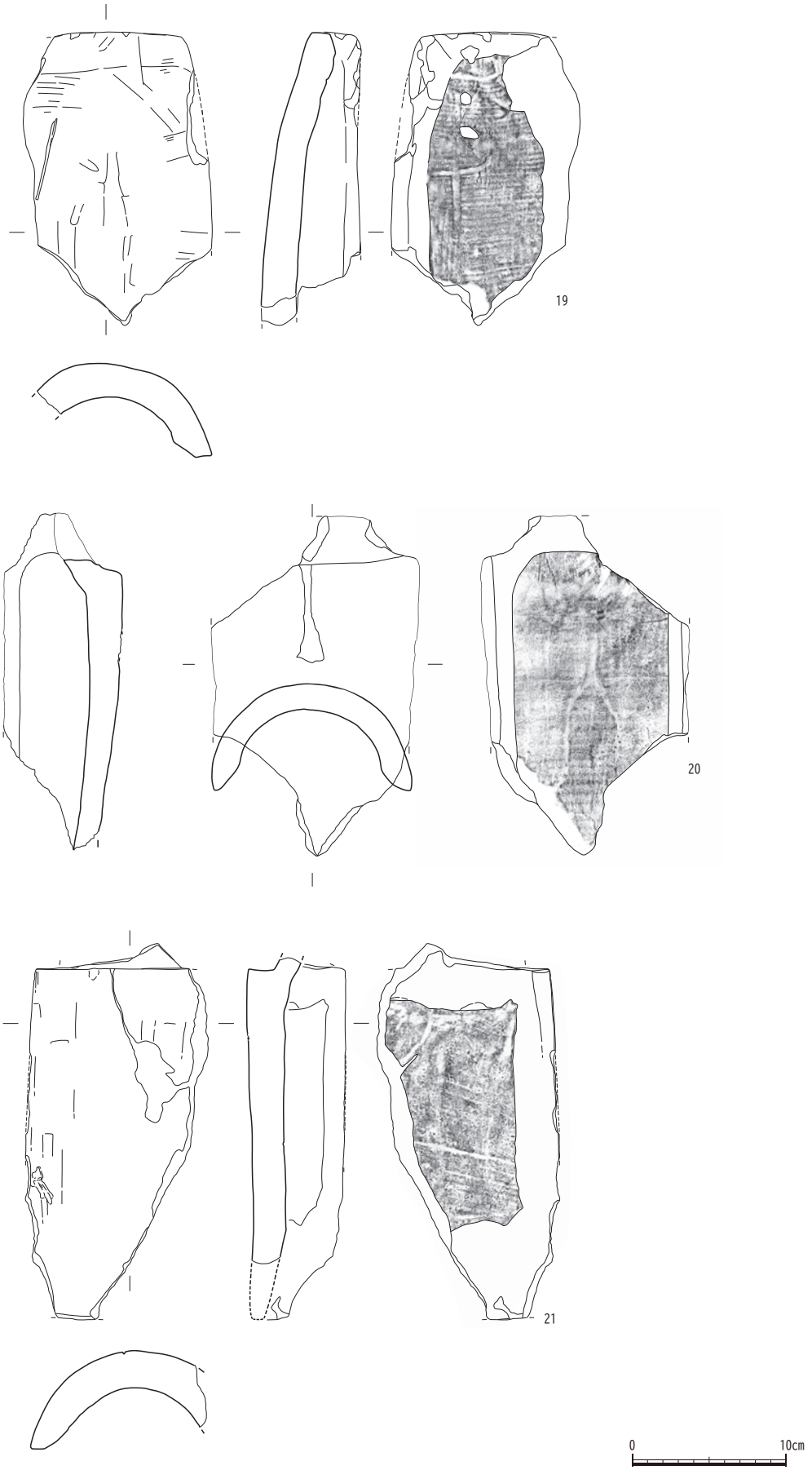

第19図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03



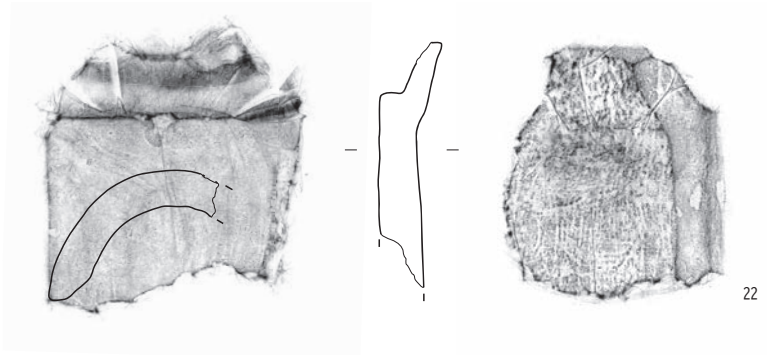

第20図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

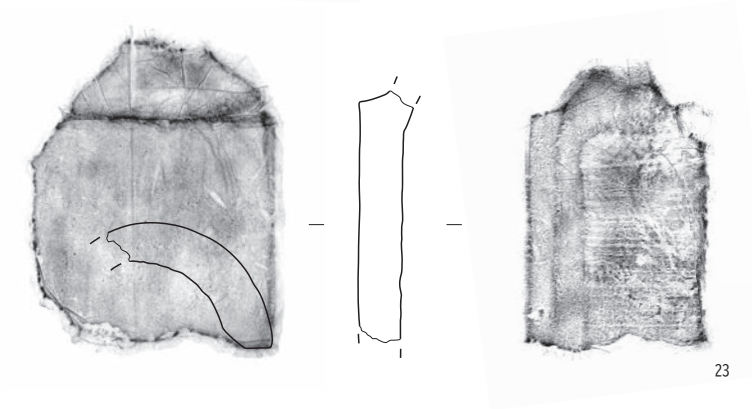
SK03

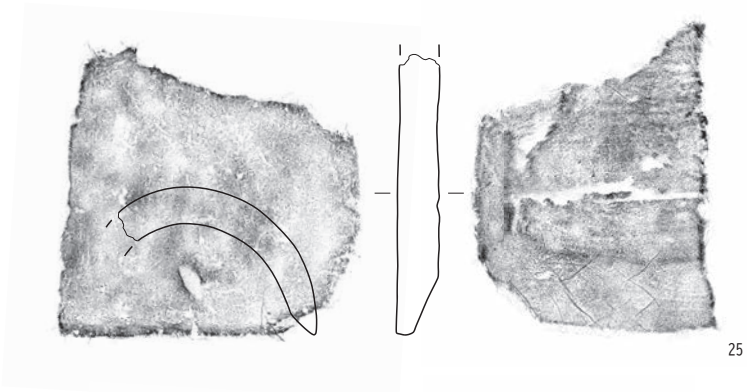


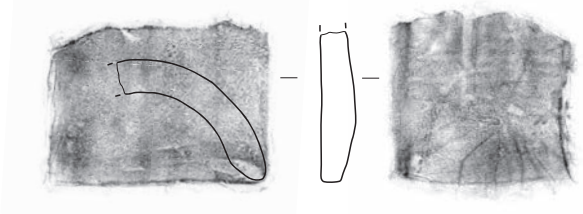

第21図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03



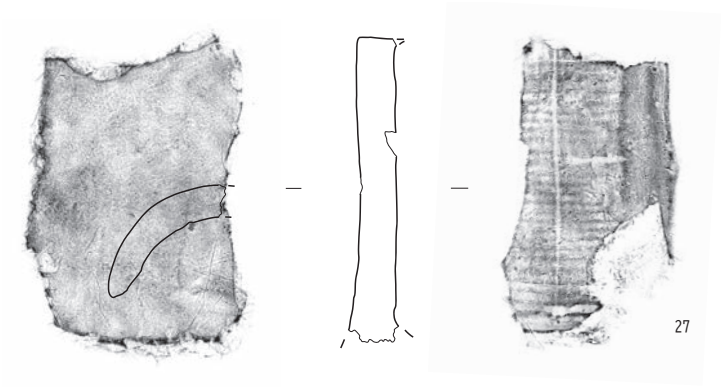



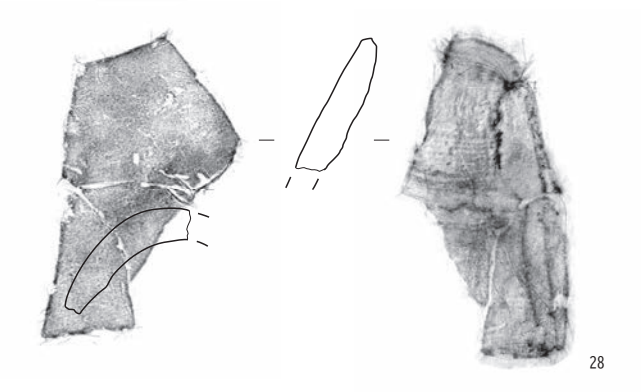


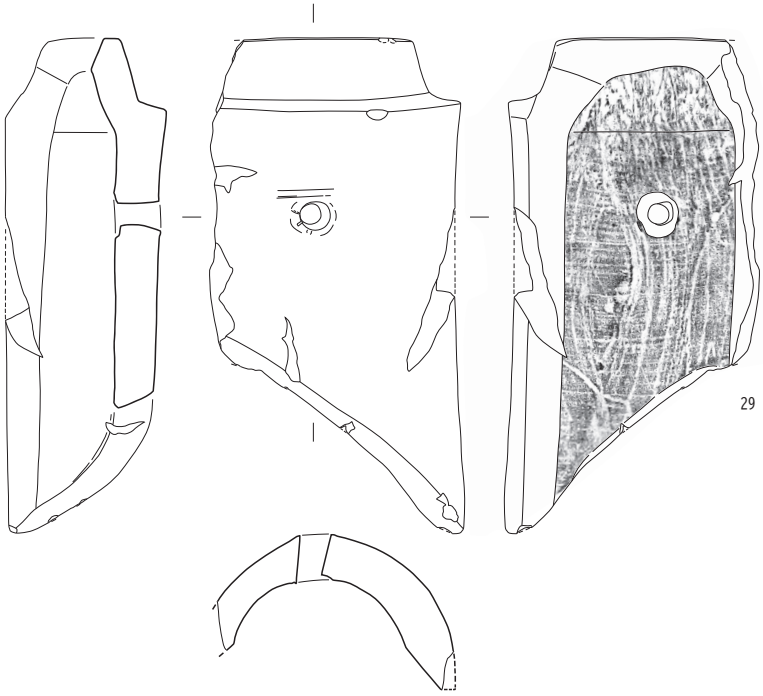



第22図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

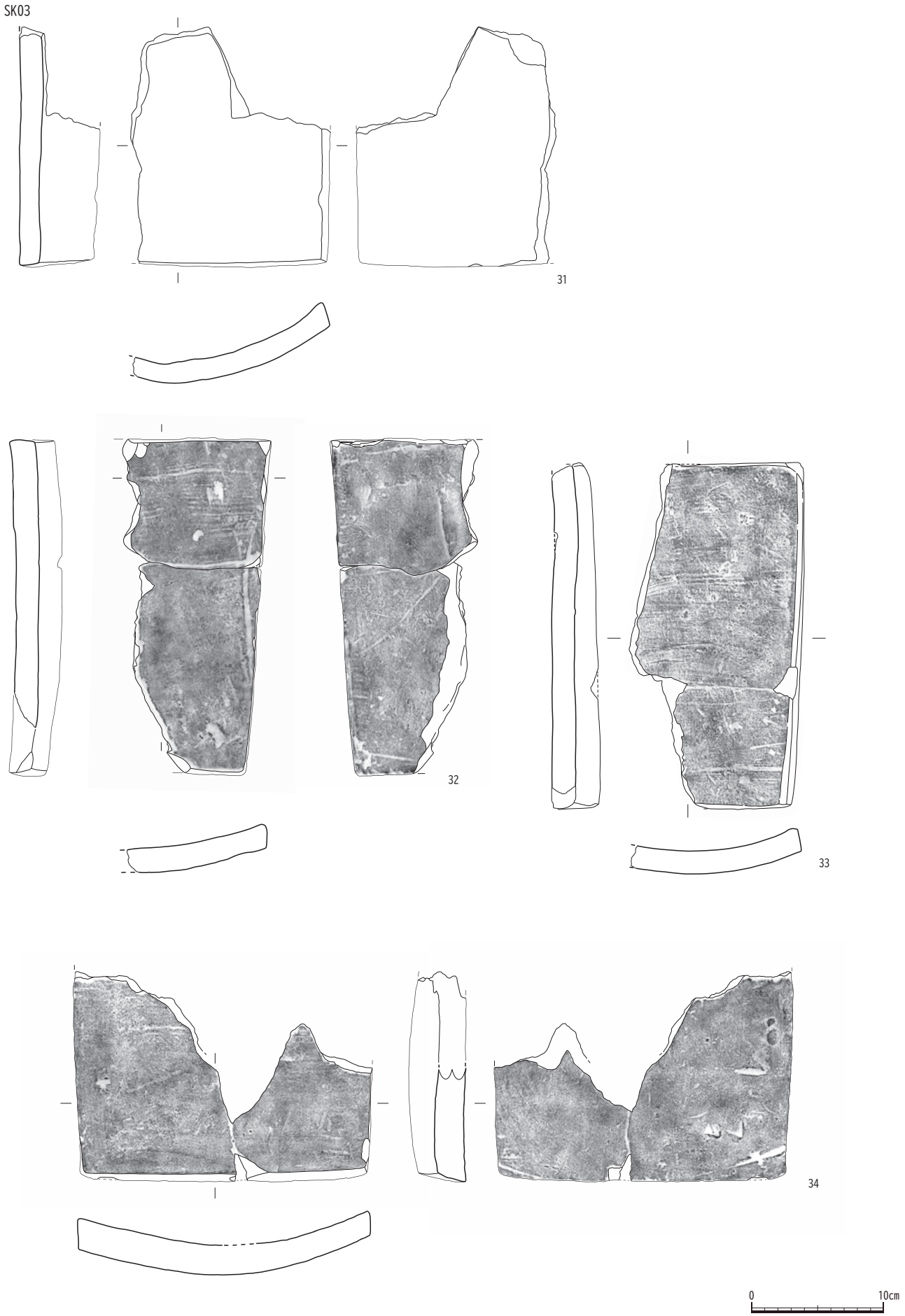
SK03





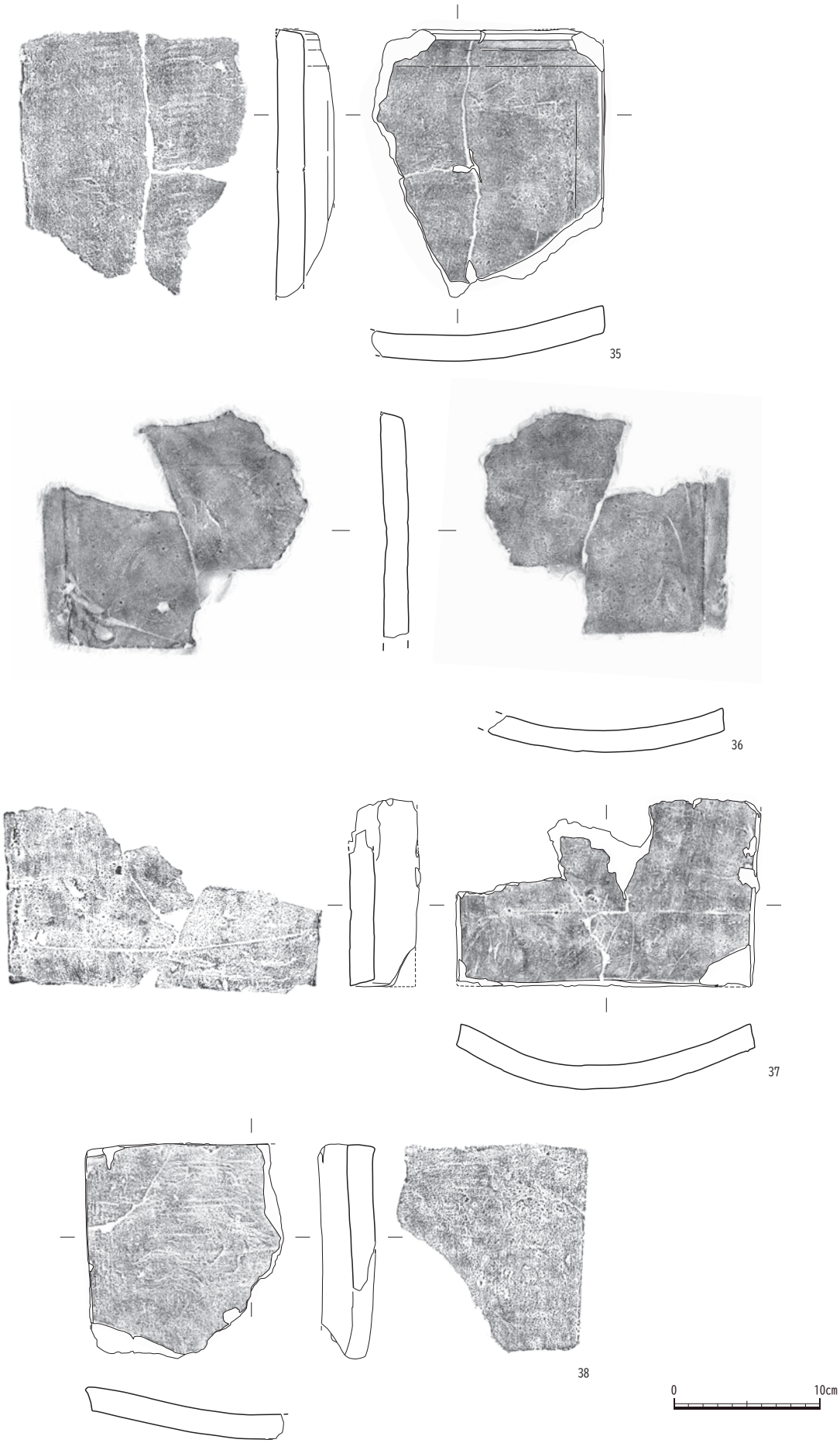



第23図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕



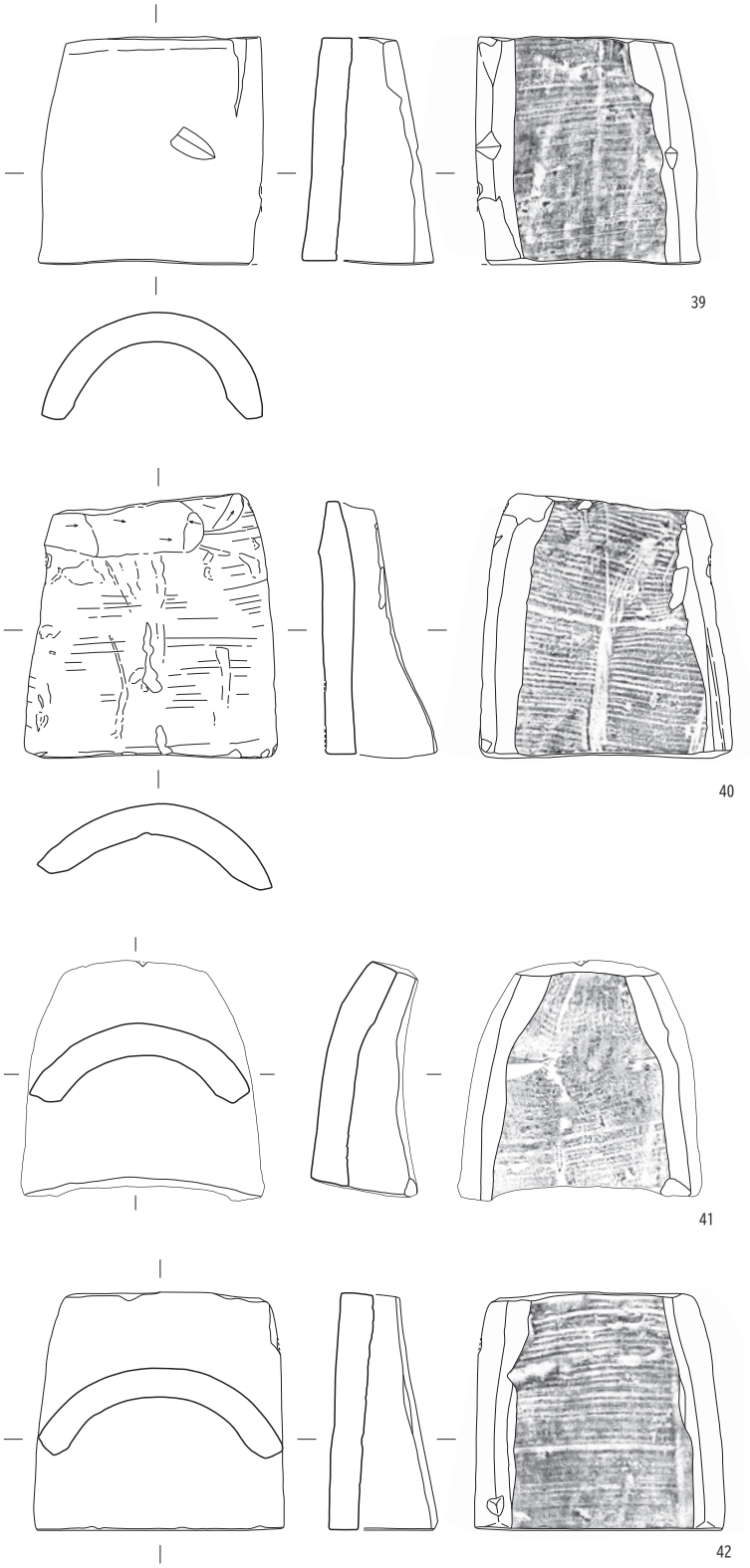

第24図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03



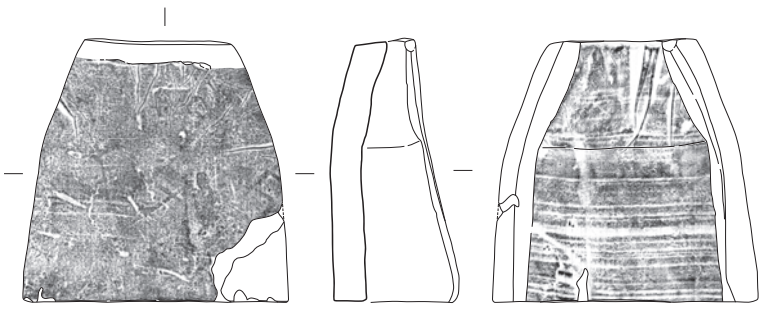

第25図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03

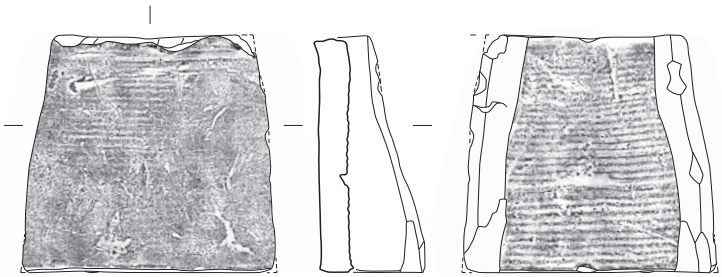



第26図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

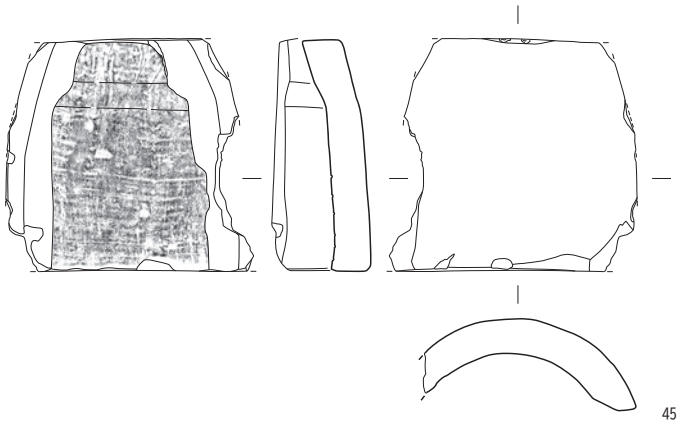
SK03



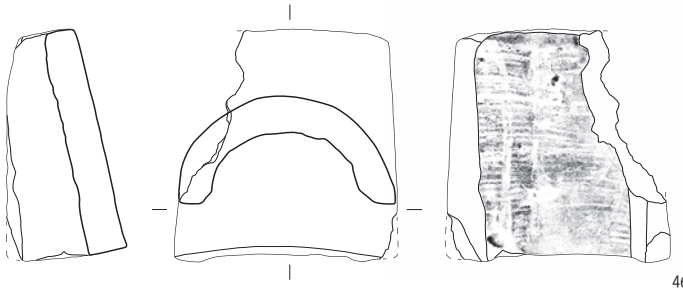
43



44



45

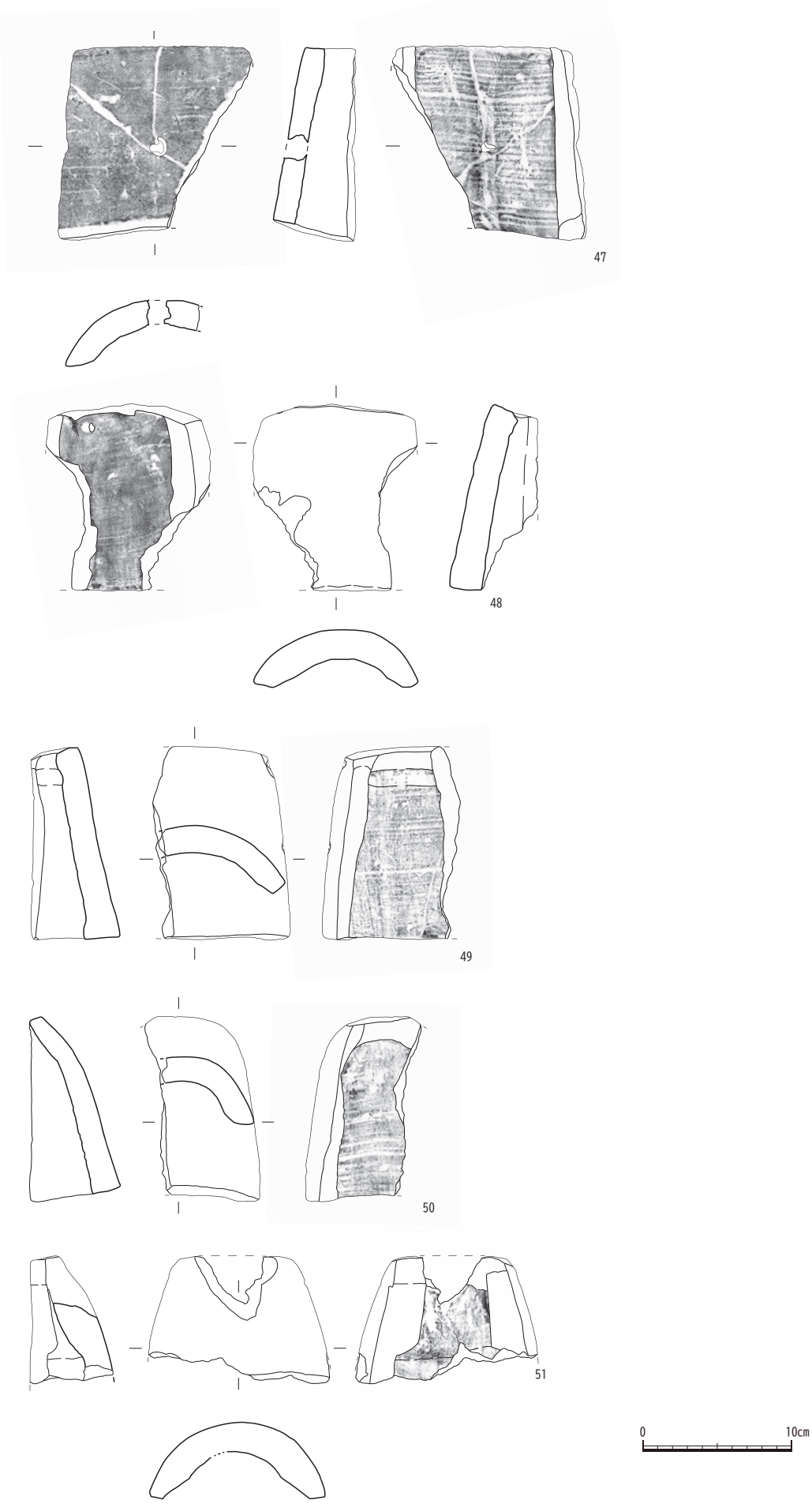


46

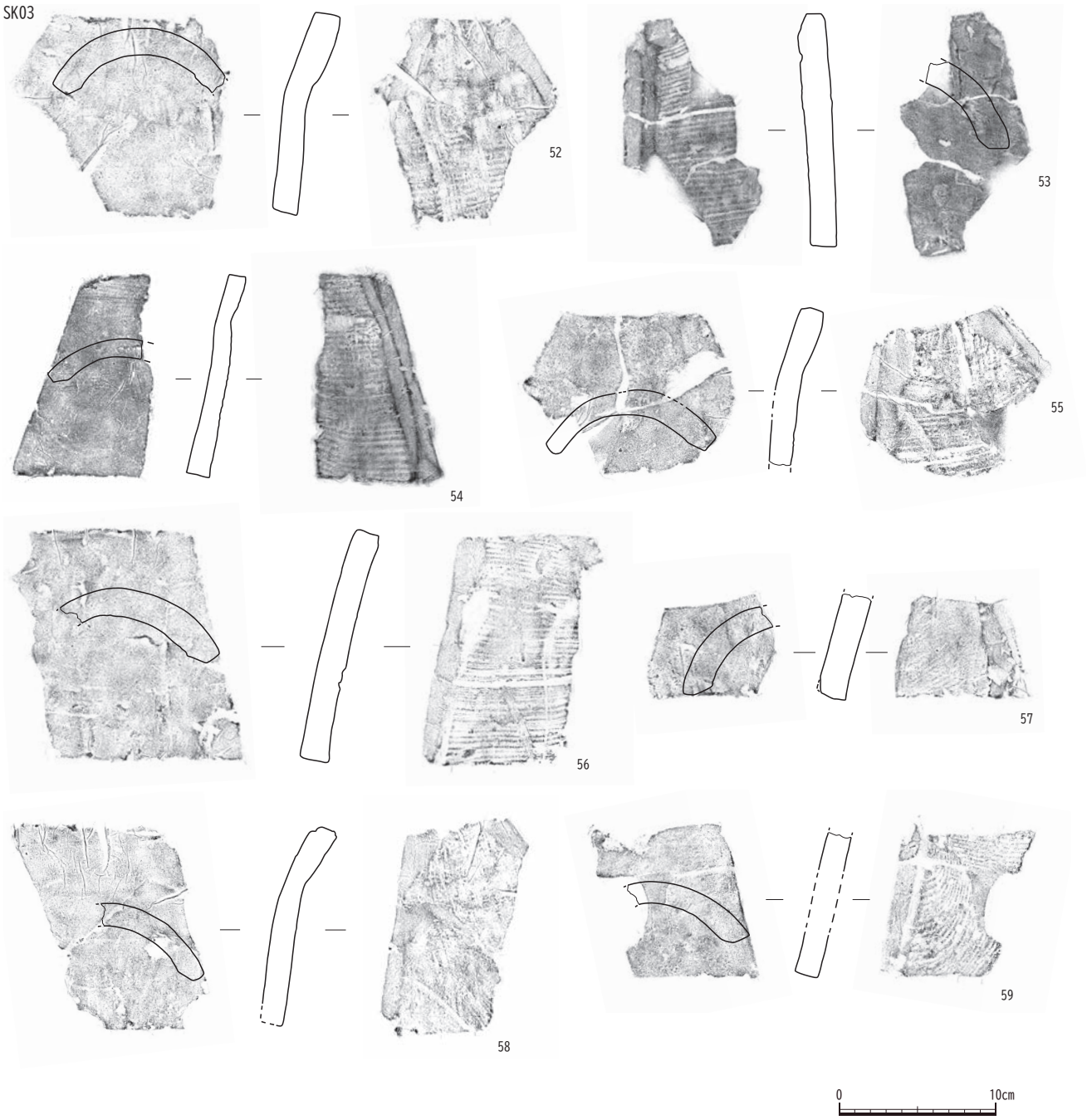
0 10cm

第27図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

SK03




第28図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

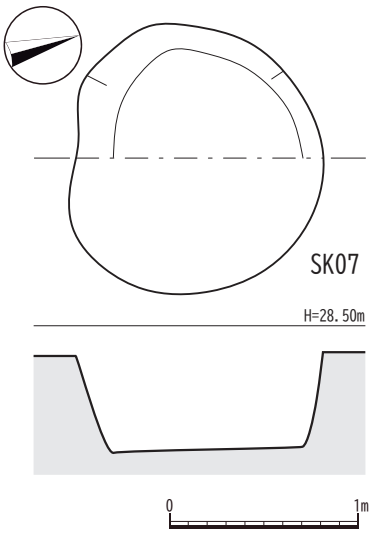



第29図　SK03出土遺物実測図〔1/4〕

転用されたと思われる板碑が出土した。

SK08出土遺物（第33図　図版24）

1・2ともに緑泥片岩の板碑片で板碑を庭石に転用したものと思われる。1は○の中に卍が彫られる。2は上部が欠けているが、「月廿一日」「□寛尼霊位」と彫られる。1・2ともに同一個体と思われるが、中央部が欠損しており、存在しない。



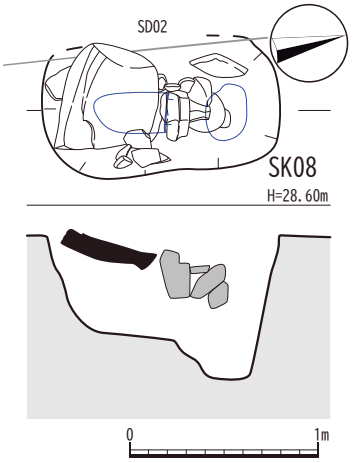
第30図　SK07実測図〔1/40〕

9号土坑(SK09)（第6図）

調査区西側で検出した遺構である。平面形状は隅丸方形であり、長軸約1.2m、短軸約1.1mである。埋土を1/4ほど掘削した。遺物は鉄片が出土した。

10号土坑(SK10)（第6図　図版7）

調査区中央南側で検出した遺構である。やや歪な円形である。径は約1.1mである。1/4ほど掘削を行った。埋土は黄色土と灰色土の混土層に礫が入っていた。遺物の出土はない。



第31図　SK08実測図〔1/40〕

11号土坑(SK11)（第6図）

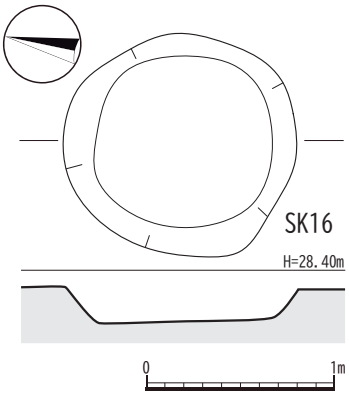
調査区東側北部で検出した集石遺構である。平面形状は歪な隅丸方形で長軸約2.5m、短軸約1.5mを測る。掘削は行っていないが、北側排水路掘削後の精査で、石塔部品と思われる阿蘇凝灰岩製の直方体石（第34図図版25）が出土した。

12号土坑(SK12)（第6図）

調査区の西側南部で検出した遺構である。平面形状は円形であり、径約2.3mである。遺物は煙管（第35図　図版25）が出土した。

14号土坑(SK14)（第6図）

調査区東側中央部で検出した遺構である。平面形状は楕円形で長軸約1.4m、短軸約0.7mである。遺物の出土はないが人頭大の片岩が出土した。



第32図　SK16実測図〔1/40〕

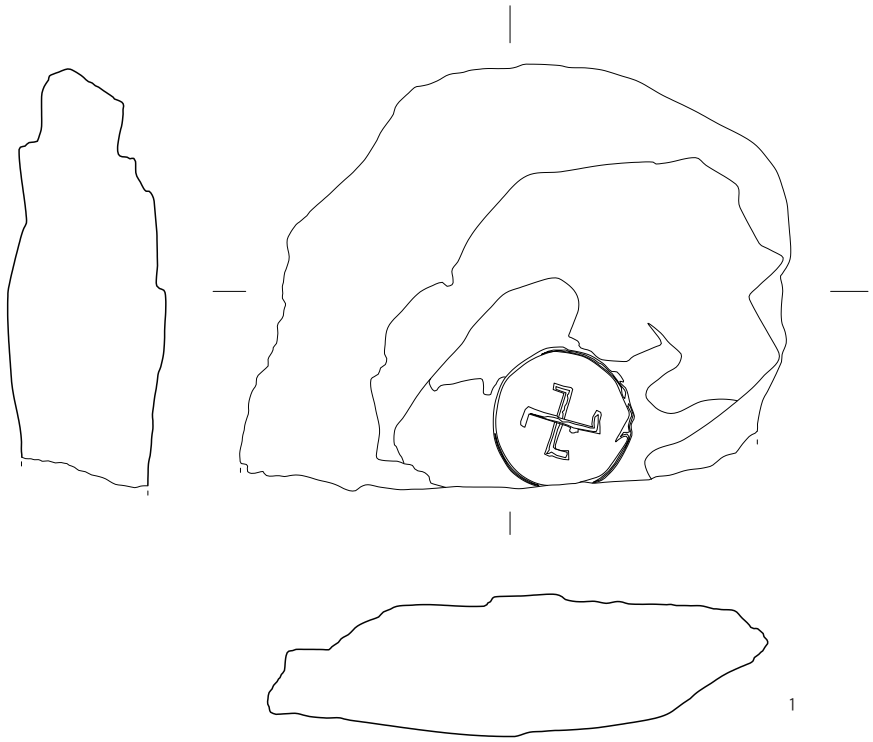
15号土坑(SK15)（第6図　図版7）

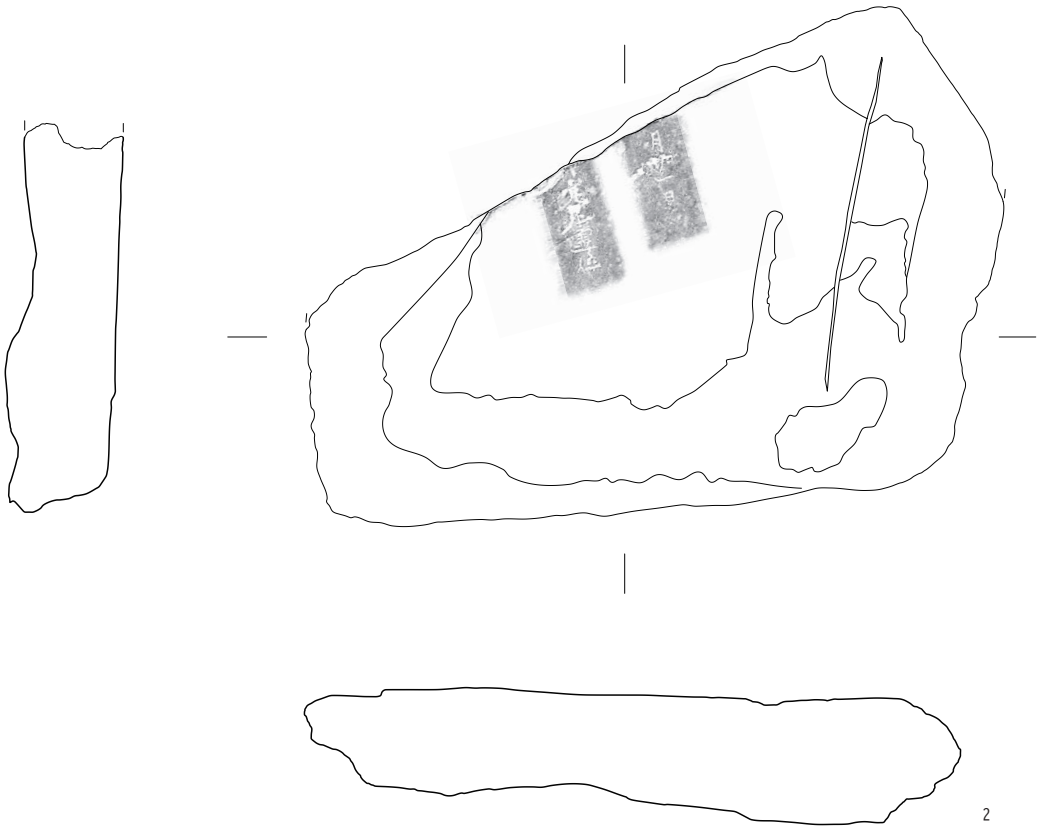
調査区北側中央部のSX01上で検出した遺構である。北側を遺構検出時に重機で削ってしまった。石組みが確認でき、井戸の可能性がある。残存長は約1.4mである。出土遺物は瓦質土器の十能、瓦、石塔部品である。

SK15出土遺物（第36・37図　図版25・26）

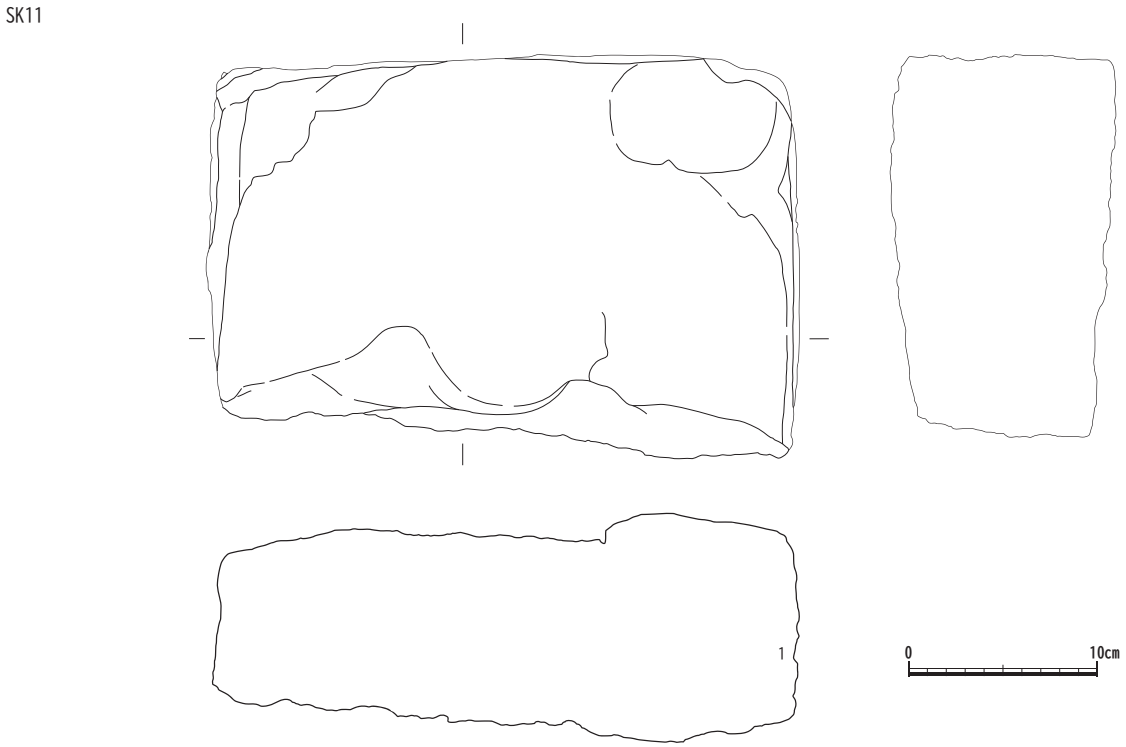
1は土師質土器の十能の把手部、2・3は軒丸瓦の瓦当、4は平瓦、5は丸瓦片。6は平瓦である。7～8は五輪塔か宝篋印塔の一部、9は五輪塔か宝篋印塔の基礎である。9には刻書のほか、墨書が存在する。

SK08

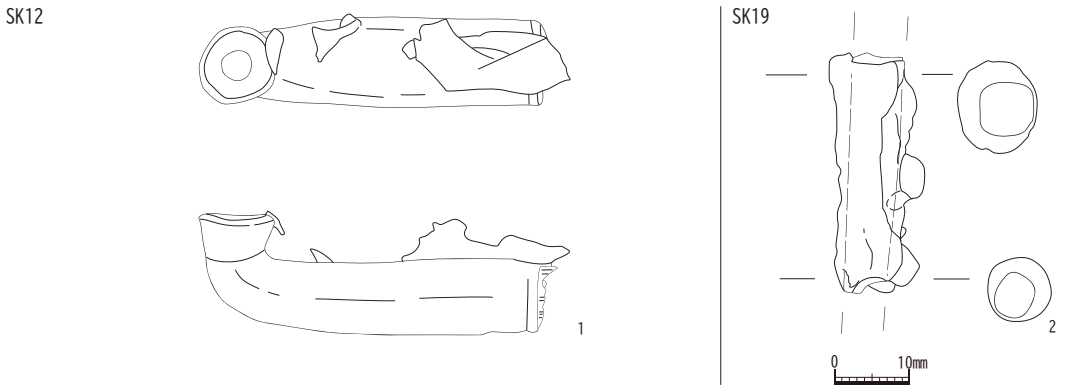


第33図　SK08出土遺物実測図〔1/8〕




第34図　SK11出土遺物実測図〔1/4〕




第35図　SK12･SK19出土遺物実測図〔1/1〕

## 16号土坑(SK16)（第32図）

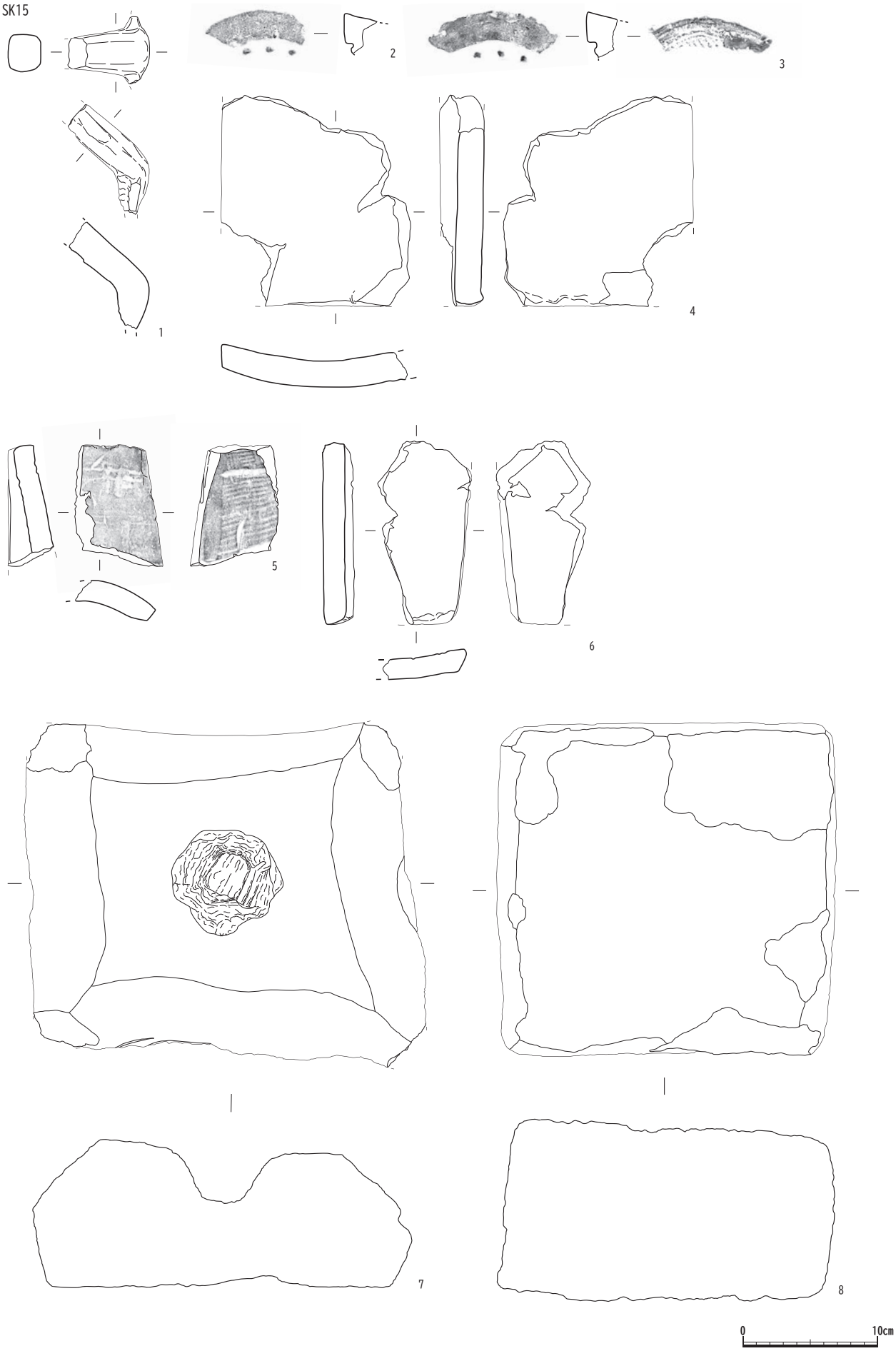
調査区西側北部で検出した遺構である。平面形状は円形で、直径約1.2mを測る。断面形状は逆台形で深さ0.2mを測る。遺物は土師器の小片が出土した。

## 17号土坑(SK17)（第6図）

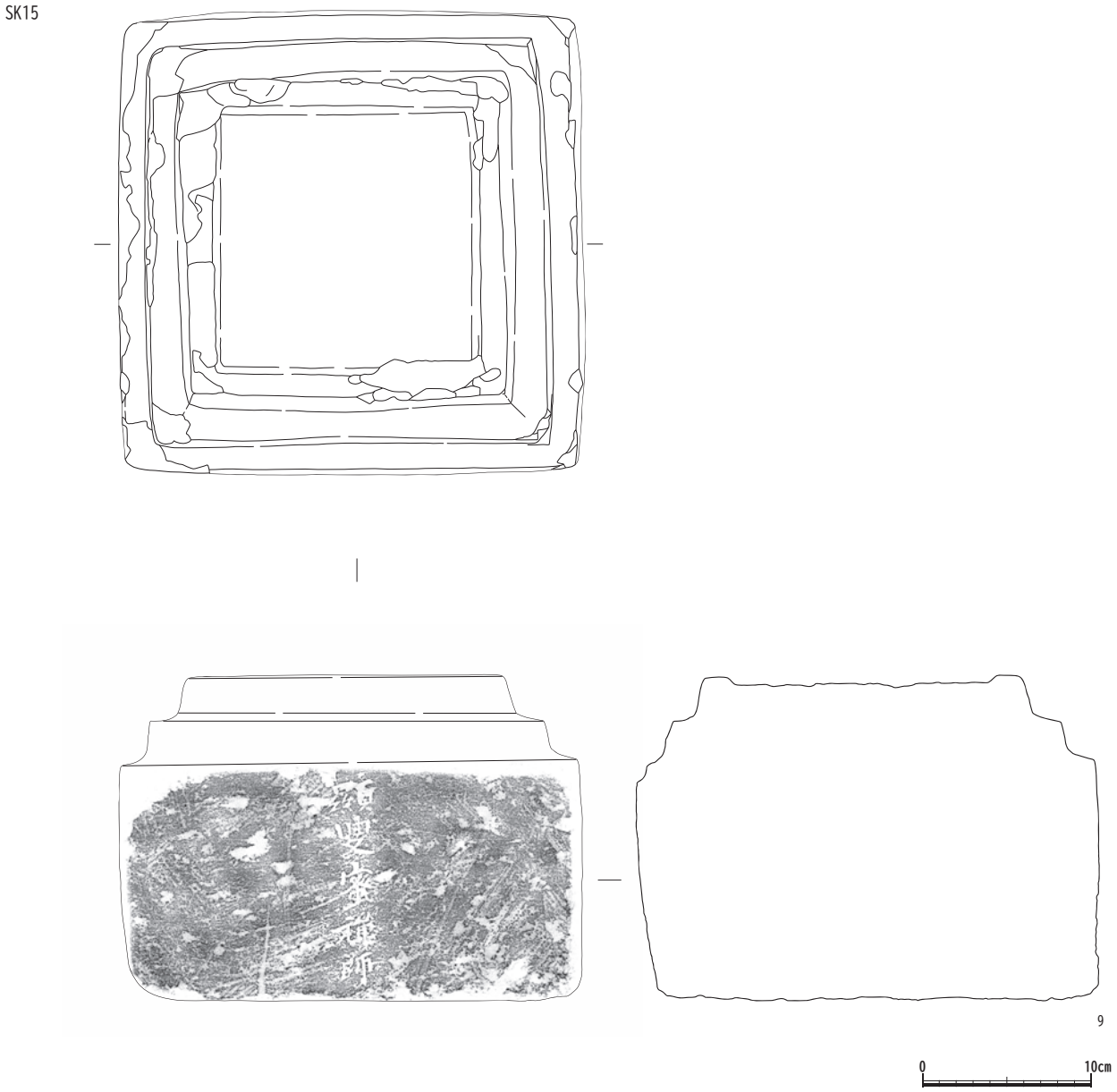
調査区西側中央部で検出した遺構である。歪な楕円形を呈する。長軸1.8m、短軸0.9mを測る。埋土掘削は行っていないが、陶器片が出土している。

## 18号土坑(SK18)（第6図　図版7）

調査区中央部北側で検出された遺構である、歪な円形を呈する。径約0.9mを測る。遺物は陶器の甕と土師質土器の七厘（第38図　図版26）が出土した。




第36図　SK15出土遺物実測図〔1/4〕




第37図　SK15出土遺物実測図〔1/4〕

19号土坑(SK19)（第6図）

調査区東側中央部で検出した遺構である。平面形状は歪な円形で径約1.4mを測る。写真撮影のため、埋土を10cmほど掘削した。遺物は土師器片、染付磁器片、角釘（第35図　図版25）が出土した。

20号土坑(SK20)（第6図）

調査区東側北部で検出した遺構である。平面形状は楕円形で、長軸約1.3m、短軸約1.0mを測る。写真撮影のため、10cmほど埋土の掘削を行った。遺物は土師器片や染付の磁器片が出土している。

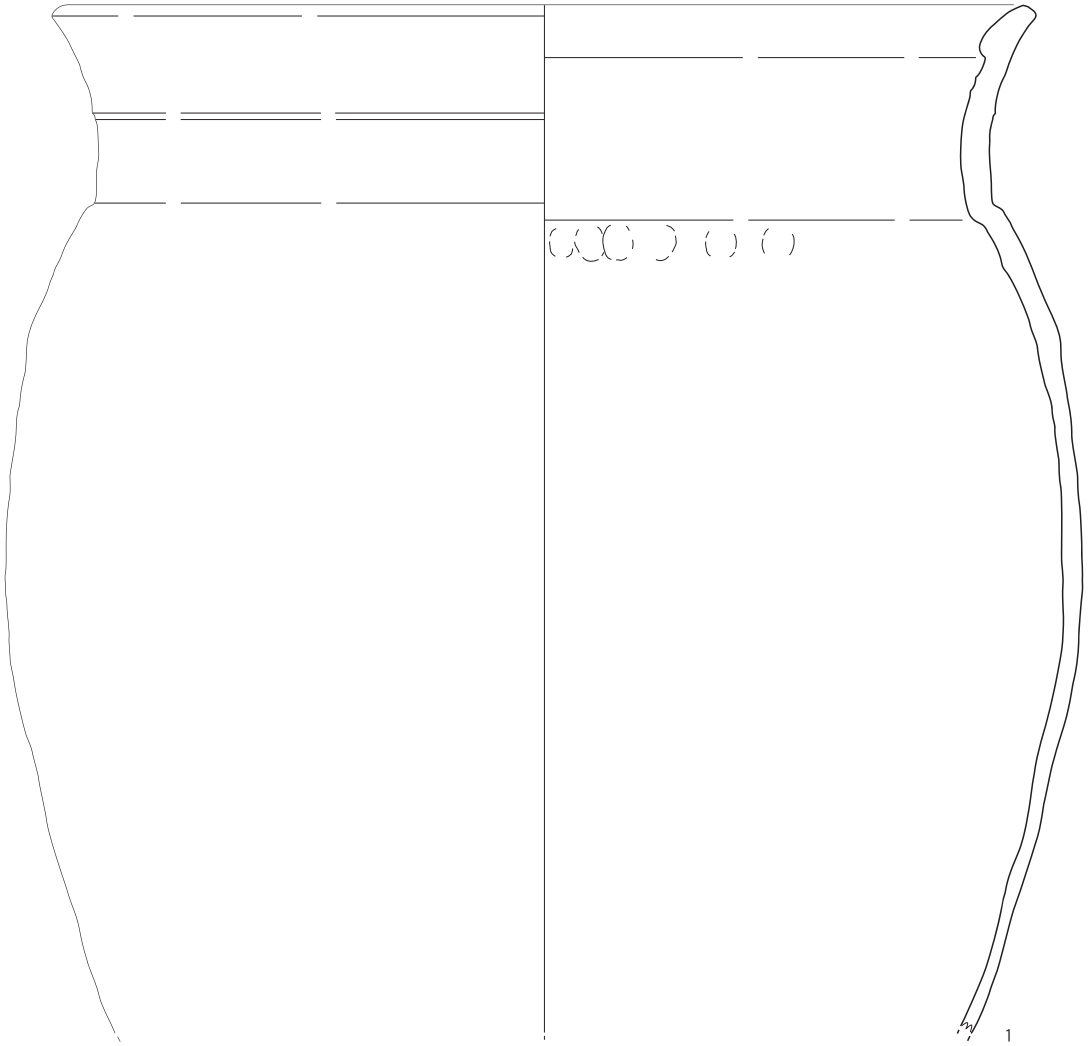
21号土坑(SK21)（第6図）

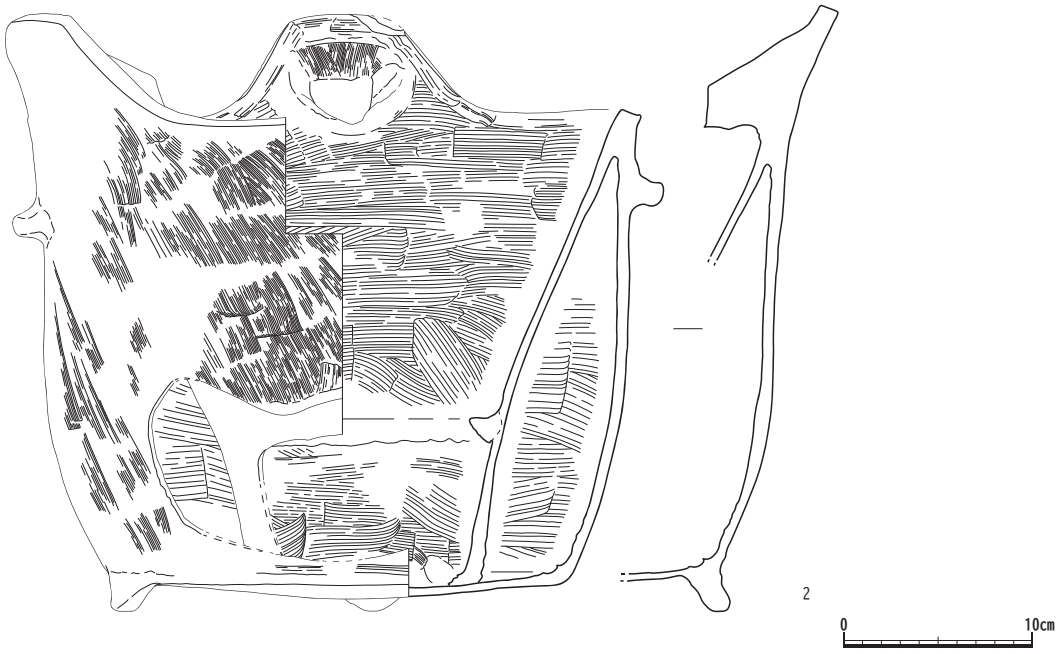
調査区東側北部で検出した遺構である。平面形状は隅丸方形で長軸約1.1m、短軸約0.8mを測る。写真撮影のため10cmほど埋土を掘り下げた。遺物は土師器片、磁器片が出土した。

22号土坑(SK22)（第6図　図版7）

調査区中央北側で検出した遺構である。平面形状は円形で径約1.0mを測る。遺物の出土はない。北側

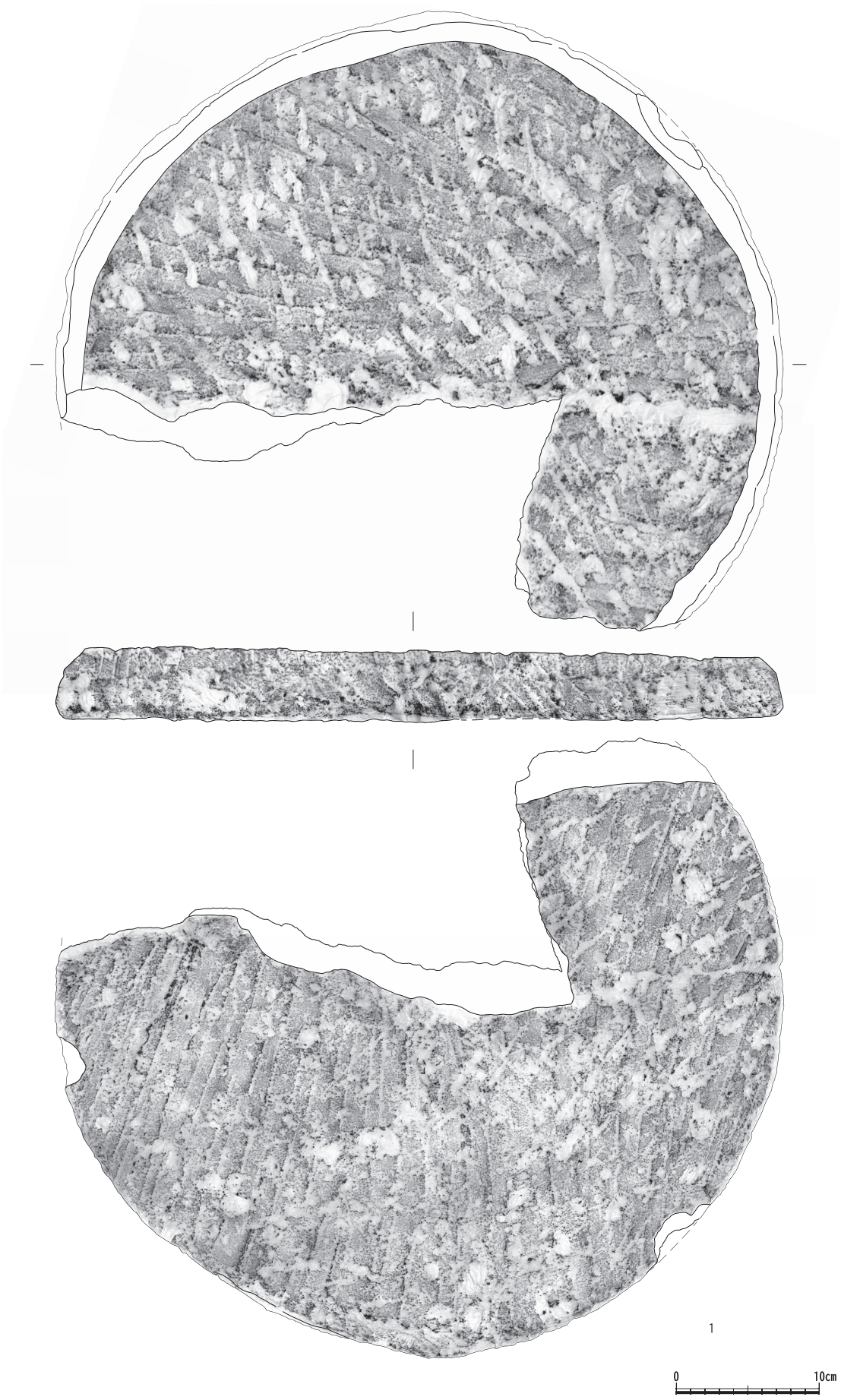
SK18



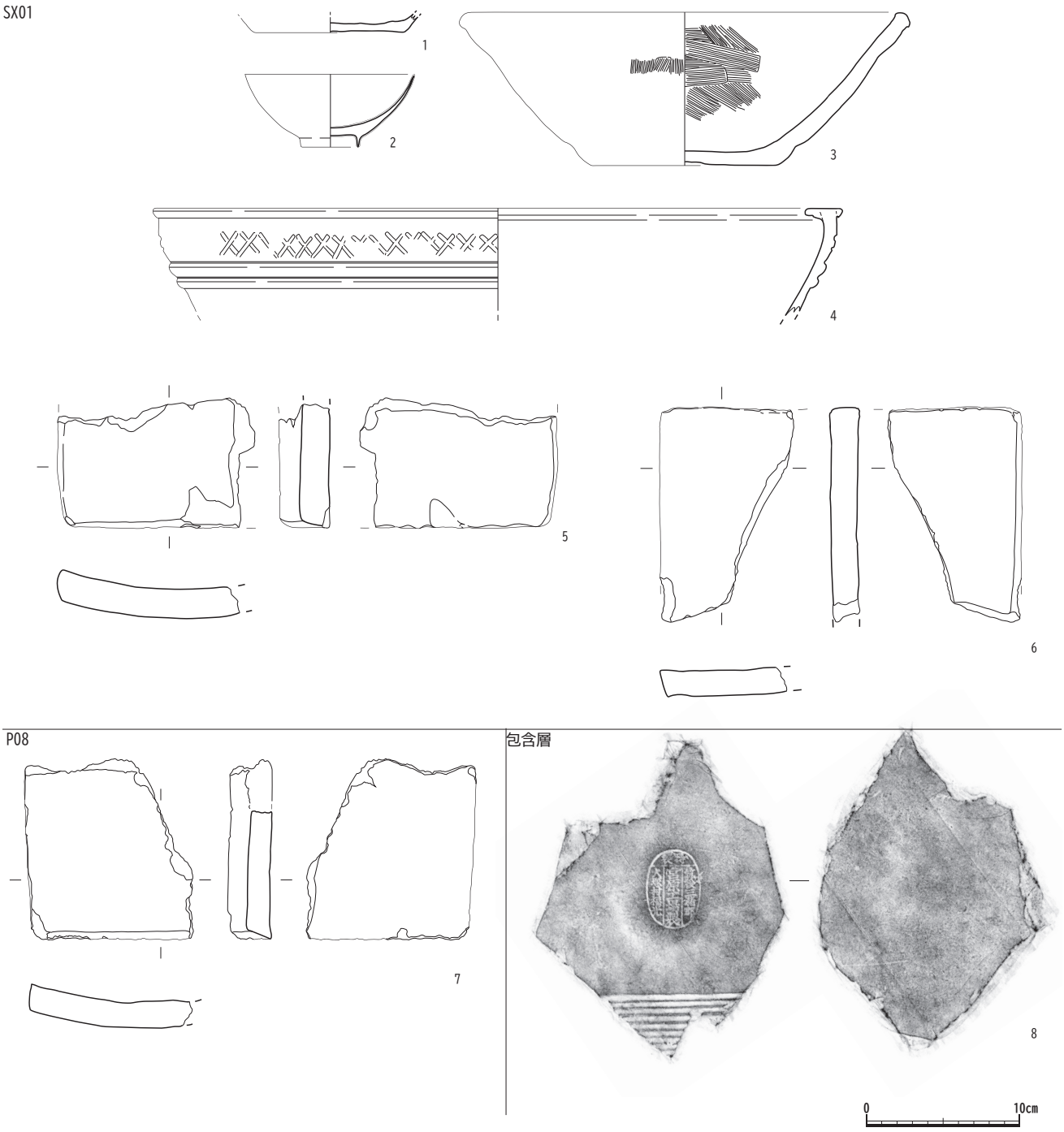




第38図　SK18出土遺物実測図〔1/4〕

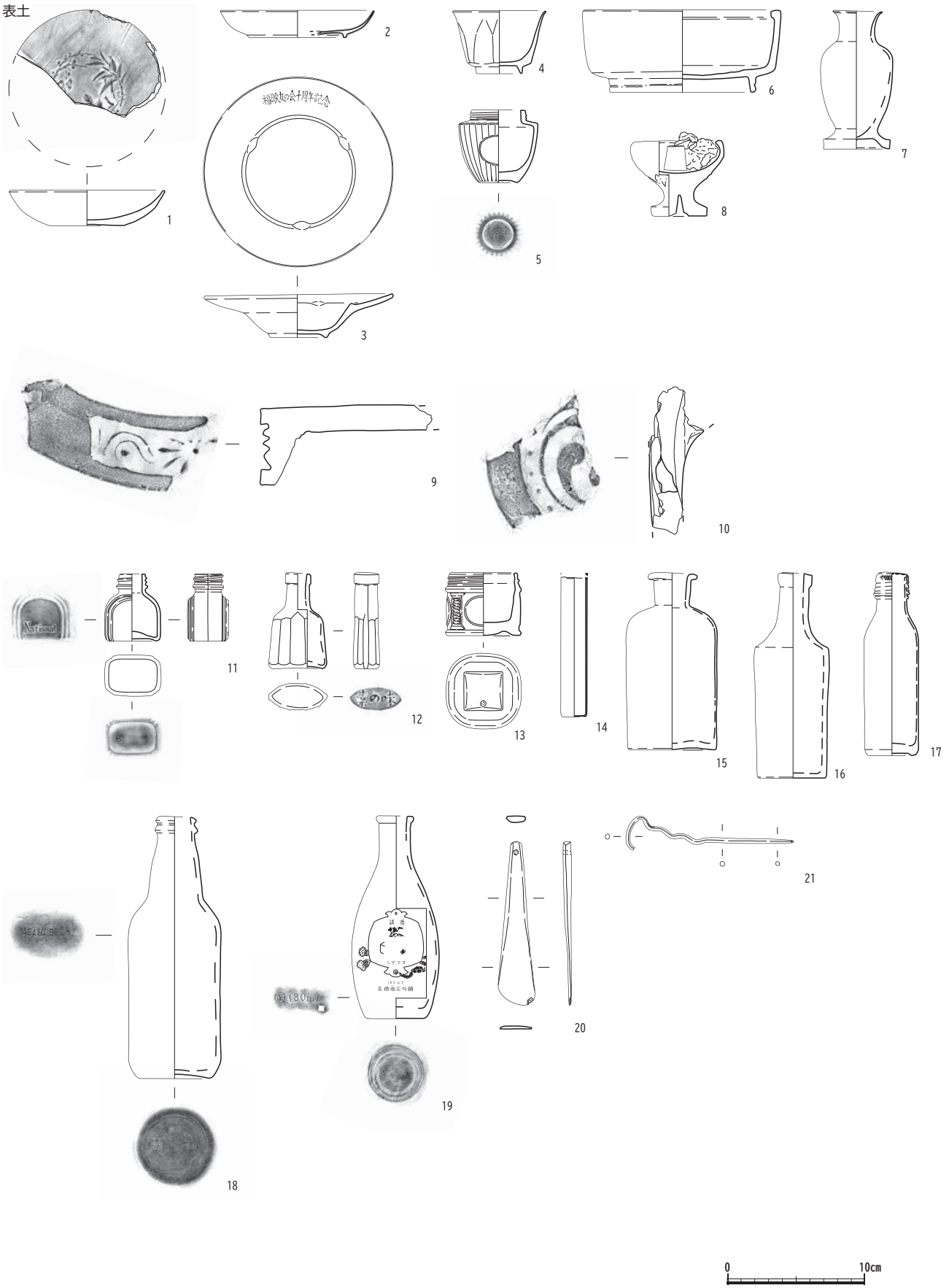
SK23




第39図　SK23出土遺物実測図〔1/4〕




第40図　SX01・ピット・包含層出土遺物実測図〔1/4〕




第41図　表土出土遺物実測図〔1/4〕

に隣接するSK23と形状が極めて近いことから近世墓の可能性がある。

23号土坑(SK23)（第6図　図版7）

調査区中央北側で検出した遺構である。北側排水路で半分削られる。残存長は約0.8mである。遺物として石蓋が出土した。第42図を見ると、明治時代の段階で本調査地が存在する福島城二ノ丸跡地には墓地を表す「L」の地図記号がある。このことから、SK23は近世墓の可能性がある。

SK23出土遺物（第39図　図版27）

1は阿蘇凝灰岩製の甕の蓋である。所謂長野石であり、近世甕棺墓の蓋として使用されたと考えられる。田代遺跡（八女市文化財調査報告書第77集）に類例がある。

近世整地層(SX01)（第6図）

調査区中央部に残存した整地層である。表土剥ぎ時に近世整地層に気づかず表土剥ぎを行ってしまい、現場作業中も遺物が出る高まりとしか認識していなかった。そのため、土層図等も存在しないが、本来はこの近世整地層が1面、本調査で遺構検出した深さが2面である。調査終了後、重機によりSX01を崩したところ、遺物が出土した。出土遺物は土師器の坏・土鍋、瓦質土器の火鉢、陶器の鉢、磁器の碗、平瓦が出土した。

SX01出土遺物（第40図　図版27）

1は土師器の坏で底部糸切。2は磁器の碗である。3は陶器の鉢である。4は瓦質土器の火鉢である。口縁部にX字文を巡らす。5・6は平瓦である。

ピット・包含層出土遺物（第40図　図版28）

7は平瓦である。8は平瓦で燻瓦である。中央に銘があり、「□製　筑後三潴郡　宮原工場製　大塚村福光」とある。

表土出土遺物（第41図　図版28～31）

1は土師器の盃で見込に松竹梅文の浮彫がある。2は磁器の皿。3は磁器の灰皿で「福栄友の会十周年記念」の銘がある。SD01を切るコンクリート基礎部分で発見された。4は磁器の小碗。5は磁器で資生堂の瓶である。6は陶器の段重である。7は磁器の仏花器で外面に千鳥紋を描く。8は陶器のひょうそくである。9は軒平瓦。10は軒丸瓦の瓦当で左三巴紋。11はガラスインクビンで胴部外面に「National」のエンボス、底部外面にT字状のエンボスがある。12はガラス調味料ビンである。底部外面に「味の素」のエンボスがある。13はガラス化粧ビン。14はガラス製の試験管。15はガラスの薬ビン。16はガラスビンである。17は栄養剤のガラスビンで錆びた金属製のフタがついたままになっている。18はアサヒビールビンで胴部外面に「ASAHI BEER」のエンボス、底部外面に「SN R5 64」のエンボスがある。19はガラスの酒ビンである。胴部外面に「正180ml」、底部外面に「S A」のエンボスがある。胴部にラベルがあり、分かる範囲で復元した。高橋商店は八女市に享保2（1717）年からある酒蔵である。20は角鹿製の和裁用ヘラである。21はセルロイド製のかんざしである。その他ガラスビン（図版31）が出土している。

# 第2表　福島城跡第1次調査出土遺物観察表

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類器種 | 法量【cm】 | | | | 胎土 | 色調 外面 内面 釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 口径（長） | 底径（幅） | 器高（厚） | 重さ（g） | | | | | |
| 10-1 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 小皿 | (8.0) | 6.2 | 1.25 | | 粗砂　片岩　赤色粒 | 外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 | ナデ　糸切り | 口縁の形は歪で左右対称ではない | R-200 |
| 10-2 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 小皿 | (8.2) | 6.7 | 1.4 | | 細砂 | 外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 | ナデ　糸切り | | R-199 |
| 10-3 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 小皿 | 7.6 | 6.3 | 1.7 | | 粗砂　片岩　赤色粒 | 外:にぶい橙 内:にぶい橙 | ナデ　ヨコナデ 糸切り | | R-201 |
| 10-4 | SD01 Ⅱ層 | 土師器 小皿 | | 4.6 | 1.4 | | 粗砂　雲母 石英　赤色粒 | 外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 | ナデ 回転糸切り | | R-206 |
| 10-5 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 小坏 | 8.9 | 6.8 | 1.6 | | 細砂　片岩 | 外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 | 糸切り | | R-226 |
| 10-6 | SD01 Ⅱ層 | 土師器 坏 | | 7.5 | 〈1.3〉 | | 礫　片岩　石英 赤色粒 | 外:浅黄橙 内:浅黄橙 | ナデ　糸切り | | R-219 |
| 10-7 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 坏 | | 7.6 | 〈1.6〉 | | 粗砂　片岩 | 外:にぶい橙 内:にぶい橙 | ナデ　糸切り | | R-225 |
| 10-8 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 坏 | | (9.6) | 〈1.0〉 | | 粗砂　長石 石英　赤色粒 | 外:橙 内:橙 | 回転ナデ　ナデ 糸切り | 全体に風化 | R-222 |
| 10-9 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 坏 | | (9.6) | 〈0.9〉 | | 粗砂　赤色粒 長石　石英 | 外:橙 内:橙 | 回転ナデ 糸切り | | R-322 |
| 10-10 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 坏 | (13.0) | (10.0) | 3.2 | | 粗砂　片岩　赤色粒 | 外:橙 内:淡橙 | ケズリ　ナデ 糸切り | | R-197 |
| 10-11 | SD01 Ⅱ層a | 土師器 坏 | 13.7 | 9.7 | 3.6 | | 粗砂　片岩　赤色粒 | 外:浅黄橙 内:浅黄橙 | ナデ　糸切り | | R-213 |
| 10-12 | SD01 Ⅱ層 | 磁器 青花碗 | (14.0) | | 〈2.9〉 | | 精良 | | | | R-223 |
| 10-13 | SD01 Ⅱ層 | 白磁 碗 | | | 〈2.3〉 | | 精良 | 外:灰白 内:灰白 | | | R-207 |
| 10-14 | SD01 Ⅱ層 | 白磁 碗 | | (5.7) | 〈2.3〉 | | 細砂 | 外:灰白 内:灰白 | 釉をかきとる 花三輪文様の型押し　ケズリ | | R-208 |
| 10-15 | SD01 Ⅱ層 | 青磁 碗 | | (7.0) | 〈3.2〉 | | 精良 | 外:オリーブ灰 内:オリーブ灰 | ケズリ後施釉 釉をかきとる ケズリ(一部釉が残り不純物が付着) | | R-209 |
| 10-16 | SD01 Ⅱ層a | 青磁 碗 | (17.2) | (7.3) | 7.2 | | 精良 | 外:明オリーブ灰 内:明オリーブ灰 | ケズリ　蓮弁文 釉をかきとる | 龍泉窯系 | R-198 |
| 10-17 | SD01 Ⅱ層a | 須恵器 甕 | (26.6) | | 〈6.9〉 | | 粗砂　長石　石英 | 外:灰白 内:灰白 | ヨコナデ 格子文タタキ 平行文タタキ 接合ナデ | | R-204 |
| 10-18 | SD01 Ⅱ層a | 瓦器 碗 | | | 〈3.2〉 | | 精良 | 外:灰 内:オリーブ黒 | 回転ナデ ケズリ | | R-221 |
| 10-19 | SD01 Ⅱ層 | 陶器 壺 | | (6.1) | 〈6.8〉 | | 粗砂 | 外:明褐灰 内:明褐灰 | ケズリ　ナデ | | R-210 |
| 10-20 | SD01 Ⅱ層 | 陶器 鉢 | | | 〈3.2〉 | | 粗砂　片岩　石英 赤色粒 | 外:灰白 内:灰白 | ナデか？ | | R-212 |
| 10-21 | SD01 Ⅱ層b | 東播系須恵器 鉢 | | | 〈7.0〉 | | 粗砂　石英　長石 | 外:浅黄 内:浅黄 | | | R-224 |
| 10-22 | SD01 Ⅱ層a | 土製品 土錘 | 3.9 | 1.6 | 1.5 | 9.7 | | にぶい橙 | ナデ | | R-202 |
| 10-23 | SD01 Ⅱ層 | 土製品 土錘 | 3.6 | 0.9 | 0.9 | 3.0 | | にぶい褐 | ナデ | | R-205 |
| 10-24 | SD01 Ⅱ層a | 土製品 土錘 | 4.6 | 1.4 | 1.2 | 6.0 | | 灰白 | ナデ | 土錘孔内に紐あり | R-203 |
| 10-25 | SD01 Ⅱ層 | 石製品 砥石 | 6.5 | 〈7.0〉 | 0.8 ～ 1.35 | 92.0 | | 淡黄 | | | R-211 |
| 10-26 | SD01 Ⅰ層 | 土師器 坏 | (13.4) | (8.8) | 2.7 | | 礫　片岩　赤色粒 | 外:浅黄橙 内:浅黄橙 | ナデ　糸切り | | R-216 |
| 10-27 | SD01 Ⅰ層 | 青磁 碗 | | 5.4 | 〈1.9〉 | | 細砂 | 外:灰 内:灰 | ケズリ 釉をかきとる | 龍泉窯系 | R-217 |
| 10-28 | SD01 Ⅰ層 | 土師器 土鍋 | | | 〈3.5〉 | | 粗砂　片岩　石英 | 外:明赤褐 内:明赤褐 | ナデ　ハケ目 | | R-215 |
| 10-29 | SD01 Ⅰ層 | 石製品 石鍋 | 〈2.3〉 | 〈7.0〉 | 1.0 | 33.4 | | 外:黒 内:暗灰 | ケズリ | 外面全体にスス付着 | R-214 |
| 10-30 | SD01 Ⅰ層 | 陶器 鉢 | | | 〈7.2〉 | | | 外:浅黄橙 内:浅黄橙 | ナデか？ 一部ハケ目か？ | | R-220 |
| 10-31 | SD01 | 土師器 坏 | (9.4) | (7.9) | 1.5 | | 粗砂　片岩　角閃石 | 外:浅黄橙 内:浅黄橙 | ナデ　糸切り | | R-232 |
| 10-32 | SD01 | 土師器 小皿 | | 4.7 ～ 5.1 | 〈1.6〉 | | 粗砂　長石　石英 赤色粒 | 外:橙　浅黄橙 内:橙　灰白 | 回転ナデ　ナデ 糸切り | 化粧土が残る | R-229 |

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類<br>器種 | 法量【cm】 | | | | 胎土 | 色調<br>外面<br>内面<br>釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 口径（長） | 底径（幅） | 器高（厚） | 重さ（g） | | | | | |
| 10-33 | SD01 | 東播系須恵器<br>すり鉢 | | | 〈4.5〉 | | 礫　片岩 | 外：褐灰<br>内：にぶい赤褐 | ヨコナデ<br>すり鉢用の溝5条入る | | R-227 |
| 10-34 | SD01 | 石製品<br>石鍋（再成品） | 〈6.7〉 | 〈4.4〉 | 1.6 | 52.7 | | 黒　褐灰 | 全面に大小、深浅様々な線刻 | 断面など複数ヶ所に門歯痕のような痕跡が見られる | R-234 |
| 10-35 | SD01 | 石製品<br>石鍋 | | | 〈6.9〉 | 176.6 | | 外：黒<br>内：灰 | | | R-233 |
| 10-36 | SD01 | 土製品<br>土錘 | 〈3.3〉 | 1.6 | 1.65 | | | 褐色　明黄褐 | ナデ・オサエ | | R-230 |
| 10-37 | SD01 | 鉄製品<br>刀子（小柄） | 〈14.0〉 | 1.5 | 2～3mm | 13.9 | | 暗褐 | | 鉄処理No.723 | R-238 |
| 10-38 | SD02 | 土師器<br>小皿 | 9.7 | 5.6 | 2.3 | | 粗砂　片岩　赤色粒 | 外：淡橙<br>内：淡橙 | ヨコナデ<br>糸切り | ひずみが大きい | R-284 |
| 10-39 | SD02 | 白磁<br>皿 | （12.4） | （7.1） | 3.4 | | 細砂 | 外：灰白<br>内：灰白 | 釉をかきとる | 釉の中に白い繊維状のものが付着 | R-280 |
| 10-40 | SD02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈10.5〉 | 〈6.1〉 | 1.9 | 140.0 | | 灰白～灰 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-279 |
| 10-41 | SD03 | 土師器<br>土鍋 | | | 〈4.9〉 | | 粗砂　片岩　石英<br>赤色粒　角閃石 | 外：にぶい橙<br>内：にぶい橙 | ナデ　ハケ目 | | R-283 |
| 10-42 | SD03 | 土製品<br>土錘 | （3.25） | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 細砂 | 橙 | | | R-281 |
| 10-43 | SD03 | 陶器<br>火鉢 | （23.5） | | 〈7.5〉 | | 粗砂　雲母　片岩 | 外：灰黄褐<br>内：にぶい橙 | ヨコナデ | | R-282 |
| 11-1 | SD01<br>カクラン | 石製品<br>甕蓋 | 51.6 | 34.3 | 6.0 | 8450.0 | 阿蘇凝灰岩 | 褐灰 | | | R-325 |
| 13-1 | SE01 | 土師器<br>皿 | （7.2） | （5.0） | 1.7 | | 粗砂　片岩　角閃石 | 外：にぶい橙<br>内：にぶい橙 | ヨコナデ　ナデ<br>糸切り | | R-289 |
| 13-2 | SE01 | 磁器（染付）<br>小皿 | （9.2） | 3.7 | 2.9 | | 精良 | 外：群青（呉須の色）<br>染付<br>内：白<br>釉調：透明 | | 型紙摺　外面：草花文<br>縁：輪宝文<br>見込：松竹梅輪状文　高台内に吉 | R-285 |
| 13-3 | SE01 | 磁器<br>端反碗 | （11.4） | | 4.0 | | 精良 | 外：灰白<br>内：灰白 | ナデ後施釉 | 染付 | R-288 |
| 13-4 | SE01 | 瓦<br>丸瓦 | 〈23.4〉 | 〈6.3〉 | 2.0 | 460.0 | | 灰 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-274 |
| 13-5 | SE01 | 瓦<br>丸瓦 | 〈12.6〉 | 〈9.0〉 | 2.3 | 320.0 | | 灰白 | 強いナデ　布目<br>面取り | | R-275 |
| 13-6 | SE01 | 瓦<br>平瓦 | 〈11.1〉 | 〈10.0〉 | 2.0 | 280.0 | | 灰黄 | ナデ | | R-278 |
| 13-7 | SE01 | 瓦<br>平瓦 | 〈16.6〉 | 〈11.8〉 | 1.6 | 365.0 | | 黄灰 | ナデ | | R-277 |
| 13-8 | SE01 | 瓦<br>鬼瓦 | 〈25.5〉 | 〈10.8〉 | 4.7 | 800.0 | | 灰 | | 二次加工で表面を整えた痕跡あり<br>先端の尖ったもので段々に刺したような痕あり | R-276 |
| 13-9 | SE01 | 石製品<br>石錘 | 6.3 | 7.1 | 0.9 | 57.1 | | 灰白 | | | R-290 |
| 15-1 | SK01 | 磁器<br>碗 | （11.2） | （6.8） | 6.55 | | 精良 | 外：灰白<br>内：灰白<br>釉調：透明 | | | R-004 |
| 15-2 | SK01 | 陶器<br>鉢 | | | 〈6.7〉 | | 精良 | 外：明赤灰<br>にぶい赤褐<br>内：灰白　明褐灰<br>釉調：灰白 | 回転ナデ後施釉 | 灰釉をハケでぬり、外面には鉄釉、内面にも褐釉で文様をつける | R-005 |
| 15-3 | SK01 | 陶器<br>すり鉢 | | | 〈4.7〉 | | 精良 | 外：黒褐<br>内：褐灰<br>釉調：褐釉 | すり目 | | R-006 |
| 15-4 | SK01 | 土師器<br>脚部 | 4.9 | 5.2 | 4.0 | | | 灰褐 | ハケ状工具ナデ<br>指ナデ | | R-009 |
| 15-5 | SK01 | 瓦<br>丸瓦 | 〈15.0〉 | 〈9.3〉 | 2.0 | 400.0 | | 黄灰 | | | R-007 |
| 15-6 | SK01 | 瓦<br>平瓦 | 〈9.6〉 | 〈11.0〉 | 1.5 | 250.0 | | 灰 | | | R-008 |
| 15-7 | SK01 | 瓦<br>軒丸瓦瓦当 | 〈15.0〉 | 11.0 | 2.3 | 580.0 | | 灰 | ナデ | 瓦当と丸瓦の接合部に工具痕のような凹凸あり<br>内区文様　巴文 | R-001 |
| 15-8 | SK01 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈15.0〉 | 〈11.0〉 | 2.5 | 210.0 | | 灰 | ナデ<br>工具痕か？ | 内区文様　巴文 | R-002 |
| 15-9 | SK01 | 石製品<br>石臼 | | | 〈4.9〉 | | | 外：灰<br>内：灰 | | | R-003 |
| 16-1 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈8.6〉 | 〈8.4〉 | 2.0 | 190.0 | | 灰 | ナデ　面取り | | R-012 |

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類<br>器種 | 法量【cm】<br>口径（長） | 底径（幅） | 器高（厚） | 重さ（g） | 胎土 | 色調<br>外面<br>内面<br>釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16-2 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈10.4〉 | 〈9.4〉 | 2.2 | 265.0 | | 外:灰<br>内:灰 | ナデ 面取り<br>布目後コビキ痕 | | R-016 |
| 16-3 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈9.3〉 | 〈7.1〉 | 1.8 | 145.0 | | 外:灰<br>内:にぶい黄 | ナデ 面取り<br>コビキ痕<br>ヘラ切り | | R-015 |
| 16-4 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈11.1〉 | 〈7.9〉 | 1.8 | 210.0 | | 灰 | ナデ 面取り | | R-014 |
| 16-5 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈12.4〉 | 〈10.3〉 | 1.7 | 360.0 | | 褐灰 | | | R-010 |
| 16-6 | SK02 | 瓦<br>丸瓦 | 〈12.3〉 | 〈12.1〉 | 1.8 | 230.0 | | 灰 | ナデ コビキ痕<br>吊り紐痕 | | R-011 |
| 16-7 | SK02 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈11.8〉 | 〈12.0〉 | 1.9<br>～<br>2.7 | 305.0 | | 灰白 灰 | ナデ 面取り<br>コビキ痕 | 上面に褐色の化粧土？が〈る | R-013 |
| 16-8 | SK02 | 瓦<br>平瓦 | 〈14.8〉 | 〈12.4〉 | 2.0 | 450.0 | | 外:灰<br>内:灰 | ナデ | | R-017 |
| 16-9 | SK02 | 陶器<br>手塩皿 | (約6.0) | | | | 精良 | 外:赤褐<br>内:赤褐 | | | R-196 |
| 16-10 | SK02 | 鉄製品<br>角釘 | 〈2.5〉 | 0.9 | 0.55 | 1.30 | | 外:褐色<br>内:褐色 | | サビ | R-244 |
| 18-1 | SK03 | 土師器<br>皿 | (12.0) | (6.2) | 3.1 | | 礫 石英 粗砂 角閃石 長石 雲母 | 外:にぶい橙<br>内:にぶい橙 | 回転ナデ ナデ<br>回転糸切り | 底部糸切り | R-170 |
| 18-2 | SK03 | 土師器<br>小皿(灯明皿) | 10.3<br>～<br>10.8 | 6.2<br>～<br>6.5 | 1.9<br>～<br>2.3 | | 粗砂 長石 石英<br>雲母 | 外:にぶい橙<br>橙<br>内:にぶい橙<br>橙 | 回転ナデ<br>糸切り | 口縁部7ヶ所に油煙付着 | R-173 |
| 18-3 | SK03 | 土師器<br>皿 | | 7.4 | 〈3.7〉 | | 粗砂 長石 石英<br>角閃石 雲母 | 外:にぶい黄橙<br>内:にぶい黄橙 | 工具による回転<br>ナデ ナデ<br>回転糸切り | 底部糸切り | R-171 |
| 18-4 | SK03 | 土師器<br>土鍋 | | | 〈8.0〉 | | 粗砂 金雲母 長石<br>石英 | 外:黒褐<br>灰黄褐<br>内:にぶい黄橙<br>にぶい黄褐 | 回転ナデ<br>ナデ・オサエ<br>ハケ目後ナデオサエ | 外面にスス付着<br>内面底付近にコゲ | R-172 |
| 18-5 | SK03 | 陶器<br>皿 | (12.3) | (6.4) | 3.5 | | 精良 | 外:灰オリーブ<br>内:灰オリーブ | 回転ナデか？ | 高台部削り出し<br>内面と高台部に目跡あり | R-175 |
| 18-6 | SK03 | 磁器(白磁)<br>碗 | (14.6) | 6.4<br>～<br>6.6 | 〈5.9<br>～<br>6.1〉 | | 白色 精良 | 外:灰白<br>内:灰白<br>釉調:透明釉 | 釉をかきとる | 見込み、高台に目跡(砂目)どちらも6ヶ所あり 高台に2か所切込みあり | R-174 |
| 18-7 | SK03 | 瓦<br>軒丸瓦瓦当 | 〈12.8〉 | 15.8 | 1.9 | 390.0 | | 外:灰黄<br>内:灰黄 | | | R-028 |
| 18-8 | SK03 | 瓦<br>軒丸瓦 | (27.0) | 14.3 | 2.5 | 1510.0 | | 灰 | ナデ 工具ナデ<br>面取り 布目痕<br>後コビキ痕 吊り紐痕 | 穿孔 | R-021 |
| 18-9 | SK03 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈15.8〉 | 14.8 | 2.0 | 690.0 | | 灰 | ナデ 工具ナデ<br>面取り 布目痕<br>コビキ痕 | | R-133 |
| 19-10 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈16.7〉 | 14.9 | 2.6 | 735.0 | | 外:灰<br>内:灰 | ナデ 面取り<br>コビキ後ナデ？ | | R-039 |
| 19-11 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈17.8〉 | 〈13.7〉 | 2.1 | 700.0 | | 灰 | ナデ ヨコナデ<br>工具ナデ 面取り 布目痕 コビキ痕 布目痕<br>後コビキ痕 | 穿孔 | R-032 |
| 19-12 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈19.2〉 | 〈13.4〉 | 2.0 | 540.0 | | 灰 | ナデ ヨコナデ<br>面取り 布目痕<br>布目痕後コビキ痕 | | R-038 |
| 19-13 | SK03<br>Ⅱ層 | 瓦<br>丸瓦 | 9.9 | 〈14.5〉 | 2.5 | 500.0 | | 外:灰<br>内:灰 | ナデ 面取り<br>コビキ痕 | | R-036 |
| 20-14 | SK03<br>Ⅱ層 | 瓦<br>丸瓦 | 〈14.5〉 | 14.2 | 2.4 | 490.0 | | 外:灰<br>内:灰 | ナデ 面取り<br>コビキ痕 吊り紐痕 | | R-033 |
| 20-15 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈6.4〉 | 13.3 | 2.3 | 210.0 | | 灰 | ナデ 面取り<br>布目痕<br>吊り紐痕 | | R-141 |
| 20-16 | SK03<br>Ⅰ層 | 瓦<br>丸瓦 | 〈15.8〉 | 13.8 | 1.7 | 490.0 | | 灰 | ナデ 工具ナデ<br>面取り 布目痕<br>・コビキ痕 | 重さ石膏含む | R-031 |
| 20-17 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈19.3〉 | 〈8.9〉 | 2.1 | 450.0 | | 褐灰 | ナデ 面取り<br>コビキ痕 | | R-048 |
| 20-18 | SK03<br>Ⅰ層 | 瓦<br>丸瓦 | 27.4 | 11.3 | 2.1 | 710.0 | | 灰白・淡黄 | ナデ ヨコナデ<br>工具痕 布目痕<br>後コビキ痕 | 重さ石膏含む | R-056 |
| 21-19 | SK03<br>Ⅱ層 | 瓦<br>丸瓦 | 〈19.1〉 | 〈12.3〉 | 2.3 | 650.0 | | 灰 | ナデ 工具ナデ<br>コビキ痕 | | R-120 |
| 21-20 | SK03 | 瓦<br>丸瓦 | 〈21.8〉 | 13.0 | 1.8 | 750.0 | | 灰 | ナデ 面取り<br>コビキ痕 | | R-046 |

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類器種 | 法量【cm】 | | | | 胎土 | 色調 外面 内面 釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 口径（長） | 底径（幅） | 器高（厚） | 重さ（g） | | | | | |
| 21-21 | SK03 | 瓦 丸瓦 | 〈24.4〉 | 〈11.9〉 | 2.5 | 790.0 | | 灰 | ナデ ヨコナデ 工具ナデ 面取り 布目痕後コビキ痕 | | R-037 |
| 22-22 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 丸瓦 | 〈13.0〉 | 〈9.0〉 | 2.2 | 400.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-054 |
| 22-23 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 丸瓦 | 〈15.6〉 | 〈8.7〉 | 2.5 | 440.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-051 |
| 22-24 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 軒丸瓦 | 〈16.0〉 | 14.3 | 2.1 | 760.0 | | 灰黄 | ナデ 工具ナデ 布目痕後コビキ痕 | 穿孔 重さ石膏含む | R-030 |
| 22-25 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 丸瓦 | 〈16.3〉 | 〈10.5〉 | 1.9 | 450.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-050 |
| 22-26 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 丸瓦 | 〈7.8〉 | 〈7.8〉 | 1.8 | 230.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-052 |
| 23-27 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 丸瓦 | 〈17.6〉 | 〈6.2〉 | 2.5 | 400.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 布目 | | R-053 |
| 23-28 | SK03 | 瓦 丸瓦 | 14.9 | 〈6.6〉 | 1.8 | 200.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-049 |
| 23-29 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 谷丸瓦 | 26.3 | 〈13.5〉 | 2.5 | 1230.0 | | 暗灰 | ナデ 面取り 布目痕 ヨコナデ | 穿孔 | R-025 |
| 23-30 | SK03 Ⅰ層 | 瓦 丸瓦 | 〈5.7〉 | 〈6.8〉 | 2.8 | 70.0 | | 外：灰オリーブ 内：灰オリーブ | ナデ | 穿孔あり | R-029 |
| 24-31 | SK03 | 瓦 平瓦 | 〈18.1〉 | 〈15.1〉 | 1.7 | 550.0 | | 黄灰 | ナデ コビキ痕後ナデ | | R-070 |
| 24-32 | SK03 | 瓦 平瓦 | 25.5 | 〈11.2〉 | 1.7～2.0 | 650.0 | | 外：灰黄褐 内：にぶい橙 褐灰 | コビキ痕 コビキ後ヘラケズリ ヘラケズリ | | R-076 |
| 24-33 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 平瓦 | 26.3 | 〈13.3〉 | 1.9 | 840.0 | | 褐灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-042 |
| 24-34 | SK03 | 瓦 平瓦 | 〈15.8〉 | 22.5 | 2.3 | 900.0 | | 外：黄灰 内：黄灰 | 全面ナデ | | R-045 |
| 25-35 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 平瓦 | 〈18.7〉 | 〈16.0〉 | 1.9 | 700.0 | | 暗灰・灰黄 | ナデ ヨコナデ コビキ痕 | | R-041 |
| 25-36 | SK03 | 瓦 平瓦 | 〈15.7〉 | 〈16.2〉 | 1.5～1.8 | 435.0 | | にぶい黄橙 黄灰 | ナデ 面取り | | R-057 |
| 25-37 | SK03 | 瓦 平瓦 | 〈13.2〉 | 20.9 | 1.7 | 600.0 | | 黄灰 | ナデ ケズリ ケズリ後ナデ | | R-044 |
| 25-38 | SK03 | 瓦 平瓦 | 〈15.1〉 | 〈13.6〉 | 1.8 | 480.0 | | 灰 | 工具ナデ ケズリ後工具ナデ | | R-047 |
| 26-39 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 12.5 | 〈12.0〉 | 1.7 | 570.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-027 |
| 26-40 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 14.5 | 13.5 | 1.7 | 550.0 | | 灰 | ナデ 面取り コビキ痕 コビキ痕後ナデ | | R-026 |
| 26-41 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 13.1 | 13.0 | 1.8 | 450.0 | | 外：灰 内：灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-019 |
| 26-42 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 13.0 | 13.3 | 1.6 | 520.0 | | 灰白 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-024 |
| 27-43 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 14.4 | 14.1 | 1.7 | 590.0 | | 灰黄 | ナデ 面取り コビキ痕・一部タタキ | | R-022 |
| 27-44 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 12.9 | 〈13.4〉 | 1.6 | 430.0 | | 黒褐 | ナデ 面取り 布目痕後コビキ痕 コビキ痕後ナデ | | R-023 |
| 27-45 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 12.7 | 〈13.1〉 | 2.0 | 520.0 | | 灰 | ナデ 面取り 布目痕後コビキ痕 | | R-020 |
| 27-46 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 〈12.6〉 | 11.8 | 2.1 | 430.0 | | 外：黄灰 内：黄灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-040 |
| 28-47 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 12.5 | 〈12.1〉 | 1.8 | 390.0 | | 外：灰 内：灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-034 |
| 28-48 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 12.7 | 〈10.9〉 | 2.0 | 320.0 | | 灰白～灰 | ナデ 面取り コビキ痕 | 孔のようなものあり | R-148 |
| 28-49 | SK03 Ⅱ層 | 瓦 輪違瓦 | 13.2 | 〈9.2〉 | 1.9 | 340.0 | | 外：黄灰 内：黄灰 | ナデ 面取り 布目後コビキ痕 | | R-035 |
| 28-50 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 〈12.2〉 | 7.7 | 1.7 | 240.0 | | 暗灰黄 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-118 |
| 28-51 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 〈8.7〉 | 12.1 | 2.1 | 250.0 | | 外：黄灰 内：黄灰 | ナデ 面取り 布目 コビキ痕 一部指オサエか？ | | R-043 |
| 29-52 | SK03 | 瓦 輪違瓦 | 〈13.2〉 | 11.3 | 1.75 | 340.0 | | 暗灰黄 | ナデ 面取り コビキ痕 | | R-116 |

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類<br>器種 | 法量【cm】 | | | | 胎土 | 色調<br>外面<br>内面<br>釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 口径<br>(長) | 底径<br>(幅) | 器高<br>(厚) | 重さ<br>(g) | | | | | |
| 29-53 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 12.9 | | 1.7<br>～<br>1.9 | 220.0 | | にぶい黄橙<br>暗灰黄 | ナデ　面取り<br>コビキ | | R-130 |
| 29-54 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 〈12.8〉 | 7.4 | 1.0<br>～<br>1.5 | 155.0 | | 灰オリーブ～灰 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-163 |
| 29-55 | SK03<br>Ⅰ層 | 瓦<br>輪違瓦 | 〈10.1〉 | 11.0 | 1.6 | 250.0 | | 灰黄褐 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | 重さ石膏含む | R-061 |
| 29-56 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 15.5 | 〈12.3〉 | 1.9 | 415.0 | | 灰 | ナデ(一部コビキ痕が〈る)　面取り<br>コビキ痕 | | R-119 |
| 29-57 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 〈7.1〉 | 〈5.8〉 | 1.7 | 140.0 | | 灰 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-126 |
| 29-58 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 12.9 | 〈10.2〉 | 1.5 | 270.0 | | 灰 | ナデ　面取り | | R-135 |
| 29-59 | SK03 | 瓦<br>輪違瓦 | 〈10.3〉 | 〈8.7〉 | 1.6 | 150.0 | | 灰 | ナデ　面取り<br>コビキA | 重さ石膏含む | R-129 |
| 33-1 | SK08 | 石製品<br>板碑 | 58.5 | 〈45.6〉 | 12.0 | 53870.0 | | | | | R-328 |
| 33-2 | SK08 | 石製品<br>板碑 | 73.0 | 〈51.0〉 | 13.5 | 77270.0 | | | | | R-329 |
| 34-1 | SK11 | 石製品<br>石塔 | 19.2 | 28.2 | 10.9 | 5100.0 | 凝灰岩 | 褐灰 | | 全体に割れや剥落が著しく加工痕は不明 | R-331 |
| 35-1 | SK12 | 銅製品<br>煙管(雁首) | 4.55 | 1.2 | 1.0 | 9.3 | | 明褐色　緑灰 | | 銅片が付着<br>内部に羅宇(竹管)が〈る | R-235 |
| 35-2 | SK19 | 鉄製品<br>角釘 | 〈3.2〉 | 0.5<br>～<br>0.7 | 0.5<br>～<br>0.7 | | | 明褐色 | | サビ、小石付着 | R-243 |
| 36-1 | SK15 | 瓦質土器<br>十能 | 6.0 | 5.0 | 2.5 | 90.0 | | 灰黄～黄灰 | ナデ | 一部黒斑か？ | R-176 |
| 36-2 | SK15 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈2.8〉 | 〈7.5〉 | 〈3.0〉 | 36.1 | | にぶい橙 | ナデ　接合部分剝離痕 | | R-181 |
| 36-3 | SK15 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈2.3〉 | 〈9.8〉 | 〈3.4〉 | 80.1 | | 黒 | ナデ　接合部分剝離痕 | | R-182 |
| 36-4 | SK15 | 瓦<br>平瓦 | 〈15.6〉 | 〈14.0〉 | 2.0 | 440.0 | | 灰白～灰 | ナデ　面取り | | R-183 |
| 36-5 | SK15 | 瓦<br>丸瓦 | 〈9.0〉 | 〈6.5〉 | 1.7 | 110.0 | | 灰オリーブ | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-177 |
| 36-6 | SK15 | 瓦<br>平瓦 | 〈13.5〉 | 〈7.0〉 | 1.6 | 160.0 | | 浅黄～灰 | ナデ　面取り | | R-184 |
| 36-7 | SK15 | 石製品<br>石塔 | 25.5 | 29.7 | 11.0 | | 阿蘇凝灰岩 | 灰 | | | R-327 |
| 36-8 | SK15 | 石製品<br>石塔 | 24.8 | 25.1 | 13.3 | | 阿蘇凝灰岩 | 褐灰 | | | R-330 |
| 37-9 | SK15 | 石製品<br>石塔(五輪塔・地輪) | 28.2 | 27.9 | 19.8 | 2170.0 | 凝灰岩 | 褐灰　黄灰 | | 墨書文字あり | R-326 |
| 38-1 | SK18 | 陶器<br>甕 | (52.0) | | 〈54.4〉 | | 精良 | 外:灰褐<br>内:灰褐 | ヨコナデ<br>指オサエ　タタキ後ヨコナデか当て具痕(格子目)がわずかに残る | | R-323 |
| 38-2 | SK18 | 土師質土器<br>七厘 | 36.0 | 24.5 | 31.6 | | 粗砂　片岩　石英<br>赤色粒 | 外:にぶい橙<br>内:にぶい橙 | ナデ<br>目の細かいハケ目　目の粗いハケ目　指ナデ後ハケ目 | | R-241 |
| 39-1 | SK23 | 石製品<br>甕蓋 | 54.3 | 46.2 | 5.4 | | 凝灰岩 | 黄灰 | | | R-324 |
| 40-1 | SX01 | 土師器<br>坏 | | 9.8 | 〈1.2〉 | | 粗砂　片岩<br>赤色粒子 | 外:橙<br>内:橙 | ナデ　糸切り | | R-218 |
| 40-2 | SX01 | 磁器<br>碗 | (11.1) | (3.8) | 4.8 | | 細砂 | 外:灰白<br>内:灰白 | | | R-192 |
| 40-3 | SX01 | 陶器<br>鉢 | (27.6) | (12.0) | 10.0 | | 粗砂　片岩　石英 | 外:にぶい橙<br>内:明褐灰 | ナデ　ハケ目 | | R-195 |
| 40-4 | SX01 | 土師質土器<br>火鉢 | (45.0) | | 〈7.0〉 | | 礫　石英　粗砂<br>長石　石英　雲母 | 外:橙<br>内:橙 | ナデ<br>スタンプ文様 | | R-191 |
| 40-5 | SX01 | 瓦<br>平瓦 | 〈8.5〉 | 〈12.8〉 | 2.0 | 280.0 | | 灰黄 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | | R-193 |
| 40-6 | SX01 | 瓦<br>平瓦 | 〈14.0〉 | 〈8.7〉 | 1.7 | 230.0 | | 灰 | ナデ　面取り | | R-194 |
| 40-7 | P08 | 瓦<br>平瓦 | 〈12.1〉 | 〈10.1〉 | 1.8 | 310.0 | | 灰 | ナデ　面取り<br>コビキ痕 | コビキB | R-237 |
| 40-8 | 包含層 | 瓦<br>平瓦 | 〈20.5〉 | 〈16.2〉 | 1.8 | 550.0 | | 灰 | | | R-273 |

| 挿図番号 | 出土地点 | 種類<br>器種 | 法量【cm】<br>口径（長） | 底径（幅） | 器高（厚） | 重さ（g） | 胎土 | 色調<br>外面<br>内面<br>釉調 | 調整 | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41-1 | 表土 | 土師器<br>小皿 | (11.3) | 5.4 | 2.6 | | 精良 | 外：灰白<br>内：灰白 | 回転ナデ　ナデ<br>松竹梅文　押し型（陽刻） | | R-318 |
| 41-2 | 表土 | 磁器<br>皿 | (11.2) | (7.0) | 〈2.0〉 | | 精良 | 外：明緑灰<br>内：明緑灰<br>釉調：透明釉 | 釉をかきとる | 内面に絵がある | R-292 |
| 41-3 | コンクリート基礎 | 磁器<br>灰皿 | 13.5 | 4.1 | 3.2 | | 精良 | 外：白<br>内：白　緑<br>釉調：白色釉<br>緑色釉 | | | R-301 |
| 41-4 | 表土 | 磁器<br>小碗 | (6.8) | (3.4) | 4.6 | | 精良 | 外：白<br>内：白<br>釉調：透明釉 | | 外面に絵付けがある | R-293 |
| 41-5 | 表土 | 磁器<br>瓶 | 4.0 | 2.8 | 5.3 | | 精良 | 外：白<br>内：白<br>釉調：透明釉 | | | R-299 |
| 41-6 | 表土 | 陶器<br>段重 | 14.3 | 10.4 | 6.0 | | 精良 | 外：極暗赤褐<br>内：明黄褐<br>釉調：茶色釉<br>透明釉 | | 外面に金採 | R-315 |
| 41-7 | 表土 | 陶器<br>ひょうそく | 6.5 | 4.0 | 5.5 | | 精良 | 外：褐灰　橙<br>内：褐灰<br>釉調：褐灰色釉 | 回転ナデ　回転ヘラケズリ | 鉄と鉄の不純物が付着 | R-303 |
| 41-8 | 表土 | 磁器<br>仏花器 | 3.65 | 4.9 | 10.5 | | 精良 | 外：灰白<br>内：灰白<br>釉調：透明釉 | 釉をかきとる | 胴部外面絵付けあり | R-302 |
| 41-9 | 表土 | 瓦<br>軒丸瓦 | 〈10.3〉 | 〈8.2〉 | 1.3～2.2 | 150.0 | | にぶい黄橙～褐灰 | ナデ | 瓦当　三つ巴 | R-294 |
| 41-10 | 表土 | 瓦<br>軒平瓦 | 〈13.4〉 | 〈15.6〉 | 1.9 | 580.0 | | 淡黄～暗灰黄 | ナデ　面取り | 瓦当　中心飾は菊花 | R-295 |
| 41-11 | 表土 | ガラス<br>インクビン | 2.0 | 4.1<br>×<br>3.0 | 4.9 | | | 外：透明<br>内：透明 | | ガラス内に細かい気泡あり<br>内面に付着物あり | R-298 |
| 41-12 | 表土 | ガラス<br>ビン（味の素） | 1.9 | 3.7 | 7.0 | | | 外：透明<br>内：透明 | | | R-317 |
| 41-13 | 表土 | ガラスビン<br>化粧ビン | 5.0 | 5.5 | 4.6 | | ガラス | 外：白色<br>内：白色 | | 内面に緑色の付着物あり | R-316 |
| 41-14 | 表土 | ガラス製品<br>試験管 | | 1.8 | 〈10.15〉 | | | 外：透明<br>内：透明 | | | R-300 |
| 41-15 | 表土 | ガラスビン<br>（メディシンボトル） | 3.5 | 6.2 | 12.9 | | | 外：透明<br>内：透明 | | | R-321 |
| 41-16 | 表土 | ガラス<br>ビン | 2.5 | 4.8 | 14.95 | | | 外：透明<br>内：透明 | | | R-320 |
| 41-17 | 表土 | ガラス<br>ビン（栄養剤） | 2.3 | 3.4 | 13.3 | | | 外：褐色透明<br>（本体部分）<br>銀（フタ部分） | | 金属製のフタには全体に薄くサビが付着 | R-312 |
| 41-18 | 東側側溝 | ガラスビン<br>アサヒビールビン | 3.4 | 5.0 | 19.1 | | | 外：暗褐<br>内：暗褐 | | 商品ラベルあり<br>1957以降 | R-309 |
| 41-19 | 表土 | ガラス<br>ビン（清酒） | 2.7 | 4.4 | 14.7 | | | 外：透明<br>内：透明 | | 繋桝（高橋商店）180ml入り清酒 | R-319 |
| 41-20 | 表土 | 和裁用ヘラ | 11.85 | 2.7 | 0.65 | 11.90 | | にぶい黄橙 | | 穿孔一ヶ所<br>鹿角製品 | R-306 |
| 41-21 | 表土 | かんざし | 12.2 | 3.0<br>～<br>3.75 | 0.3 | 0.5 | | 暗赤褐色 | | | R-296 |
| | SD01攪乱 | 磁器<br>湯呑み碗 | 3.8 | 1.7 | 5.2 | | | | | | R-228 |
| | SK04 | 磁器<br>猪口 | 2.4 | 2.4 | 4.2 | | | | | | R-236 |
| | 表土 | ガラスビン | 1.3 | 3.5 | 28.8 | | | | | | R-310 |
| | 表土 | ガラスビン | | 2.9 | 〈24.0〉 | | | | | 底部に300mlのエンボスあり | R-311 |

※()は復元値、〈〉は残存値を示す。

## 4 まとめ

### (1)各遺構の時期について

福島城跡1次調査では、柵列5列、掘立柱建物2棟、溝状遺構5条、井戸1基、土坑20基、近世整地層、ピットを検出した。前述のとおり、時間の制約上多数の遺構の掘削が行えていないため、掘削を行って時期が確かなもの、遺構配置や切り合い関係から時期が判断できるものをここに記す。

SA01は、未掘削であるが、SD02に平行していることから、SD02と同時期と思われる。SA03～05は、3列とも未掘削であるが、平行するため、3列とも時期は同じと思われる。SD01は下層出土の遺物は13世紀代から14世紀初頭であるが、上層の遺物から埋没期は16世紀代と考えられる。SD02は出土遺物から16世紀代に埋没したと考えられる。SD03は15世紀代の遺物が出土しているが、SD04に切られることから、SD04が掘削された17世紀初頭よりさかのぼる。SD02と軸を同じくすることから、同時期の可能性がある。SE01は安全上の理由から完掘していないが、出土遺物から埋没時期は近代である。SK01・SK02は、出土遺物から両遺構ともに18世紀後半から19世紀前半の所産である。SK03は出土遺物から、16世紀末から17世紀初頭である。SK04は出土遺物から近代の所産である。SK05は出土遺物から16世紀末から17世紀初頭以降の所産である。SK07は出土遺物から近世以降の所産である。SK08はSD02に切られることから、SD02より古い。SK12は出土遺物から19世紀以降である。SK15はSX01（近世整地層）を切るため、SX01より新しい。SK18は出土遺物から近世以降の所産である。SX01は近世の所産である。SK23は出土遺物から近世以降の所産である。

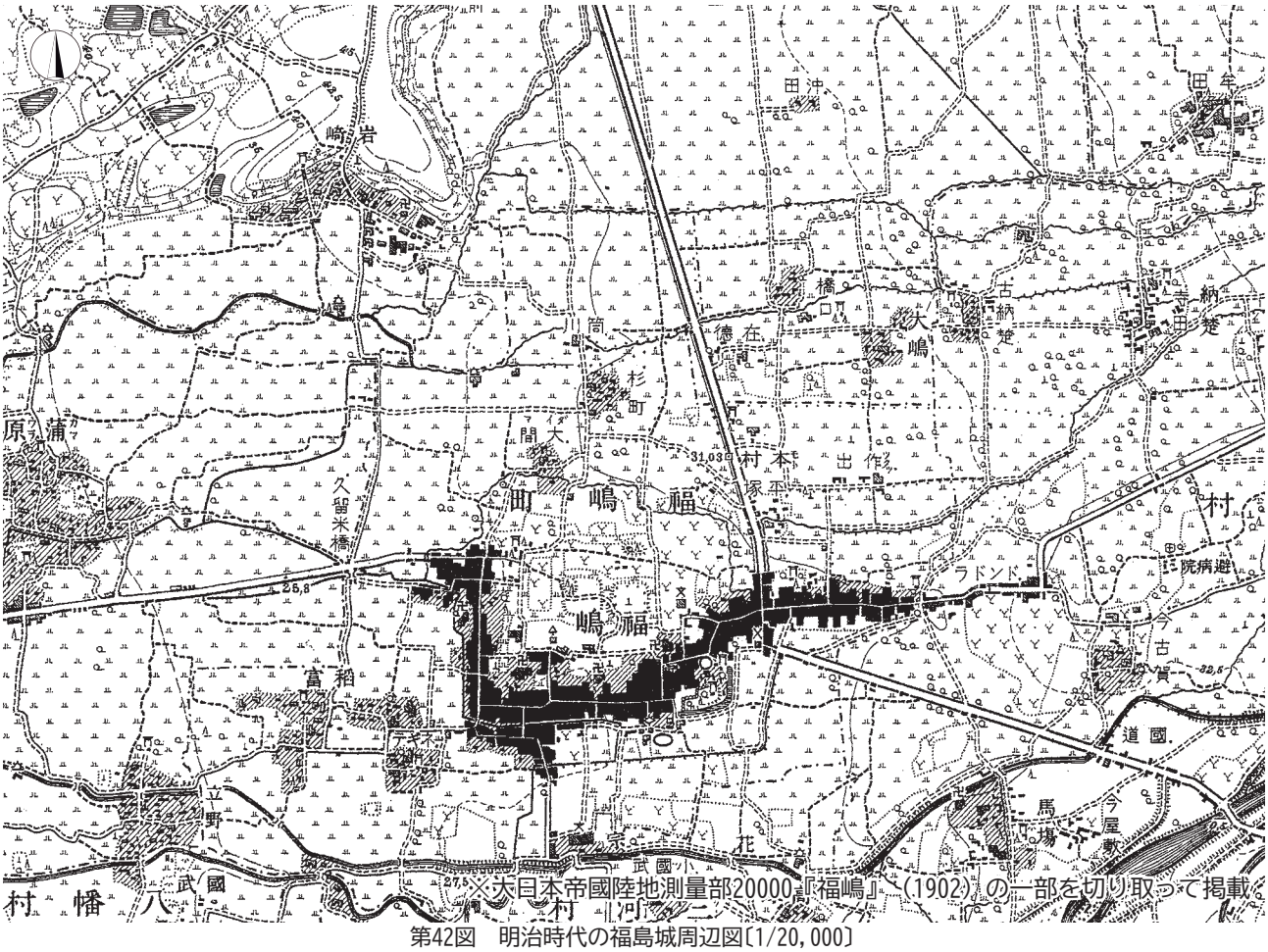
### (2)特筆すべき遺構･遺物

特筆すべき遺構として、SD01～03とSK03があげられる。

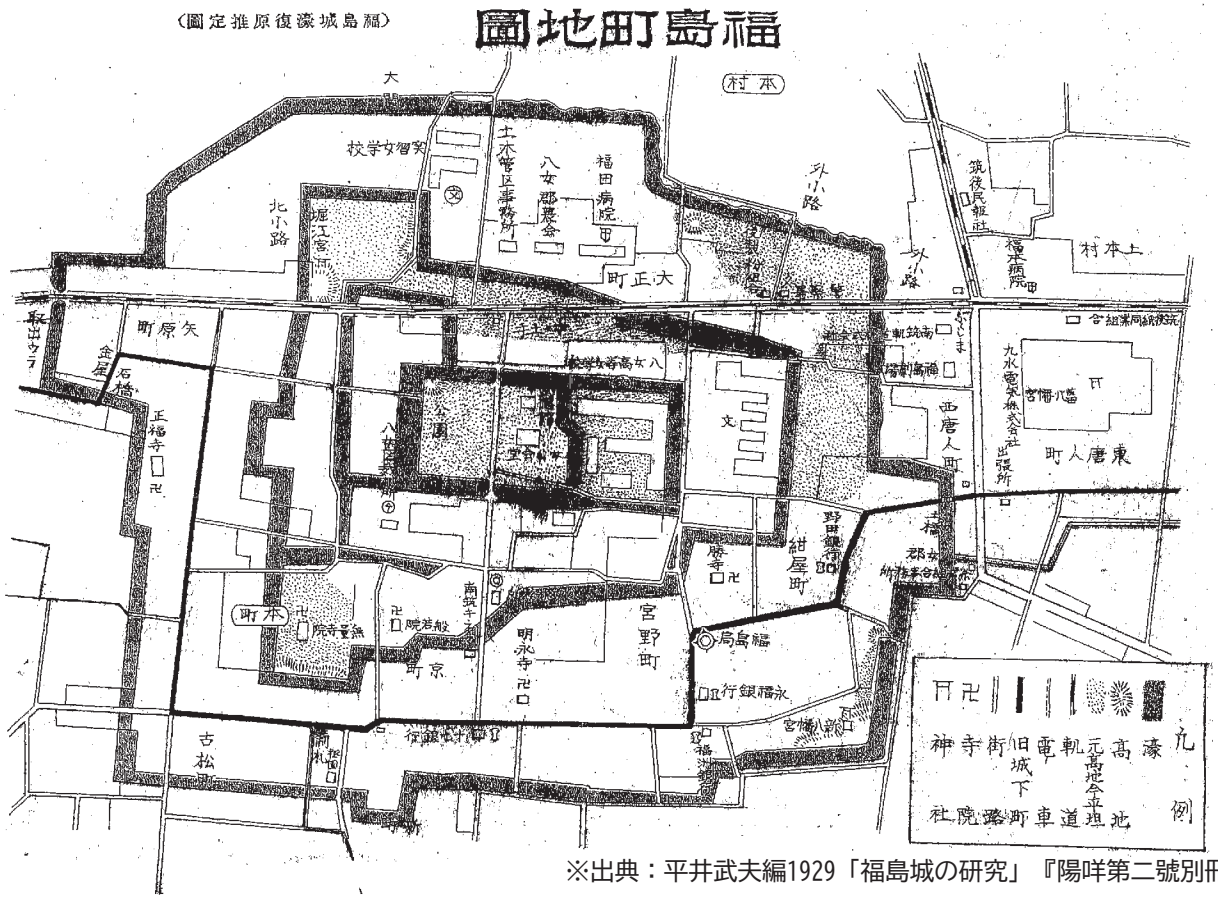
調査前は、田中期の堀が検出されることが予想されていた。しかし、調査の結果、田中期をさかのぼるSD01・SD02・SD03の3条の溝が確認された。出土遺物、軸、断面形状から3条とも城の堀と考えられるが、これまで存在が知られていなかった未知の堀である。SD03は田中期の堀であるSD04に切られていることから、田中期の福島城の堀より前の時代の堀である。

SK03に関しては、時期が16世紀末～17世紀初頭に特定できる廃棄土坑であり、多くの瓦が出土した。瓦はコビキBが大半を占めているが、コビキAも少量含まれる。コビキAからコビキBへの変化は16世紀末頃が知られている（木戸1997）。出土した位置が福島城二ノ丸跡地であること、遺物の時期が福島城が機能していた時期と重なることから、SK03出土の瓦は福島城の建物で使用されていた瓦と考えられる。また、近世・近代の遺構（SE01・SK01・SK02・SK15）からもコビキBの瓦が出土することから、福島城廃城後に城の建物の瓦を現地で再利用していたと思われる。第21図19の瓦には漢数字「十」が刻まれることから、瓦を大量に発注していたと考えられる。また、後述する肥前名護屋城博物館の資料調査において谷丸瓦（第23図29）が存在することから規模が大きい建物が存在していた可能性があるとのご教示を得た。これらのことから、瓦を大量に使用する建物が福島城内に存在したと考えられる。

その他、表土出土遺物には試験管（第41図14）やガラスの薬瓶（第41図15）などがある。また、調査区東側で側溝を検出し、側溝内からアサヒのビールビン（第41図18）が出土した。これらの遺構・遺物は福島農業学校や八女高等女学校、福島高等学校学校時代のものと考えられ、当時の学校生活を窺える資料となった。

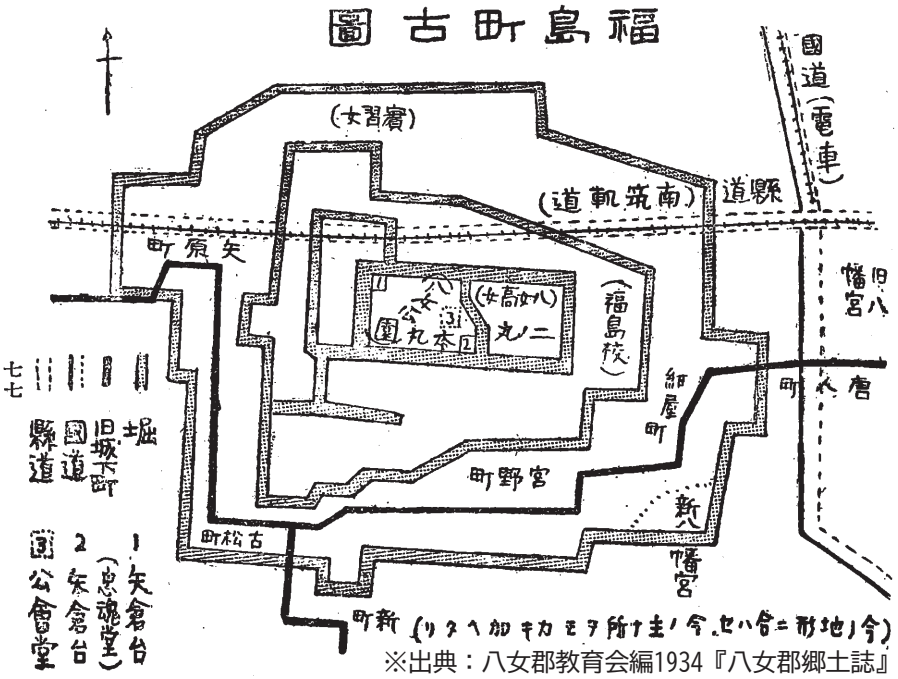



第42図　明治時代の福島城周辺図〔1/20,000〕



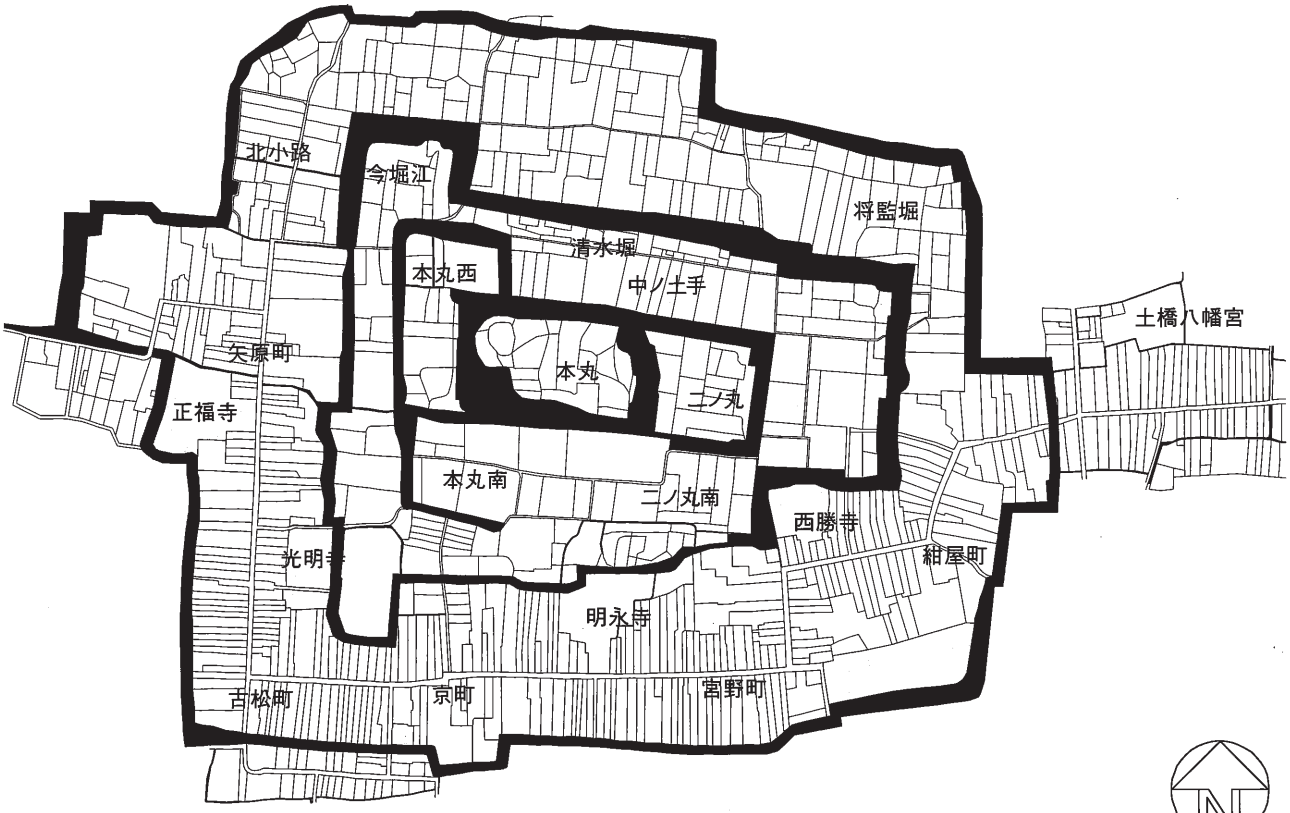

※出典：平井武夫編1929「福島城の研究」『陽咩第二號別冊』

第43図　福島城濠復元推定図(昭和4年)




※出典：八女郡教育会編1934『八女郡郷土誌』

第44図　福島城濠復元推定図(昭和9年)




※出典：八女市教育委員会発行『八女福島』（1998年発行）

第45図　福島城下町空間復元図

第46図　福島町周辺上空写真(1948 年アメリカ軍撮影)

### (3)肥前名護屋城出土の瓦と福島城1次調査出土瓦の比較

福島城跡第1次調査出土の瓦との比較検討のため、16世紀末の築城で福島城と築城時期が近い肥前名護屋城で、瓦の資料調査を行った。調査の結果、SK01出土の軒丸瓦の瓦当（第15図7)は、名護屋城出土の軒丸瓦瓦当に似ていた。両者を比較すると、同笵瓦ではないものの、法量が近く、瓦の混入物にほとんど違いが見られなかった。なお、SK01の時期は前述のとおり、18世紀後半～19世紀前半頃であり、瓦の廃棄時期は肥前名護屋城とは異なる。福島城で多く出土した輪違瓦と肥前名護屋城で出土した輪違瓦は、大きさに違いが見られた。肥前名護屋城の輪違瓦は、福島城の輪違瓦の1.2～1.3倍であり、肥前名護屋城に存在した建物は福島城の建物より大きいことが分かる。当初、瓦の製作技法による違いによって遺構の時期を筑紫期の福島城と田中期の福島城に区分できるのではないかと考えていたが、両者はほぼ同時期の人物であり、瓦によって区分するのは難しいとご教示を得た。また、福島城出土の瓦が肥前名護屋城出土の瓦とほぼ同時期に製作されたことも分かり、SK03出土瓦については福島城が城として機能していた時期（16世紀末～17世紀初頭）の所産である可能性が極めて高いとのご教示を得た。

### (4)福島城について

田中期の堀は現在、本調査区から南東に約330mの地点に所在する福島八幡宮の池以外はほとんど狭められたり、埋められたりしており、現在見ることはできない。田中期の堀割は近世に描かれた第2図や昭和初期の研究（第43・44図）から推定されており、本丸と今回調査した二ノ丸を隔てる中堀に至っては1948年時点の航空写真（第46図）でも存在が確認できる。周辺の住民によると、中堀で釣をしていたとのことである。調査の結果、未知の堀SD01～03が確認された。この3条の堀は、当初、田中期より前の福島城主である筑紫期の福島城の遺構の可能性があると考えていた。SD01に関しては、13世紀～14世紀

の堀の上に16世紀の堀が存在している。未調査だが調査区中央部には区画溝状遺構が存在し、SD01と並行している。なお、区画溝状遺構の軸はN－16°－Eである。SD02とSD03は断面形状が異なるが、軸が同一で、出土遺物も16世紀代を示すことから一連の遺構と考えらえる。SD01Ⅰ層とSD02・03は軸が異なるが、埋没時期の出土遺物は同じ時期を示すことから、一連の遺構と思われる。SD01のⅡ層には青磁が入っていることから、筑紫広門が福島城を築く前の13世紀から14世紀にかけて青白磁を入手できる有力な勢力が福島の地に存在したと考えられる。16世紀埋没の堀が筑紫期の遺構かどうかは今後の資料の増加を待ちたい。

福島城跡は、今回が初の本格的な調査である。前述のとおり、時間の制約上多くの遺構が未調査のままになってしまったことが悔やまれる。また、調査時、近世を調査対象に含めていなかったことも大変悔まれる。周辺においても福島城や福島城に付随する近世の遺跡の調査事例は皆無であり、本調査以降の調査での資料増加に期待したい。資料増加により、今回発見された未知の堀のより詳細な情報や、筑紫期・田中期の福島城に関する全貌が見えてくると思われる。

## 5 伝福島城出土鯱瓦

第47図は福島城出土と伝わるほぼ完形の鯱瓦である。出土地、出土時期ともに不明であるが、現在八女民俗資料館に収蔵展示されている。この鯱瓦に関しては、様々な指摘が行われている。

昭和4年の平井武夫氏の「福島城の研究」には鯱瓦の写真が掲載され、鯱瓦は、八女郡教育会事務所に所在し、同じ場所に中央に五三桐紋、左右に簡単な唐草紋がある唐草瓦があることから筑紫期の鯱瓦であろうと指摘されている（平井1929）。なお、唐草瓦は本報告書執筆時所在不明となっている。

その後、昭和6年発行の『郷土讀本』には鯱瓦の写真が掲載される。

昭和56年発行の『八女の郷土史』によると鯱瓦は当時、福島小学校に存在し、田中期の鯱瓦とされている（八女郷土史研究会1981）。

昭和57年の久留米市史第2巻や平成4年の八女市史上巻では福島城出土の鯱瓦とだけあり、時期については記されていない（久留米市史第2巻・八女市史上巻）。

2017年の九州歴史資料館の図録や『福岡県の中近世城館跡Ⅳ』では田中期の福島城の大櫓に用いられたものと推測されている（九州歴史資料館2017・福岡県教育委員会2017）。

令和元年度の久留米市の文化財調査報告書では筑紫期の鯱瓦の可能性が指摘されている（久留米市文化財調査報告書第420集）。

鯱瓦の鱗の表現は鱗1枚1枚を貼付ける方法から篦を用いてU字状の刻みを入れる技法を経て、U字スタンプによる押印へと変化することが知られている（西本2023）。福島城出土の鯱瓦は、肥前名護屋城出土の鯱瓦と比較した結果、篦描きと考えられる。U字スタンプの登場は天正16（1588）年以降と考えられている。また、伝福島城出土鯱瓦を観察すると、石英、白雲母、赤色粒に加え、角閃石が少量入っている。これらのことから、鯱瓦は筑後地域で制作された可能性があり、16世紀後半の筑紫広門の鯱瓦の可能性が高いと思われる。

参考文献

江頭俊介編2020『久留米城外郭遺跡』久留米市文化財調査報告書第420集　久留米市教育委員会

木戸雅寿編1997「寺院の瓦から城郭の瓦へ－中近世瓦研究の現状と課題－」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第8集』帝京大学山梨文化時研究所

九州歴史資料館2017『福岡県の城－戦国乱世の城から幕藩体制の城へ－』九州歴史資料館

久留米市史編さん委員会1982『久留米市史第2巻』久留米市
西本茉由2023「《資料紹介》名古屋城小天守台西から出土した鯱瓦」『名古屋城調査研究センター第4号』名古屋城調査研究センター
平井武夫編1929「福島城の研究」『陽咩第二號別冊』
福岡県教育委員会2017『福岡県の中近世城館跡Ⅳ－筑後地域・総括編－』福岡県文化財調査報告書第260集
福岡縣八女郡福島尋常高等小學校編1931『郷土讀本』福島　全校
八女郷土史研究会編1981『八女の郷土史』八女郷土史研究会
八女市史編さん委員会1992『八女市史上巻』八女市

第47図　伝福島城出土鯱瓦6面展開写真[1/10]

# 図版

図版 1

(1)福島城跡 1 次調査区（北東上空から）

(2)八女市役所旧庁舎（南東上空から）

図版 2

(1)調査区全景（上空から）

(2)SD01（上空から※写真右側が北）

図版 3

(1)SD02・SD03・SK01・SK02・SK03（上空から※写真右側が北）

(2)八女市役所新庁舎（北東上空から　新庁舎建設課より提供）

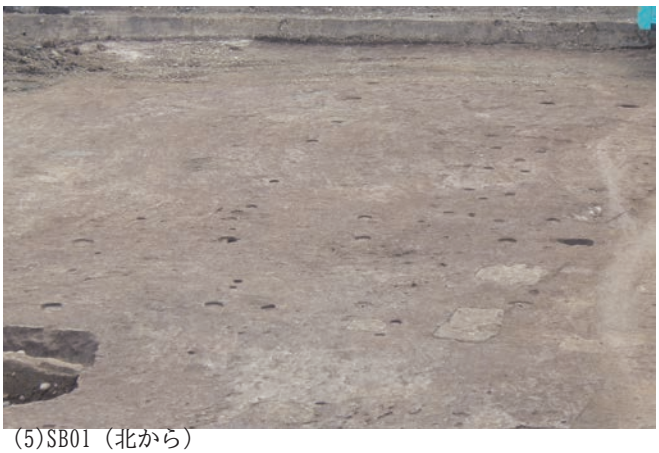
図版 4

(1)SA01（北から）

(2)SA02（西から）

(3)SA03・SA04・SA05（北から）

(4)SA03・SA04・SA05・SB01（北西から）


(5)SB01（北から）

(6)SB02（北から）

(7)SD01（西から）

(8)SD01 土層（北から）

図版 5

(1)SD02・SD03・SK01 ～ 03・SX01（西から）

(2)SD02 土層（南から）

(3)SD03 土層（南から）

(4)SD03・SD04（南東から）

(5)SE01 土層（南から）

(6)SK01 土層（南から）

(7)SK01 完掘状況（北西から）

(8)SK02 土層（南から）

図版 6

(1)SK02 完掘状況（北から）

(2)SK03 土層（北から）

(3)SK03 完掘状況（北から）

(4)SK04 検出状況（南から）

(5)SK05（西から）

(6)SK06（南から）

(7)SK07 土層（西から）

(8)SK08 検出状況（北東から）

図版 7

(1)SK08 完掘状況（東から）

(2)SK10（西から）

(3)SK15（北から）

(4)SK15 遺物出土状況（北から）

(5)SK18 遺物出土状況（南から）

(6)SK22・SK23 完掘状況（西から）

(7)SD01 掘削状況（南から）

(8)SD01 掘削状況（北西から）

図版 8　出土遺物

(1)10-1

(2)10-2

(3)10-3

(4)10-4

(5)10-5

(6)10-6

(7)10-7

(8)10-8

図版 9　出土遺物

(1)10-9

(2)10-10

(3)10-11

(4)10-12

(5)10-13

(6)10-14

(7)10-15

(8)10-16

図版 10　出土遺物

(1)10-17

(2)10-18

(3)10-19

(4)10-20

(5)10-21

(6)10-22

(7)10-23

(8)10-24

図版 11　出土遺物

(1)10-25

(2)10-26

(3)10-27

(4)10-28

(5)10-29

(6)10-30

(7)10-31

(8)10-32

図版 12　出土遺物

(1)10-33

(2)10-34

(3)10-35

(4)10-36

(5)10-37

(6)10-38

(7)10-39

(8)10-40

図版 13　出土遺物

(1)10-41

(2)10-42

(3)10-43

(4)11-1

(5)13-1

(6)13-2

(7)13-3

図版 14　出土遺物

(1)13-4

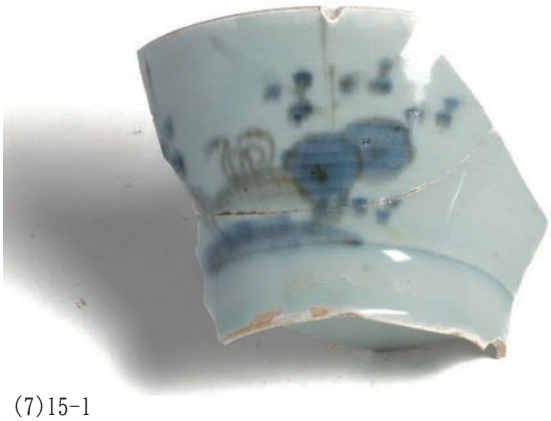
(2)13-5

(3)13-6

(4)13-7

(5)13-8

(6)13-9



(7)15-1

(8)15-2

図版 15　出土遺物

(1)15-3

(2)15-4

(3)15-5

(4)15-6

(5)15-7

(6)15-8

(7)15-9

(8)16-1

図版 16　出土遺物

(1)16-2

(2)16-3

(3)16-4

(4)16-5

(5)16-6

(6)16-7

(7)16-8

(8)16-9

図版 17　出土遺物

(1)16-10

(2)18-1

(3)18-2

(4)18-3

(5)18-4

(6)18-5

(7)18-6

(8)18-7

図版 18　出土遺物

(1)18-8

(2)18-9

(3)19-10

(4)19-11

(5)19-12

(6)19-13

(7)20-14

図版 19　出土遺物

(1)20-15

(2)20-16

(3)20-17

(4)20-18

(5)21-19

(6)21-20

(7)21-21

(8)22-22

図版 20　出土遺物

(1)22-23

(2)22-24

(3)22-25

(4)22-26

(5)23-27

(6)23-28

(7)23-29

図版 21　出土遺物

(1)23-30

(2)24-31

(3)24-32

(4)24-33

(5)24-34

(6)25-35

(7)25-36

(8)25-37

図版 22　出土遺物

(1)25-38

(2)26-39

(3)26-40

(4)26-41

(5)26-42

(6)27-43

(7)27-44

(8)27-45

図版 23　出土遺物

(1)27-46

(2)28-47

(3)27-48

(4)27-49

(5)27-50

(6)27-51

(7)29-52

(8)29-53

図版 24　出土遺物

(1)29-54

(2)29-55

(3)29-56

(4)29-57

(5)29-58

(6)29-59

(7)33-1

(8)33-2

図版 25　出土遺物

(1)34-1

(2)35-1

(3)35-2

(4)36-1

(5)36-2

(6)36-3

(7)36-4

(8)36-5

図版 26　出土遺物

(1)36-6

(2)36-7

(3)36-7

(4)36-8

(5)40-1

(6)40-2

図版 27　出土遺物

(1)39-1

(2)40-1

(3)40-2

(4)40-3

(5)40-4

(6)40-5

(7)40-6

図版 28　出土遺物

(1)40-7

(2)40-8

(3)41-1

(4)41-2

(5)41-3

(6)41-4

(7)41-5

(8)41-6

図版 29　出土遺物

(1)41-7

(2)41-8

(3)41-9

(4)41-10

(5)41-11

(6)41-12

(7)41-13

(8)41-14

図版 30　出土遺物

(1)41-15

(2)41-16

(3)41-17

(5)41-19

(4)41-18

(6)41-20

(7)41-21

図版 31　出土遺物

(1)SD01 攪乱出土遺物

(2)SK04 出土遺物

(3)表土出土遺物

(4)表土出土遺物

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ふくしまじょうあと1 |
| 書名 | 福島城跡1 |
| 副書名 | 市役所新庁舎建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書 |
| 巻次 | 1 |
| シリーズ名 | 八女市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第145集 |
| 編著者名 | 木原　尭 |
| 編集機関 | 八女市教育委員会 |
| 所在地 | 〒834-8585　福岡県八女市本町647 |
| 発行年月日 | 令和7(2025)年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査<br>期間 | 調査<br>面積 | 調査<br>原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡<br>番号 | | | | | |
| ふくしまじょうあと<br>福島城跡 | ふくおかけんやめし<br>福岡県八女市<br>もとまち647ばんち<br>本町647番地 | 402109 | 405004 | 33°12’31” | 130°33’37” | 20211201<br>～<br>20220218 | 18,806㎡<br>のうち<br>約3,480㎡ | その他建設<br>(市役所新庁舎建設) |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 福島城跡 | 城館跡 | 中世<br>近世 | 溝状遺構<br>掘立柱建物<br>井戸、廃棄土坑、柵列 | 土師器、陶磁器、瓦、<br>石製品、ガラスビン | |

| | |
|---|---|
| 要約 | 福島城跡は中世および近世に属する遺跡である。福島城は天正15(1587)年ごろに筑紫広門が築城し、慶長6(1601)年ごろに田中吉政により大改修を受けたが、元和元(1615)年の一国一城令により廃城となった。田中期の堀割は類推されており、堀の確認が期待されたが、調査の結果、未知の堀と思われる溝状遺構が確認された。また、城が機能していた時期の瓦が多量に廃棄されていた廃棄土坑が確認された。 |

福島城跡 1
八女市文化財調査報告書
第 145 集
令和 7 年 3 月 31 日
発行　八女市教育委員会
八女市本町 647
印刷　橋爪印刷
八女市吉田 1899-1